

# 平成27年度 工学部授業予定表

前 期							後 期									
曜日 月	日	月	火	水	木	金	土	曜日 月	日	月	火	水	木	金	土	備 考
4月				1	2	3	4	10月					1	2	3	1日～9日 履修登録期間(後期・後期集中)
	5	6	7	8	9	10	11		4	5	6	7	8	9	10	12日 体育の日 注:13日 月曜日の授業を行う。
	12	13	14	15	16	17	18		11	12	13	14	15	16	17	22日 開学記念日
	19	20	21	22	23	24	25		18	19	20	21	22	23	24	
	26	27	28	29	30				25	26	27	28	29	30	31	
5月					1	2		11月	1	2	3	4	5	6	7	3日 文化の日 6日 臨時休業 6日～8日 大学祭
	3	4	5	6	7	8	9		8	9	10	11	12	13	14	16日～20日 履修取消期間
	10	11	12	13	14	15	16		15	16	17	18	19	20	21	23日 勤労感謝の日 注:26日 月曜日の授業を行う。
	17	18	19	20	21	22	23		22	23	24	25	26	27	28	
	24	25	26	27	28	29	30		29	30						
	31															
6月		1	2	3	4	5	6	12月		1	2	3	4	5		
	7	8	9	10	11	12	13		6	7	8	9	10	11	12	12日 全学統一TOEIC-IP (平成27年度入学生)
	14	15	16	17	18	19	20		13	14	15	16	17	18	19	13日 全学統一TOEIC-IP (平成26年度入学生)
	21	22	23	24	25	26	27		20	21	22	23	24	25	26	23日 天皇誕生日 25日～1月7日 冬季休業 注:25日 冬季休業であるが授業を行う。
	28	29	30						27	28	29	30	31			
7月			1	2	3	4		1月					1	2		1日 元日 注:5日 冬季休業であるが授業を行う。 注:6日 冬季休業であるが授業を行う。 注:7日 冬季休業であるが授業を行う。 11日 成人の日 15日 センター試験実施に伴う 臨時休講 16日・17日 大学入試センター試験
	5	6	7	8	9	10	11		3	4	5	6	7	8	9	
	12	13	14	15	16	17	18		10	11	12	13	14	15	16	
	19	20	21	22	23	24	25		17	18	19	20	21	22	23	
	26	27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30	
									31							
8月							1	2月		1	2	3	4	5	6	
	2	3	4	5	6	7	8		7	8	9	10	11	12	13	11日 建国記念の日 4日、10日、12日 補講日 10日～3月31日 臨時休講
	9	10	11	12	13	14	15		14	15	16	17	18	19	20	25日 一般入試(前期日程)
	16	17	18	19	20	21	22		21	22	23	24	25	26	27	
	23	24	25	26	27	28	29		28	29						
	30	31														
9月			1	2	3	4	5	3月		1	2	3	4	5		
	6	7	8	9	10	11	12		6	7	8	9	10	11	12	12日 一般入試(後期日程)
	13	14	15	16	17	18	19		13	14	15	16	17	18	19	20日 春分の日
	20	21	22	23	24	25	26		20	21	22	23	24	25	26	25日 卒業式
	27	28	29	30					27	28	29	30	31			
前期計	16	16	16	16	16	16		授業週数 (含試験)	後期計	16	16	16	16	16		授業週数 (含試験)

↑ 5月8日を含む  
↑ 5月7日を含む

↑ 10月13日及び11月26日を含む

■ 休業日及び臨時休講を示す。

□ 他の曜日の授業を行う日又は休業日であるが授業を行う日を示す。

〔〕気象警報により休講とした場合の補講日を示す。

※夏季・冬季休業期間中、休業日及び臨時休講日においても専門科目の授業・試験を行なうことがあります。

### 3 教育課程

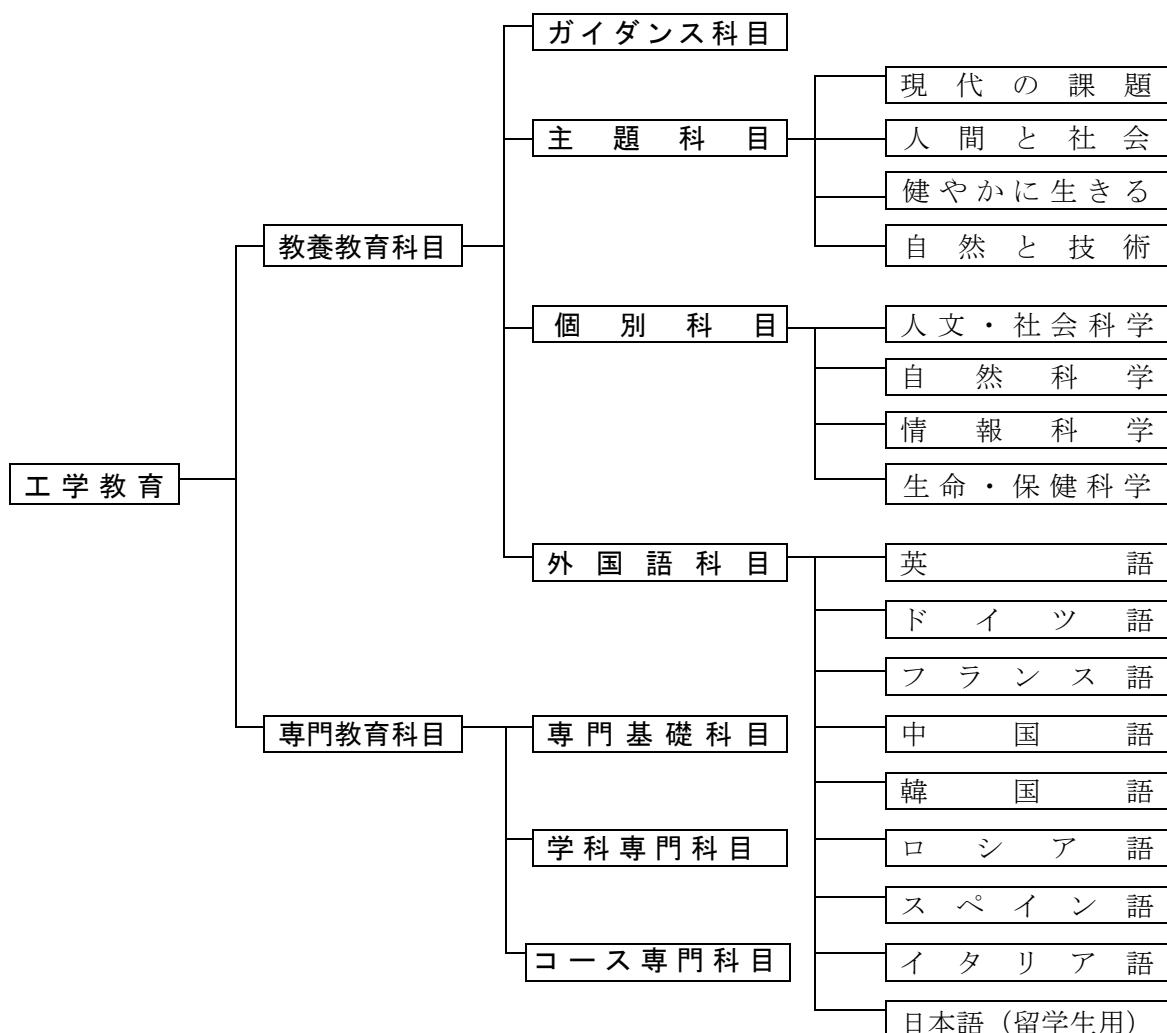
#### (1) 授業科目の区分等

##### ① 教育課程と概要

岡山大学の教育は教養教育と専門教育に大別されます。教養教育は、自らの専門分野に偏ることなく、「幅広い学問領域を選択して学習することにより人間性の涵養を図ること」を基本目標としており、全学部の学生が共通に受ける授業として位置付けられ、4年一貫教育の教育課程の中で、専門教育との有機的・体系的連携に配慮されて、学問の共通の基盤となる知識や技能を獲得するための科目群と人間や社会に対する洞察を深めて幅広い視野から物事を捉え判断する力を養うための科目群で編成されています。

これに対し専門教育は、幅広い教養教育を踏まえた上で、専門分野において活躍できる能力の育成を目指して行われる教育として位置付けられており、工学部においても学部・学科の教育理念に沿った教育を行っています。

#### 教育課程及び科目構成



## 科目の概要

科 目 区 分	概 要								
ガイダンス科目	入学当初に行う大学の教育・研究へのガイダンスとなるもので、各学部・学科独自の特色ある科目です。								
主 題 科 目	<p>教養の中核をなす複数の主題に沿って、知及び人間の存在に関わる基本的な問題を総合的に学習する科目で、次の科目群により構成されています。</p> <table border="1"> <tr> <td><b>現 代 の 課 題</b></td><td> <p>学問の基本をなす原理、方法を明らかにして、「知る」ということと、「考える」ということの意味を考察します。</p> <p>キーワード：原理、方法、発想、論理、真理、自然法則、自然観、世界観</p> </td></tr> <tr> <td><b>人 間 と 社 会</b></td><td> <p>自己とは何か、また他者とどのような関係が成り立つかを探求し、人間相互の関係において形成される社会の仕組みや文化について考察します。</p> <p>キーワード：自己と他者、文化、芸術、宗教、歴史、法、政治、経済、国際関係</p> </td></tr> <tr> <td><b>健 や か に 生 き る</b></td><td> <p>長寿社会を迎えて、心身共に健康を保ちながら、人間社会の相互関係の中でよりよく生きていくあり方について考察します。</p> <p>キーワード：衣食住、生と死、医療、生命倫理、生命科学、保健、スポーツ、福祉</p> </td></tr> <tr> <td><b>自 然 と 技 術</b></td><td> <p>地球環境の仕組みを知り、人間が作り出す技術と自然との共生を図りながら、より安全な生活を実現し、これを持続させる方策について考察します。</p> <p>キーワード：地球環境、科学技術、資源、産業、環境問題、技術と倫理、食料、人口</p> </td></tr> </table>	<b>現 代 の 課 題</b>	<p>学問の基本をなす原理、方法を明らかにして、「知る」ということと、「考える」ということの意味を考察します。</p> <p>キーワード：原理、方法、発想、論理、真理、自然法則、自然観、世界観</p>	<b>人 間 と 社 会</b>	<p>自己とは何か、また他者とどのような関係が成り立つかを探求し、人間相互の関係において形成される社会の仕組みや文化について考察します。</p> <p>キーワード：自己と他者、文化、芸術、宗教、歴史、法、政治、経済、国際関係</p>	<b>健 や か に 生 き る</b>	<p>長寿社会を迎えて、心身共に健康を保ちながら、人間社会の相互関係の中でよりよく生きていくあり方について考察します。</p> <p>キーワード：衣食住、生と死、医療、生命倫理、生命科学、保健、スポーツ、福祉</p>	<b>自 然 と 技 術</b>	<p>地球環境の仕組みを知り、人間が作り出す技術と自然との共生を図りながら、より安全な生活を実現し、これを持続させる方策について考察します。</p> <p>キーワード：地球環境、科学技術、資源、産業、環境問題、技術と倫理、食料、人口</p>
<b>現 代 の 課 題</b>	<p>学問の基本をなす原理、方法を明らかにして、「知る」ということと、「考える」ということの意味を考察します。</p> <p>キーワード：原理、方法、発想、論理、真理、自然法則、自然観、世界観</p>								
<b>人 間 と 社 会</b>	<p>自己とは何か、また他者とどのような関係が成り立つかを探求し、人間相互の関係において形成される社会の仕組みや文化について考察します。</p> <p>キーワード：自己と他者、文化、芸術、宗教、歴史、法、政治、経済、国際関係</p>								
<b>健 や か に 生 き る</b>	<p>長寿社会を迎えて、心身共に健康を保ちながら、人間社会の相互関係の中でよりよく生きていくあり方について考察します。</p> <p>キーワード：衣食住、生と死、医療、生命倫理、生命科学、保健、スポーツ、福祉</p>								
<b>自 然 と 技 術</b>	<p>地球環境の仕組みを知り、人間が作り出す技術と自然との共生を図りながら、より安全な生活を実現し、これを持続させる方策について考察します。</p> <p>キーワード：地球環境、科学技術、資源、産業、環境問題、技術と倫理、食料、人口</p>								
個 別 科 目	<p>個別の学問分野の基礎知識や技能を、非専門の一般化した観点から学びます。</p> <p>人文・社会科学、自然科学、生命・保健科学、情報科学で構成されています。</p> <p><b>補習授業</b></p> <p>自然科学については、新入生を対象に高等学校において数学III、物理、化学、生物の授業の未履修者を対象として、大学教育を円滑にするために前期に補習授業を行っています。</p> <p>補習授業科目は、「修了」の標語をもって単位を授与します。ただし、卒業要件単位としては算入されません。また、G P A制、上限制の対象とはしません。</p>								

科 目 区 分	概 要
外 国 語 科 目	英語及び初修外国語（ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、ロシア語、スペイン語、イタリア語及び※日本語）の運用力を養う科目 ※ 日本語は、外国人留学生を対象に開講している科目 ※ 英語は、次の区分に科目が分かれているので、注意すること。
	<b>総 合 英 語 1</b> ネイティブスピーカーによるスピーキングの授業です。幅広い話題について自分の考えを表現できるスピーキング力を養成します。さらに、専門分野に関連して、会話を発展させ適切な応答や要約を行うことができるようスピーキング演習を行います。
	<b>総 合 英 語 2</b> リーディングの授業です。様々な分野のエッセイや時事問題を扱う英文を用いてリーディング演習を行います。さらに演習を通じて、学術的な語彙や語法を習得します。
	<b>総 合 英 語 3</b> ライティングの授業です。比較、対照、議論、物語などの様々な形式を用いて、構成の整った英文を書く演習を行います。明確で論理的な構成を用いて英文レポートを書く演習を行います。
	<b>総 合 英 語 4</b> リスニングの授業です。身近な話題に関するスピーチや平易な講義を理解するリスニング演習を行います。スクリプトを読み、加えて、それに関連するリーディング教材も利用します。
	<b>総 合 英 語 5</b> 2年次に開講される授業です。4種類の授業（プレゼンテーション、リーディング、ライティング、リスニング）を履修します。 <b>プレ上級英語・上級英語</b> 学力はあるがもう一度英語を学び直したい学生を含め、ステップアップを目指す学生のために発展的な内容を教えることを目的としています。
専 門 基 础 科 目	工学部の学問・研究に必要な基礎学力を形成する科目
学 科 専 門 科 目	学科の専門領域について知識と技術を習得させ、専門技術者としての素養を身に付けさせる科目 ※4年次には、卒業前創成科目として特別研究（卒業研究）があります。創成科目とは、一つの解しか存在しない問題に解答させる教育ではなく、一人一人が問題を発見し、知恵と情報を総動員し、新しい自分自身の解を見いだす訓練を通して、「自らを創成する」ことを目的とした教育で、協同的な環境で学習を進め、「ものづくり」の喜びと、知的成長の充実感を体験する科目です。
コ ー ス 専 門 科 目	コースの専門領域について知識と技術を習得させる科目

## ② 学年と学期（セメスター）

本学では、学習効果の向上を図りつつカリキュラムを柔軟に実施するため、学年を二期（前期、後期）に区分し、一つの授業を学期ごとに完結させるセメスター制を平成7年度から採用し、4年（8セメスター）にわたる一貫教育を行っています。

学 年： 4月1日～3月31日（翌年）

前 期： 4月1日～9月30日

後 期： 10月1日～3月31日

セメスター： 1年次前期を1セメスターとして、4年次後期までの8セメスター

## （2）授業と単位

### ① 授業の方法

授業は、講義、演習、実験、実習のいずれかの方法により又はこれらの併用により行われます。また、授業は、週1回の2時間、セメスター当たり15回を標準として行われます。ただし、授業によっては複数セメスター又は複数授業時間帯にわたって開講される場合や、短期間にまとめて実施される場合〔四半期集中型授業（クオーター制授業）、集中講義〕もあります。

※平成28年度から60分授業・クオーター制が導入されます。詳細は掲示やホームページで確認してください。

### ② 単位の構成

授業科目の1単位当たりの学修は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成されることを標準とし、授業の方法による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数が定められています。

なお、単位は、授業科目を履修し、試験等に合格することにより与えられます。

授業の種類・方法		授業による学修時間	授業以外の学修時間
教養教育科目	講義	15時間	30時間
	演習	15～30時間	30～15時間
	実験	45時間	0時間
	実習	30時間	15時間
専門教育科目	講義、演習	15～30時間	30～15時間
	実験、実習	30～45時間	15～0時間
	特別研究	学修時間は、学科及び指導教授の指導に従う。	

注) 1 通常、講義科目2単位を修得するためには、1回2時間の授業に15回出席（30時間）し、当該授業に関する自学・自習（60時間）を行い、試験等に合格することが必要です。

ただし、2単位の講義科目でも1回4時間で行われるものもあり、この場合は自学・自習時間は30時間となります。

2 セメスター当たりに履修登録する単位数は、自学・自習時間等を勘案し、過剰にならないよう注意することが必要です。このことについて、工学部では履修登録単位の上限を設けています。詳細は、後掲（P. 80 5の(2)の①「履修登録科目単位の上限制」）を参照してください。

### ③ 科目区分

授業科目は、以下のように区分されています。

必 修 科 目	必ず履修して単位を修得しなければならない科目
選 択 科 目	指定された科目群の中から、指定された単位数以上を選択して修得しなければならない科目
教科に関する科目	科目によっては、卒業要件単位とはならないが、教員免許を取得するために、必ず修得しなければならない科目。
教職に関する科目	卒業要件単位とはならないが、教員免許を取得するために、必ず修得しなければならない科目

### (3) 履修計画

大学での勉学は、高等学校までの受け身の学習から問題意識を持った自主的な学習への意識の切り替えが必要とされ、自ら積極的に学ぶ態度で臨んでください。

授業科目は、学科ごとに1～8セメスターまでの学習効果及びバランスを考慮して配置されています。この配置については、「各学科の教育課程編成及び実施の方針・授業科目・履修方法・授業要旨」の項の授業科目表により確認してください。

履修計画は、学科オリエンテーション、学生便覧、授業時間割表、シラバス及び教養教育科目の履修の手引き・授業時間表に基づいて各自が立てることになります。

しかし、履修計画を立てる際には、各セメスター毎に「履修登録科目単位の上限」が設定されており、また、学科の指導を受けなければならない科目等の制約もありますから、必ず各所属学科の教務委員の指導を受けて「しっかりとした履修計画」を立てて、各セメスター毎の学修を大切にしてください。

また、教員免許の取得を考えている場合は、卒業要件外の単位がかなり必要となりますので、綿密に履修計画を立てる必要があります。

### (4) コース分け

各学科を次のコースに分け、2年次の後期開始時にコース分けを行います。また、コース分けの方法は、各自の希望及び2年次前期終了時点までのGPA(※)及び修得した単位数に基づき決定します。

※GPAについては82ページを参照してください。

- ・機械システム系学科：機械工学コース、システム工学コース
- ・電気通信系学科：電気電子工学コース、通信ネットワークコース
- ・情報系学科：計算機工学コース、知能ソフトウェアコース
- ・化学生命系学科：材料・プロセスコース、合成化学コース、生命工学コース

### (5) 進級制度

工学部では、「3年次に開講される実験」及び「4年次に開講される特別研究」を履修するにあたって、履修要件を定めています。一般的には進級制度と呼ばれ、その要件を満たしていないと、3年次又は4年次へ進級することができません。

したがって、必要な単位を修得していないと「留年」となり、4年間では卒業できなくなります。なお、1年次から2年次への進級については、要件単位は定めていません。

履修要件の詳細については、「各学科の教育課程編成及び実施の方針・授業科目・履修方法・授業要旨」の項を参照してください。ただし、履修要件を定めていない科目については、留年しなかった場合の該当年次の開講科目を履修することができます。

## 授業科目・授業要旨

科目名	授業要旨等
機械システム系概論	1セメスター 教養教育科目 必修 1単位 本講義では機械・システム工学の概要を説明する。まず、機械・システム技術者として社会で活躍するために、在学中にどのような素養を育成すべきかについて説明する。次に、環境対応の技術開発の例として鉄鋼と自動車産業など製造設備における機械・システム技術者の役割について説明する。そして、最後に岡山大学機械システム系学科の研究アクティビティーについて紹介する。これらの講義により、学部4年間に修学する授業の重要性について理解を深め、勉学のモティベーションの向上を図る。
電気通信系概論	1セメスター 教養教育科目 必修 1単位 この講義では、電気通信系工学の学問的基礎の導入とこの分野への広い興味を喚起する。具体的には、電気通信系工学に関する基礎的概念とそれに根ざした先端の話題の紹介を通じて、電気通信系工学の重要性を多面的、多角的に学ぶ。
情報系概論	1セメスター 教養教育科目 必修 1単位 工学部で学ぶ者が理解しておくべき情報系の技術の基礎知識について講義するとともに、情報系の各研究分野における先端的な話題を紹介する。本講義により情報系の学問を習得する意義と目的を把握することができる。
化学生命系概論	1セメスター 教養教育科目 必修 1単位 身のまわりの多種多様な有機・無機化合物や生命現象を題材に、その性質やしくみおよびその利用について化学の視点から理解し、工学の中における重要性を学ぶ。さらに生命工学とはどのような境界領域と考えればよいのかを学ぶと同時に最新の研究の意義と重要性を学ぶ。
情報処理入門(情報機器の操作を含む)	1セメスター 教養教育科目 必修 2単位 本講義では工学分野の学習において必須となるコンピュータの操作に関する実用的な能力の獲得を目指す。そのために、MS-Windowsの利用方法を踏まえて、その代表的なアプリケーションであるワードプロセッサ、表計算ソフト、プレゼンテーションツールなどの利用方法を修得する。
微分積分	1セメスター 専門基礎科目 必修 2単位 初等関数の微分積分を中心に講義する。まず、極限の数学的定義を説明し、関数の連続、微分可能性を定義する。次に、さまざまな初等関数の微分法を述べる。その後、リーマンによる定積分の定義を説明し、不定積分、原始関数などを導入したのち、さまざまな初等関数の積分法を述べる。次に、偏微分を説明し、多変数関数について説明する。
線形代数	1セメスター 専門基礎科目 必修 2単位 線形代数は自然科学や社会科学など数学を利用する現代科学の諸分野で基礎的なものであり、工学的な諸問題に幅広く用いられている。この講義では行列とそれを用いた連立1次方程式の解法、行列式の性質、固有値と固有行列、線形ベクトル空間と部分空間などについて述べ、演習によりそれらの諸概念を習得する。
工学基礎実験実習	1セメスター 専門基礎科目 必修 2単位 工学部では座学で得た専門知識を、各系学科で実施される実験・演習において、実際に現象の観測や計算機の利用を通じて体得することが不可欠である。 本講義では、この実験・演習を行う上で最低限知っておくべき実験器具、測定器類、計算機などの扱いや、レポートの作成方法など基礎的な事項を学ぶ。またこれにより、実験・演習の一連の流れを理解することを目的とする。
工学安全教育	2セメスター 専門基礎科目 必修 2単位 本講義では工学部の学生として実験や研究活動における安全確保のために必要な、基礎的な知識の習得、安全推進のための手段の理解と実践能力の獲得を行う。より具体的には、工学一般での、安全の意味と安全工学の基礎、災害や危険の種類と対策、緊急時の対応法、社会への説明責任を学び、その後、機械・システム、電気・通信、情報、化学・生物、の各分野に特徴的な安全対策を学ぶ。
工学倫理	5セメスター 専門基礎科目 必修 2単位 将来、技術者として社会で活躍していくときに、「様々な法令・規則を遵守していれば倫理的に問題がない」とはいえない。技術者の仕事は創造的な作業なので、規則ができたときには想像もつかない事態がおこることがあり、そのときに適切に判断し、社会に対して責任を果たしていくことが求められる。技術者として倫理的に適切な判断ができるようになるために、種々の事例を通して、工学倫理に対する考え方を学ぶ。社会や自然に対する科学技術の影響を理解し、技術者としての責任を自覚することを目的とする。
専門英語	5セメスター 専門基礎科目 必修 2単位 科学技術者には国際的に通用するコミュニケーション能力が求められている。そこで、専門分野に関連した内容の英文を題材に選び、専門用語を含む実践的な単語力の増強、英文の正確な読解、実験で得られた情報の英文での記述、外国人とのコミュニケーション能力などの向上をめざす。4年次に各研究室で特別研究(卒業研究)をおこなうためにも必須の授業である。

## 授業科目・授業要旨

科目名	授業要旨等
技術表現法	6セメスター 専門基礎科目 必修 2単位 わかりやすくしかも説得力のある文章を書き、また発表することは、理科系・文科系を問わず将来必要となるスキルである。本講義では、それぞれの分野でよく使われる文章を題材に選び、よりよい文章や図表の書き方、実験ノートやレポート・論文の書き方、口頭発表などプレゼンテーションの方法に関する基本技術を学ぶ。
物理学基礎1(力学)	2セメスター 専門基礎科目 選択 2単位 力学は、自然現象における物体の運動現象を理解するために必要であり工学分野の基礎となる。本講義では、質点の位置、運動法則、仕事、エネルギー、ポテンシャルについて数学的に記述し、解析するための基礎を学習する。
物理学基礎2(電磁気+電気回路(直流))	2セメスター 専門基礎科目 選択 2単位 モータ、無線通信機器、MRIや加速器など、身近な機器から最先端の科学まで、あらゆるところに電磁気現象が応用されている。本講義では、物理学の基礎として、直流回路理論を活用できるとともに、電磁気学の基礎的な事項である静電界、静磁界、電流がつくる磁界や電磁誘導を大学の数学を用いて理解し、電磁波について理解することを目標として、電磁気学および直流電気回路について、工学への身近な応用を交えて講述する。
化学基礎	2セメスター 専門基礎科目 選択 2単位 大学での専門的な“化学”を学ぶ上で、最も基礎となる概念を修得する。高校までの化学では多くの場合断片的な事柄の集まりとして学んできたが、大学での化学では、相互に関係づけて理解する。主な内容は、①周期表を軸として理解する元素の電子構造、②電子配置の視点から学ぶ化学結合や化合物の化学的・物理的性質、③現代の化学の基盤となる量子化学の基礎、④気体の性質を中心として学ぶ物理化学の基礎。
生物学基礎	2セメスター 専門基礎科目 選択 2単位 本講義では、生命現象の様々な局面を分子レベルで理解し、分子細胞生物学の基礎的知識を習得する。工学部における一般的な教養として、また専門科目への導入部としての生物学の基礎的な部分について講義を行う。具体的には、生体分子、細胞および生物体の構造と働きについて講述する。
プログラミング	2セメスター 専門基礎科目 選択 2単位 C言語の基本的な文法の解説と実際のプログラム作成を通してプログラミングの面白さを体験する。またプログラミングに関わるツールの利用方法も学び、それらを活用した実際的なプログラム開発の基礎を体験する。
確率統計	2セメスター 専門基礎科目 選択 2単位 確率と統計に関する基礎知識を与えることを目的とする。 本講義では、確率・統計の基礎概念、データ整理、確率・確率分布の基礎、母集団と標本の考え方、標本分布、推定と検定の基礎などについて講述する。
微分方程式	2セメスター 専門基礎科目 選択 2単位 自然法則は微分方程式の形で記述されるものが多い。また、工学のさまざまな分野における現象の記述や設計・解析の数学的手段として、微分方程式がしばしば用いられる。授業では、このような微分方程式のうち、常微分方程式についてその数学的意味や解析的解法を述べ、工学における応用についても触れる。講義の後には演習を行い、理解を深め問題解決能力と応用力がつくように授業を進める。

# 機械システム系学科の教育課程編成・実施の方針

機械システム系学科は、前述の機械システム系学科ディプロマポリシーに掲げる学士力が身につくことを目標とし、以下のカリキュラムポリシーに述べる基本方針に従って教育課程を編成し、教育を実施します。

## 機械システム系学科カリキュラムポリシー

機械システム系学科では、環境や人間に優しく安全な機械を実現するための技術開発を行ったり、機械システムを設計、管理、運用したり、また、機械やシステムを用いたサービスの創成と発展を行ったりできるような、課題探求能力およびデザイン能力に優れ、高い倫理観を持って国際的に活躍できる技術者の育成を目的としています。このため、機械工学やシステム工学の基礎的な知識や技術に加えて、高度で先進的な研究活動に基づいた広範な視野、良識と倫理観、機械の原理とシステム化の原則、機械要素、機械装置、ロボット、システムや、それらを使ったモノやサービスを創りだすプロセスを学ぶことができる専門教育科目のカリキュラムを策定しています。

機械システム系学科では、1年次には、教養教育科目、専門基礎科目の習得を通じて、数学、物理学、情報処理等に関する基礎学力を高めていきます。2年次には、教養教育科目、専門基礎科目に加えて、機械工学とシステム工学の基礎の確実な習得とコース専門科目を学ぶために必要不可欠な基礎のさらなる充実を目指します。広範囲な分野の専門的技術を学生の興味に応じて系統的に習得できるように、機械工学コース、システム工学コースを設定し、2年後期にコース振り分けを実施します。3年次には、これまでに習得した基礎科目を応用する能力を、機械工学コースでは、材料工学、設計工学、精密加工学、伝熱工学などに関する科目により、システム工学コースでは、生産システム工学、管理工学、安全工学、ロボット工学、制御工学などに関する専門科目により、養成します。4年次には、コース毎に学生を研究室に配属し、機械工学、システム工学分野の最新のテーマに取り組むことによって、これまでに習得した知識を実践的問題に応用して、実験等を計画し、結果を解析し、それを工学的に考察する能力を養成します。すなわち、問題解決・デザイン能力を育成し、技術者として必要不可欠になる基礎を身につけます。

## 多面的に考える素養と能力【教養1】

自然科学だけでなく人文科学に関する幅広い教養教育科目により、多面的な視点と社会的な良識を持って考える能力を育成します。

## 技術者倫理【教養2】

「工学倫理」、「工学安全教育」や実習科目により、技術が社会や自然に及ぼす影響や効果ならびに技術者が社会に対して負っている責任を理解し、技術者倫理について考える能力を育成するとともに、安全に関する意識を高めます。

## 論理的基礎知識と応用能力【専門性1】

数学、物理、情報処理、および自然科学一般に関する科目によって、工学の基礎や自然界の法則を理解し、機械工学・システム工学の基礎となる知識を身につけ、工学上の問題解決に活用する基礎能力を養成します。

## 機械システムを創る基礎知識と応用能力【専門性2-1】

機械工学、システム工学の基礎となる材料力学、熱力学、流体力学や、制御、機械工作についての基礎知識を身につけ、機械の設計・開発・製造に関する基礎的能力を育成します。

## 機械システムを総合的に開発する専門知識と応用能力【専門性2-2】

製品を設計、開発、製造するために必要な、材料、設計、加工、伝熱、計測、ロボット、電子回路の知識を身につけ、製図、CADを用いて設計し実現する能力を養成します。

### **機械システムを維持・発展させる専門知識と応用能力【専門性2-3】**

製品、システムを安全に維持、管理するために必要な、機械設計、内燃機関、生産システム、信頼性の知識や、機械システムやロボットをさらに発展させて、人間との融合を図るために必要な知識を身につけ、それらの知識を応用する能力を養成します。

### **社会の要求に応えるデザイン能力【情報力】**

創成科目、「特別研究」や専門選択科目により、実験等を計画し、結果を解析し、それを工学的に考察する能力を養うとともに、技術者として自分で課題を発見し、解決するエンジニアリングデザイン能力を養成します。

### **コミュニケーション能力【行動力1】**

技術文書や学術論文の執筆能力や日本語でのコミュニケーション能力を高め、英語の技術文献や学術論文を読んだり、英語でプレゼンテーションを行ったりするための基礎的能力を育成します。

### **仕事の立案遂行および総括能力【行動力2】**

講義、実験、演習、特別研究を通じて、工学の基礎、機械工学・システム工学の基礎となる知識を身に付けた上で、工学上の問題解決のため、それらを活用する企画能力と実行力を養成し、結果をまとめ上げる能力を養成します。

### **自主的、継続的な学習能力【自己実現力】**

体系的なカリキュラムにより4年間で系統的に習得した、機械システム工学に関する広範囲な分野の専門的技術を基礎として、常に進展する先端的な技術を自主的・継続的に学習して、自分の仕事に生かすことができる能力を育成します。

### **その他**

機械システム系学科では、広範囲な分野の専門的技術を学生の興味に応じて系統的に習得できるように、「機械工学コース」と「システム工学コース」の2コースを設定しています。各コースでは、上記の学科教育目標に加えて、それぞれ以下のようないくつかの教育目標に従った教育を実践します。

### **機械工学コース**

材料工学、材料力学、設計工学、精密加工学に関する専門科目により、機械の設計・開発・製造に関する基礎的能力を育成します。

流体力学、熱力学、伝熱工学や計測工学に関する専門科目により、エネルギーの効率的な利用や環境適合化に関する基礎的能力を育成します。

「創成プロジェクト」、「特別研究」や専門選択科目により、モノづくりの革新を目指して、機械を開発し発展させる能力を育成します。

### **システム工学コース**

生産システム工学、管理工学、安全工学に関する専門科目により、システムの運用・管理や知的システムの開発・運用に関する基礎的能力を育成します。

ロボット工学、制御工学や電子工学に関する専門科目により、ロボットやメカトロニクスシステムの設計、制御に関する基礎的能力を育成します。

「工学総合」、「特別研究」や専門選択科目により、人と機械の調和について考え、システムを総合的に開発する能力を育成します。

機械システム系学科（機械工学コース・システム工学コース）平成27年度入学生用(2016年4月1日以降) [2016.3.14版]

コース名	科目区分	授業科目名	開講セメスター		1科目の単位数	平成28年度開講科目(読み替え科目)	開講学期								1科目の単位数	履修要件	卒業要件単位				
			1年次				2年次				3年次			4年次							
			1期	2期			1学期	2学期	3学期	4学期	1学期	2学期	3学期	4学期	1学期	2学期					
教養教育科目	必修科目	ガイダンス科目	機械システム系概論	○	1	機械システム系概論											0.5	4			
			電気通信系概論	○	1	電気通信系概論											0.5				
			情報系概論	○	1	情報系概論											0.5				
			化学生命系概論	○	1	化学生命系概論											0.5				
		外国語 英語	総合英語1	○	1	英語コミュニケーション1											0.5	留学生について では必修外国語科目を個別に 指定する			
			総合英語2	○	1	英語コミュニケーション2											0.5				
			総合英語3	○	1	英語コミュニケーション3											0.5				
			総合英語4	○	1	英語コミュニケーション1											0.5				
			総合英語5		1	英語コミュニケーション5	○										0.5				
		個別科目 情報科学	情報処理入門 (情報機器の操作を含む)	○	2	英語コミュニケーション6	○										0.5	留学生は個別 指定			
						情報処理入門1										1					
						情報処理入門2										1					
	教養教育科目	主題科目	現代の課題 「現代の課題」グループ科目	○ ○	2	知的理 解	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○										18				
			人間と社会 「人間と社会」グループ科目	○ ○			○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○														
			健やかに生きる 「健やかに生きる」グループ科目	○ ○			○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○														
			自然と技術 「自然と技術」グループ科目	○ ○			○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○														
		個別科目	人文・社会科学 人文・社会科学系科目	○ ○	2	実践知・感性	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○														
			自然科学 自然科学系科目	○ ○	2注1)		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○														
			健康・スポーツ科学 健康・スポーツ科学	○ ○	2		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○														
			するスポーツ演習 するスポーツ演習	○ ○	2		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○														
			みるスポーツ演習 みるスポーツ演習																		
			支えるスポーツ演習 支えるスポーツ演習																		
	選択科目	英語	プレ上級英語	○ ○	2	プレ上級英語	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○										4単位以上				
			上級英語	○ ○	2	上級英語	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○														
			英語特別演習1		2	英語特別演習1															
			英語特別演習2		2	英語特別演習2															
		ドイツ語	ドイツ語初級	○ ○	2	ドイツ語初級															
			ドイツ語中級		2	ドイツ語中級	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○														
		フランス語	フランス語初級	○ ○	2	フランス語初級															
			フランス語中級		2	フランス語中級	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○														
		中国語	中国語初級	○ ○	2	中国語初級															
			中国語中級		2	中国語中級	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○														
		韓国語	韓国語初級	○ ○	2	韓国語初級															
			韓国語中級		2	韓国語中級	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○														
		ロシア語	ロシア語初級		2	ロシア語初級															
			ロシア語中級		2	ロシア語中級															
		スペイン語	スペイン語初級		2	スペイン語初級															
			スペイン語中級		2	スペイン語中級															
		イタリア語	イタリア語初級		2	イタリア語初級															
			イタリア語中級		2	イタリア語中級															
		日本語	日本語 (書くA、読むA、聞くA、話すA, 書くB、読むB、聞くB、話すB)	○ ○	2	日本語 (書くA、読むA、聞くA、話すA, 書くB、読むB、聞くB、話すB)	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○									留学生用					

教養教育科目 計

32

注1) 自然科学系科目には、1単位の開講科目もあります。

機械システム系学科（機械工学コース・システム工学コース）平成27年度入学生用(2016年4月1日以降) [2016.3.14版]

コ ー ス 名	科 目 区 分	授業科目名	開講セメスター		1科 目の 単位 数	平成28年度 開講科目 (読み替え科目)	開講学期								1科 目の 単位 数	履修要件	卒業 要件 単位					
			1年次				2年次				3年次											
			1期	2期			1 学 期	2 学 期	3 学 期	4 学 期	1 学 期	2 学 期	3 学 期	4 学 期								
コ ー ス ス 共 通 教 育 科 目	専 門 基 礎 科 目	必 修	微分積分	○	2	微分積分1				/						1	14	*				
			線形代数	○	2	線形代数1				/						1		*				
			工学基礎実験実習(学科別)	○	2	工学基礎実験実習(学科別)				/						2		*				
			工学安全教育(共通+学科別)	○	2	工学安全教育(共通+学科別)				/						2		*				
			工学倫理		2	工学倫理			○	/						2		*				
			専門英語		2	専門英語			○	/						2		*				
			技術表現法		2	技術表現法			/	○						2		*				
		選 択	物理学基礎1(力学)	◎	2	物理学基礎(力学)1										1	8	*				
			物理学基礎2(電磁気+電気回路(直流))	◎	2	物理学基礎(電磁気学)1										1		*				
			化学基礎	○	2	化学基礎										2		*				
			生物学基礎	○	2	生物学基礎1										1		*				
			プログラミング	◎	2	プログラミング1										1		*				
			確率統計	◎	2	確率統計1										1		*				
			微分方程式	◎	2	確率統計2										1		*				
			フーリエ・ラプラス変換		2	フーリエ・ラプラス変換	○			/						2	38	*				
			ベクトル・複素解析		2	ベクトル・複素解析	○			/						2		*				
			機械工作実習I		1	機械工作実習 I	○			/						1		*				
			機械工作実習II		1	機械工作実習 II		○		/						1		*				
			基本機械システム製図		2	基本機械システム製図	○			/						2		*				
		必 修	振動工学		2	振動工学			○	/						2		*				
			材料力学 I		2	材料力学 I	○			/						2		*				
			機械工作法		2	機械工作法	○			/						2		*				
			熱力学 I		2	熱力学 I	○			/						2		*				
			流体力学 I		2	流体力学 I			○	/						2		*				
			電子回路		2	電子回路	○			/						2		*				
			基礎制御理論		2	システム制御 I		○		/						2		*				
			機械システム工学セミナー I		1	機械システム工学セミナー I			○	/						1		*				
			機械システム工学セミナー II		1	機械システム工学セミナー II				○						1		*				
			機械システム工学総合実習											○		4		*				
			特別研究		10	特別研究				/				○		10		*				
		選 択	偏微分方程式		2	重積分	○									1	8	*				
			工業力学		2	工業力学		○								2		*				
			機械加工学		2	機械加工学			○							2		*				
			生産システム知能化論		2	生産システム学				○						2		*				
			計測工学		2	計測工学				○						2		*				
			基礎ロボット制御		2	ロボティクス基礎				○						1		*				
			インターンシップ		2	インターンシップ				○						2		*				

注) 3期以降の開講時期は変更となる場合があります

※は、H28年度入学生と単位数が異なる科目

◎は推奨科目  
8単位を超えて修得した単位はコース専門科目の選択科目(機械工学コースは選択B)の単位として認める

8

機械システム系学科（機械工学コース・システム工学コース）平成27年度入学生用(2016年4月1日以降) [2016.3.14版]

コース名	科目区分	授業科目名	開講セメスター 1年次 1期	1科 目の 単位 数	平成28年度 開講科目 (読み替え科目)	開講学期								1科 目の 単位 数	履修要件	卒業 要件 単位				
						2年次				3年次										
						1 学 期	2 学 期	3 学 期	4 学 期	1 学 期	2 学 期	3 学 期	4 学 期	1 学 期	2 学 期	3 学 期	4 学 期			
機械工学コース	必修	創成プロジェクト		2	創成プロジェクト		○	/								2	A 14単位以上	9 * * * *		
		創造工学実験		3	創造工学実験 I			○	/								2			
		創造工学実験 II							/	○							3			
		機械工学英語1		2					/	○							1			
		機械工学英語2							/	○							1			
	選択	材料工学入門		2	材料工学		○										2	B 8単位を超えて修得した専門基礎科目(選択)、および8単位を超えて修得した学科専門科目(選択)の単位を含める	15 * * * * * * * * *	
		材料力学 II		2	材料力学 II		○										2			
		熱力学 II		2	熱力学 II			○									2			
		機械設計学		2	機械設計学				○								2			
		伝熱学		2	伝熱学					○							2			
		流体力学 II		2	流体力学 II					○							2			
		機械設計製図		2	機械設計製図					○							2			
		機構学		2	機構学			○									2			
		特殊加工学		2	特殊加工学				○								2			
		CAD		2	CAD					○							1			
専門教育科目	必修	数値計算法		2	数値計算法					○							1	8単位を超えて修得した専門基礎科目(選択)、および8単位を超えて修得した学科専門科目(選択)の単位を含める	7 * * * * * * * * *	
		材料応用学		2	材料応用学					○							1			
		塑性工学		2	塑性工学					○							1			
		エネルギー工学		2	エネルギー工学				○								1			
		潜熱移動学		2	潜熱移動学					○							1			
		生体計測学		2	認知神経科学入門					○							1			
		システム工学実験		2	システム工学総合 I			○	/								1.5			
		ロボット工学実験		3	システム工学総合 II			/	○								3			
		システム工学演習						/	○								0.5			
		工学実践英語 I						/	○								1			
		工学実践英語 II						/	/	○							1			
システム工学コース	選択	ロボット機構学		2	ロボット機構学				○								1	8単位を超えて修得した専門基礎科目(選択)、および8単位を超えて修得した学科専門科目(選択)の単位を含める	17 * * * * * * * * * * * * * * * *	
		画像認識学		2	画像センシング				○								1			
		システムCAD		2	システムCAD		○										1			
		生産システム情報学		2	オペレーションズ・リサーチ I				○								1			
					オペレーションズ・リサーチ II					○							1			
		知能ロボット運用論		2	知能ロボット運用論					○							1			
		デジタル電子回路		2	デジタル電子回路		○										2			
		ロボットダイナミクス		2	ロボットダイナミクス					○							2			
		システム信頼性工学		2	システム信頼性工学				○								2			
		システム保全性工学		2	システム保全性工学					○							1			
		最適制御学		2	システム制御 II				○								1			
		インターフェイス設計学		2	インターフェイス設計学					○							1			
		生産管理学		2	オペレーションズ・リサーチ III					○							1			
		知的制御システム論		2	知的制御システム					○							1			
		認知工学		2	認知工学				○								2			
		ロボット設計論		2	ロボット設計論					○							1			
		知能ロボット学		2	知能ロボット学					○							1			
		福祉機械工学		2	極限ロボット工学					○							1			
		メカトロニクス基礎論		2	メカトロニクス基礎論 I				○								1			
					メカトロニクス基礎論 II				○								1			
					エネルギー環境システム基礎論					○							1			
専門教育科目 計																	92			
合 計																	124			

注) 3期以降の開講時期は変更となる場合があります

※は、H28年度入学生と単位数が異なる科目

## 機械システム系学科卒業要件単位数 平成27年度入学生用(2016年4月1日以降) [2016.3.14版]

科目区分	履修要件		卒業要件単位
ガイダンス科目	必修 4単位	1年次	
主題科目	(注)機械システム系学科の教員が担当する主題科目の「社会生活と材料工学」、「機械のしくみ」は履修してはいけない。(開講科目名が変更される場合があります。シラバスで履修の可否を確認してください。)		
個別科目	人文・社会科学		
	自然科学	教養物理学(A, B, I, II), 教養解析数理科学, 教養線型数理科学, 教養物理学実験, 統計学入門を除いた科目を修得すること。 (注)原則として、2年次までに履修することが望ましい。	
	情報科学	必修 2単位	
	生命・保健科学		
教養教育科目	英語	総合英語1~4の計4単位, 総合英語5(プレゼンテーション, リーディング, ライティング, リスニング)は必修 上級英語, 英語特別演習および初修外国語科目のうちから2授業科目4単位以上を修得すること  (注)留学生については、履修外国語科目を個別に指定する。 日本語検定1級程度の実力がなければ日本語を履修する。	3 2 単位
	ドイツ語		
外国语	フランス語		
	中国語		
	韓国語		
	ロシア語		
	スペイン語		
	イタリア語		
専門教育科目	専門基礎科目	必修 14単位 選択 8単位 (注)8単位を超えて修得した選択科目の単位は、コース専門科目の選択科目(機械工学コースは選択B)の単位となる。	2 2 単位
	学科専門科目	必修 38単位 選択 8単位 (注)12単位を超えて修得した選択科目の単位は、コース専門科目の選択科目(機械工学コースは選択B)の単位となる。	4 6 単位
機械工学コース専門科目	必修 9単位 選択 15単位(システム工学コース専門科目を6単位まで認める) (機械工学コース選択Aから14単位以上を選択し、かつ合計で15単位以上修得すること)		2 4 単位
システム工学コース専門科目	必修 7単位 選択 17単位(機械工学コース専門科目を6単位まで認める)		
	合計		1 2 4 単位

### 3年次実験履修要件

#### [機械工学コース:創造工学実験I,II, システム工学コース:システム工学総合I,II, システム工学演習]

(履修する年度の前年度末時点で、2年以上在学しているとともに以下の基準の全てを満たすこと。ただし、この要件は3年次編入学生には適用しない。)

- ① 卒業要件単位の総修得単位数が、60単位以上であること。
- ② 所属しているコースにより、以下の要件を満たすこと  
 機械工学コース: 専門基礎科目の工学基礎実験実習、学科専門科目の機械工作実習I, IIと基本機械システム製図、  
 コース専門科目の創成プロジェクトの単位を修得済みであること。  
 システム工学コース: 教養教育科目的情報処理入門、専門基礎科目的工学基礎実験実習、学科専門科目的  
 機械工作実習I, IIの単位を修得済みであること。

### 特別研究申請要件

(申請する年度の前年度末時点で、3年以上(3年次編入生は1年以上)在学しているとともに以下の基準の全てを満たすこと。)

- ① 教養教育科目のすべての卒業要件単位(32単位)を修得済みであること。
- ② 卒業要件単位の総修得単位数が、102単位以上(ただし、3年次編入生は98単位以上)であること。
- ③ 所属しているコースにより、以下の要件を満たすこと  
 機械工学コース: 創造工学実験I, IIの単位を修得済みで、かつ3年次までに配当されたすべての必修科目と  
 機械工学コース専門科目選択Aの未修得単位の合計が8単位以下であること。  
 システム工学コース: システム工学総合I, II, システム工学演習、基本機械システム製図の単位を修得済みで、かつ  
 3年次までに配当された専門教育科目的必修科目の未修得単位が8単位以下であること。

### 他学部、他学科履修について

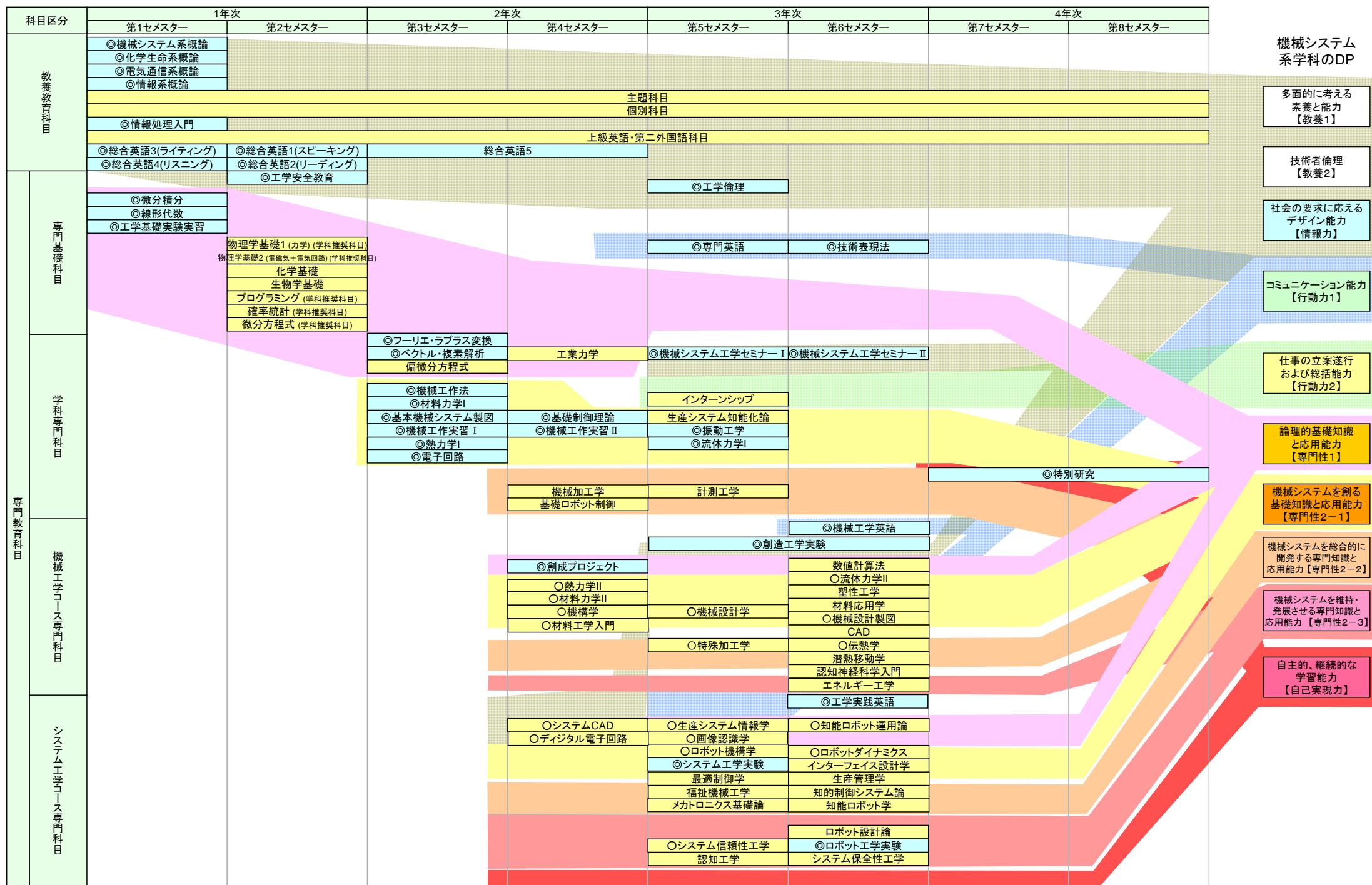
- ① 他学部、他学科の科目を履修した場合は、通常で6単位を限度としてコース専門科目の選択科目(機械工学コースは選択B)として取り扱う。  
 ただし、教員免許に係る「教科に関する科目」及び「教職に関する科目」は卒業要件外科目として取り扱う。
- ② 全学開放の専門教育科目のうち、工学部の他学科の科目を履修した場合は、コース専門科目の選択科目(機械工学コースは選択B)として取り扱う。
- ③ 他学部、他学科の専門教育科目を履修する場合は、必ず学科の承認を得て履修すること。

### 中国・四国国立大学工学系学部間単位互換科目履修について

- ① 中国・四国国立大学工学系学部間単位互換の科目を履修した場合は、6単位までコース専門科目の選択科目(機械工学コースは選択B)として取り扱う。
- ② 中国・四国国立大学工学系学部間単位互換を履修する場合は、必ず学科の承認を得て履修すること。
- ③ 詳細は、単位互換科目履修案内を参照のこと。

## カリキュラムマップ (機械システム系学科)

◎必修科目	選択科目
-------	------



## 授業科目・授業要旨

科目名	授業要旨等
フーリエ・ラプラス変換	3セメスター 学科専門科目 必修 2単位 機械工学の高度な学問の修得にあたって、フーリエ解析・ラプラス変換は必須な土台を提供する基礎学問である。空間・時間のスペクトル分解により、種々な現象へアプローチする方法を学ぶことを目的とする。有限区間で与えられた関数はフーリエ級数展開が、無限区間で与えられた関数は、フーリエ変換を行うことが可能である。またラプラス変換は制御理論の基礎となる。これらのこととを系統的に学び、かつ、演習を通して実践的な数学を教授する。
ベクトル・複素解析	3セメスター 学科専門科目 必修 2単位 力学、制御理論や流体力学などの講義で必要なベクトル解析、複素解析の基礎的な内容を解説する。ベクトル解析ではベクトル代数、ベクトルの微分・積分、勾配、発散、回転などの演算の説明など。複素解析では複素数の導入から始まり、複素変数の初等関数、級数の収束などを説明する。
機械工作実習I	3セメスター 学科専門科目 必修 1単位 工作機械を使用して金属部品を精度よく加工する方法を実際に自分で機械を動かして体得することを目的としている。旋盤作業、フライス盤作業、切断・溶接作業、NCプログラミングとNC工作機械操作の基礎を学ぶ。
機械工作実習II	4セメスター 学科専門科目 必修 1単位 3セメスターの機械工作実習 I で修得した各工作機械の基本操作を基に、各コースで定められた数部品からなる機械（ジャイロスコープ、あるいは競技ロボット等）を作製し、機械工作によるモノの製作を体得する。
基本機械システム製図	3セメスター 学科専門科目 必修 2単位 機械システムを製造するには必ず設計草案を図面化し、設計図、製作図を作成しなければならない。本講義では設計図、製作図作成に要求されるJIS機械製図法の基礎知識を学ぶ。また手書きによる製図を行うことで機械製図の基礎能力を養うとともに、現在主流のCAD (Computer Aided Design)を用いた機械製図を実習する。
振動工学	5セメスター 学科専門科目 必修 2単位 現実のあらゆる機械は振動を避けることはできず、その防止、低減、および原因究明が設計上の大問題となる。また、振動は、自動車、工作機械やロボット等、機械システムの設計、制御を行うにあたり必須の基礎知識でもある。振動工学では、一自由度の線形振動を中心に、振動問題の基礎概念と解析手法について学ぶ。
材料力学 I	3セメスター 学科専門科目 必修 2単位 本講義では、様々な機器を設計する上で重要な材料の力学的状態についてその基礎を学ぶ。主な内容は、応力とひずみ、弾性係数、棒の引張、熱応力、主応力、はりの曲げであり、これらを理解することにより、材料に力や変位を与えたときの変形状態を知ることができるようになる。
機械工作法	3セメスター 学科専門科目 必修 2卖位 材料を所望の形状・寸法に工業的方法で加工することが機械工作法であり、早く安く良い品質のものを作ることを最終目的としている。講義では、機械工作法のうち除去加工法(切削、研削)ならびに非除去加工法(溶接、プレス)の原理・原則をまず学び、機械工作法の最終目的を達成するためには、どのような機械工作技術の高度化が必要であるかについて基本的な考え方を習得させる。
熱力学 I	3セメスター 学科専門科目 必修 2単位 熱力学は、工業力学、流体力学、材料力学などとともに機械工学の基礎となる「力学」の一つである。熱力学 I では、熱エネルギーも含めたエネルギー保存則、物質の状態変化と仕事、熱～力学系エネルギー変換、状態式、エントロピー、熱力学一般関係式、ガスサイクル論などについて講述する。
流体力学 I	5セメスター 学科専門科目 必修 2単位 流体の持つ物理的性質、流体の運動や流体中の物体に働く力等について説明する。本講義では流体力学の一般論を説明した後、流体の持つ粘性を無視した取り扱いを行い、流体運動の数学的記述法、流体運動の力学的性質、運動量の保存則、2次元ポテンシャル流等について詳しく述べる。 [備考] 流体力学の学習には数学が必須である。数学関連の科目は、必ず学習することが要求される。
電子回路	3セメスター 学科専門科目 必修 2単位 機械やシステムを運転、制御するための電気・電子回路の基礎を学ぶ。まず、直流回路や交流回路の動作を解析するための基礎手法を学ぶ。そして、抵抗、コンデンサ、ダイオード、トランジスタ、FETなど主要な電子回路部品の特件と使用法について習熟し、フィルタ回路、ダイオード回路、トランジスタ基本回路や小信号増幅回路を学ぶ。また、計測回路などで用いられるOPアンプの特性とOPアンプ回路について学ぶ。
基礎制御理論	4セメスター 学科専門科目 必修 2単位 ロボットや各種機械システムを設計し、効率よく運用するためには、適切な制御理論の導入が不可欠である。本講義では、制御技術の基礎概念を説明した後、伝達関数法に基づいた古典制御理論の基礎である、過渡応答、周波数応答、定常特性、制御系の安定性、特性補償法などについて学習する。
機械システム工学セミナー I	5セメスター 学科専門科目 必修 1単位 学外からの講師を招いて、大学の講義では聞くことのできない社会や企業の最近の動向、工学の現場のトピックス、技術者・研究者としての体験等を語ってもらう。機械工学やシステム工学に対する視野を広め、職業としての機械技術者には世の中でいかなることが要求されるか等を各自考え、今後の授業・研究や進路等に役立てる。

## 授業科目・授業要旨

科目名	授業要旨等
機械システム工学セミナーⅡ	6セメスター 学科専門科目 必修 1単位 学外からの講師を招いて、大学の講義では聞くことのできない社会や企業の最近の動向、工学の現場のトピック、技術者・研究者としての体験等を語ってもらう。機械工学やシステム工学に対する視野を広め、職業としての機械技術者には世の中でいかなることが要求されるか等を各自考え、今後の授業・研究や進路等に役立たせる。
特別研究	7・8セメスター 学科専門科目 必修 10単位 3年以上在学して特別研究申請要件を満たす者は、学科内のいずれかの研究室に配属されて各研究室教員による指導を受ける。これまでに学んだ基礎学力を生かして、最先端の研究課題または設計課題に取り組み、研究の計画と進め方、成果のまとめや発表など機械システム技術者としての総合的な教育を受け、社会人になる自覚と素養を身につける。 各指導教員の下で、具体的なテーマで特別研究に取り組む。これにより、単なる習得ではなく、社会的・技術的な視野の育成と課題形成能力および問題解決能力、技術的な文章表現およびコミュニケーション能力や発表の技術を身につける。また、海外の論文を原語で読むことにより、国際的に活躍するための下地を養う。 備考:システム工学コースでは、原則としてTOEIC450点以上が必要である。
偏微分方程式	3セメスター 学科専門科目 選択 2単位 機械システム系学科の専門授業科目や数値計算の基礎となる偏微分と重積分に関する内容の授業を行う。まず、様々な座標系での偏微分方程式の誘導や変換を理解した後、波動方程式や拡散方程式について講義する。また、重積分の概念と計算方法について述べ、多変数関数の微分と積分の統合的な理解能力を養う。
工業力学	4セメスター 学科専門科目 選択 2単位 物理学基礎1(力学)の知識に基づき、剛体の力学を講義する。最初、剛体に働く力とそのつり合いの説明を行う。加えて、重心の定義を説明し、剛体の並進運動、回転運動について説明する。次に、剛体の定義を行い、慣性モーメントの計算法を述べ、それに基づいて、簡単な形状の剛体の運動に関する計算法を説明し、機械工学やシステム工学で実際に用いられる要素の解析のための基礎的な知識を与える。
機械加工学	4セメスター 学科専門科目 選択 2単位 「機械工作法」の授業内容を基礎にして、本講義では高精度加工に不可欠な切削加工と研削加工技術の要素である切削・研削理論、切削・研削工具、被削性などについて学ぶとともに、最近発展しつつある研削技術についてもその基本的な考え方を講義する。さらに、砥粒を用いる研磨加工の原理、手法などについて講義する。
生産システム知能化論	5セメスター 学科専門科目 選択 2単位 生物は、あいまい情報からなる環境下においても、脳や種の多様性などを通じ、環境をうまく処理することができる。この点に注目して発展した考え方を、近年ソフトコンピューティングと呼ぶ。本講義では、遺伝的アルゴリズムについて学び、ソフトコンピューティングへの理解を深める。また、プロジェクト管理で重要なPERT手法などについても学ぶ。
計測工学	5セメスター 学科専門科目 選択 2単位 機械工学における計測の意味を知り、正しい計測を行う上で基本的な考え方とそのための基礎となる知識を身につけることを目的とする。単位系、次元解析、測定方式、測定器の特性、測定誤差などについて講述する。この授業で得た知識は、実験計画とデータ整理、ならびにあらゆる測定の基礎となる。
基礎ロボット制御	4セメスター 学科専門科目 選択 2単位 ロボットに複雑な運動を正確に実行させるためには、計算機を用いた知能的な制御手法の導入が必要である。本講義では、位置制御、力制御、コンプライアンス制御などのロボット制御法ならびにロボットの性能を向上させるために有効と考えられる種々の先端的制御手法について学習する。
インターンシップ	5セメスター 学科専門科目 選択 2単位 技術者を目指す上で大学の講義は基礎的専門知識を学ぶために重要であるが、実社会における物づくりの実際を体験することで、大学で習得した専門知識の活用を図る。また技術者としての心構え・姿勢についても自ら考え、今後の勉学の向上に役立たせることを目的として、企業での2週間程度の実習を行う。 [備考]夏休みに実習を実施。上限制単位には算入しない。

## 授業科目・授業要旨

科目名	授業要旨等
創成プロジェクト	4セメスター 機械工学コース 必修 2単位 問題発見・解決能力=「問題を独自に発見し、その解決策が創成できる能力」は、技術者として最低限必要な資質である。創成プロジェクトでは、問題解決のための思考訓練と少人数チーム活動によるストローの斜塔や「現代版からくり」コンテストなどをとおして、情報の収集・整理さらに具体的な創成プロセスを経験することで、問題発見・解決能力を養成する。
創造工学実験	5・6セメスター 機械工学コース 必修 3単位 機械技術者として解析のために必要なデータを的確に取得する能力を身につけることは必要不可欠である。この授業では、機械工学について学んだ内容に関して設定された各実験テーマについて、課題に基づいて自ら考えて実験内容を設定し、行うことで実験の過程および結果の解析を体験することを目的としている。実験テーマは、機械工学全般にわたる主要な内容について設定している。 [備考] 通年で修得することで3単位とする。上限制単位には5セメスターに1単位、6セメスターに2単位算入する。各実験ごとに担当教員の指示に従い、安全に実験を行うこと。
機械工学英語	6セメスター 機械工学コース 必修 2単位 技術者には国際的に通用するコミュニケーション能力が求められている。そこで本講義では、機械工学に関する文章表現や専門用語を学び、様々な記事や図表を理解する能力を習得する。また、機械工学的な文章を作成する能力の基礎を養う。さらに、研究内容を英語でプレゼンテーションするための基礎的な練習を行う。 [備考] 単位取得には定期試験での合格点の他に、原則としてTOEIC400点以上が必要である。
材料工学入門	4セメスター 機械工学コース 選択A 2単位 物づくりにおいて材料を選択する上で必要な材料知識を習得する。同じ材料でも熱処理や加工処理によって材料の特性が大きく変わり、合金化によって物性、機械特性、機能性が発現する。ここでは基本的な材料の変形機構、強化機構、状態図の読み方、熱処理法、組織の見方、材料試験法、実用材料について解説する。
材料力学Ⅱ	4セメスター 機械工学コース 選択A 2単位 材料の変形や破壊を解析する力学的な手段である材料力学について、応用的、理論的な内容を中心に説明する。内容は、実問題に対して実践して用いることを念頭におき、応力やひずみの3次元的表現、平面問題やねじり問題の解析、各種理論などを含む。
熱力学Ⅱ	4セメスター 機械工学コース 選択A 2単位 熱力学は、工業力学、材料力学、流体力学などとともに機械工学の基礎となる「力学」の一つである。熱力学Ⅱでは、おもに、実在気体の性質、蒸気表および蒸気線図の読み方、有効エネルギーと無効エネルギー、蒸気サイクルの性質、ノズル内の流れなどについて講述する。熱力学Ⅰの内容は把握しているものとして授業を進める。
機械設計学	5セメスター 機械工学コース 選択A 2単位 機械設計の内容は、一般に、強さ・剛さ設計、機能・機構設計、生産設計、意匠設計に大別できる。機械設計学では、歯車、軸受などの機械要素の強さ・剛さ設計、機能設計について主に学ぶ。また、機械設計は理論則と経験則を合わせた近似則によってなされることを習得する。
伝熱学	6セメスター 機械工学コース 選択A 2単位 熱移動の基礎である熱伝導、対流熱伝達および熱放射に関して、その現象を基礎から理解するために、メカニズムや関係式の誘導に関して講義を行う。さらに、実際の自然現象や工業的の現象と伝熱の関連について示し、工学的に伝熱現象を利用・制御するための応用と熱移動に関する算定方法についても説明する。
流体力学Ⅱ	6セメスター 機械工学コース 選択A 2単位 流体力学Ⅰに引き続き、非粘性渦運動の詳細、粘性を考慮した流体運動やそれに伴う流体中の物体に働く力等について力学的側面から論ずる。ナビエ・ストークス方程式を導入しその解を求め、粘性流体を解析する。遅い流れに対するストークス近似、速い流れに対する境界層方程式などを詳しく説明する。 [備考] 流体力学Ⅰの備考参照。
機械設計製図	6セメスター 機械工学コース 選択A 2単位 機械工学の知識をもとに具体的な機械(ワインチ、ジャッキなど)について自ら設計し、その機械を製作するための製図を行う。システムとして機械を設計・製図するためにはどのように考えるか会得するために、少人数のグループに分かれて各担当教員より指導を受ける。 [備考]講義開始前に担当教員を掲示するので、担当教員の指示に従うこと。
機構学	4セメスター 機械工学コース 選択A 2単位 全ての機械は機構学を骨格として運動・伝動している。また、機械は種々のメカニズムすなわち機構の組み合せから成っており、機構学を習得することは機械を設計する上でも必須である。機構学では、機械の動きの基礎であるメカニズムに関する基本的な事項について学び、機械の動きを理解する。
特殊加工学	5セメスター 機械工学コース 選択A 2単位 従来の方法では加工が困難な材料や微細複雑形状の加工が要求されるようになった。そのため、高エネルギービームや電気化学エネルギーを利用して特殊加工法が発展しつつある。ここでは、放電加工、レーザー加工、電子ビーム加工、超音波加工、電解加工等の原理や応用について述べ、新しい加工技術への理解を深める。

## 授業科目・授業要旨

科目名	授業要旨等
CAD	6セメスター 機械工学コース 選択B 2単位 CAD(Computer Aided Design)は技術者にとって重要な基礎知識である。本講義では、2次元CADによる高能率な製図および形状処理機能について演習を通して理解する。また、3次元モデリングの基礎を学ぶ。
数値計算法	6セメスター 機械工学コース 選択B 2単位 数値計算法の原理や手法を代表的な例題を取り上げて詳しく説明する。計算アルゴリズムとプログラミングを一体として理解できるような講義を行うとともに、工学の分野において必要とされる基本的な問題を演習として課し、計算機を十分に活用した効率のよい計算手順など数値計算の実際を習得できるようにする。 [備考] 演習を必ず受けのこと。演習ではC言語を使用するため、プログラミングを受講していること。
材料応用学	6セメスター 機械工学コース 選択B 2単位 本講義は材料の特性がどのような材料科学に則って造り込まれるのかを学ぶ。特に組織制御の基盤である固体の熱力学や再結晶、変態、析出などの冶金現象を習得し、材料の最適な加工熱処理、成分系について理解する。また特殊環境で使用される耐熱、耐食、生体や機能性材料についても説明する。
塑性工学	6セメスター 機械工学コース 選択B 2単位 金属材料の塑性変形を解析する場合に基礎となる塑性力学の基礎について説明する。これと並行して、自動車産業や製鉄業をはじめとした多くの製造業に使われている金属の各種塑性加工法についての説明を行い、さらに塑性力学を応用した塑性加工の解析方法について述べる。
エネルギー工学	6セメスター 機械工学コース 選択B 2単位 最新のエネルギー動向、エネルギー技術について講述する。エネルギー関連技術の歴史から始め、運輸部門のエネルギー利用技術(特に内燃機関)、コジェネレーションシステムなどの省エネルギー技術、燃料電池などの最新変換技術、バイオマスなどの自然エネルギーの有効利用、水素等の代替燃料などを解説する。
潜熱移動学	6セメスター 機械工学コース 選択B 2単位 相変化を伴う伝熱現象、すなわち凝縮、沸騰、融解、凝固の現象論的な基礎とそれらの熱移動に関する関係式の誘導に関する講義を行う。さらに工業的に重要な伝熱機器である熱交換器に関する説明や物質移動現象に関する基礎的な考え方の説明を行う。本講義は「伝熱学」に続く講義であり、熱の移動現象を理解するために両講義を通して履修することが望ましい。
認知神経科学入門	6セメスター 機械工学コース 選択B 2単位 知能機械工学の高度な学問を修得するため、ヒトの認知原理とその脳内神経メカニズムの理解が要求される。認知神経科学はヒトが五感を用いて外部入力情報を認知・理解する原理を探求する基礎学問である。認知神経科学入門では、認知心理学的方法、実験データの統計解析方法、脳波と脳機能画像の生体計測方法に関する入門知識について学ぶ。
システム工学実験	5セメスター システム工学コース 必修 2単位 システム工学実験では、次の実験課題を行い、実験を通してシステム工学の基礎的な概念・技術を学ぶ。 (実験課題) A:OPアンプおよび基本デジタル回路 B:UNIXネットワークプログラミング C:C言語による簡易ロボットを用いた制御実験 D:ワンボードマイコンによるコンピュータ基礎実験と鉄道模型制御 E:産業用ロボットへの教示、PLCによるシーケンス制御、PLCを用いた産業用ロボットのシーケンス制御 F:ロボットマニュピュレータ制御の基礎(ロボットとコンピュータ間の入出力インターフェース) G:ロボットマニュピュレータ制御の基礎(制御系の型と定常偏差・周波数応答)
ロボット工学実験	6セメスター システム工学コース 必修 3単位 システム工学実験で学んだシステム工学の概念、技術を基に、与えられた課題を自分で調べ、考えてデザインし、まとめ、発表することにより、デザイン、設計能力、人に分かるように発表する能力、自分で調べる自己学習能力を習得する。課題は次の通りである。 (実験課題) A:学科内ロボットコンテスト B:電動2自由度マニュピュレータの軌道制御(制御軌道の生成) C:電動2自由度マニュピュレータの軌道制御(運動学に基づく軌道制御) D:色判別およびD/A変換回路 E:視差計測回路 F:ロボットのインタラクションデザインのためのシステム工学的基礎実験 G:鉄道模型によるシーケンスロジック制御

## 授業科目・授業要旨

科目名	授業要旨等
工学実践英語	6セメスター システム工学コース 必修 2単位 専門英語に引き続き、システム工学において国際的に通用するコミュニケーション基礎能力の取得を目的とし、英語によるコミュニケーション技術の修練として、TOEICの設問内容に準拠した講義と演習を行う。 [備考] 本講義の受講条件として、TOEICが受験済みであること、または、TOEICによる一定以上の成績を課すことがある。また、単位取得条件として定期試験での合格点の他にTOEICによる一定以上の成績を課すことがある。
ロボット機構学	5セメスター システム工学コース 選択A 2単位 ロボット等の機械システムの機構（メカニズム）とその解析手法について述べる。前半では、一般的な機械システムについてどのようなメカニズムで構成され、動作しているかについて、リンク機構や歯車機構について実例を基に述べる。後半では、ロボットの種類とメカニズムを述べた後、同次変換行列を用いたロボット機構の数学的取り扱い法を取り扱う。
画像認識学	5セメスター システム工学コース 選択A 2単位 生産システムの自動化を進めるために様々なロボットや検査装置が開発されている。これらの装置は人間の視覚に相当する機能を有する。本講義では、人間の視覚機能を実現するための画像認識技術、および画像認識機能を有するロボットや検査装置などを開発するための生産技術に関する基礎知識について講義を行う。
システムCAD	4セメスター システム工学コース 選択A 2単位 機械システムについての設計計算及び製図を行う。各自に個別の課題を与え、条件を満足するような設計計算を行うことにより要素を設計あるいは選択する。また、「システム基本製図」において修得した製図法に基づき、各自の設計対象システムを CAD (Computer Aided Design) を用いて製図を行う。
生産システム情報学	5セメスター システム工学コース 選択A 2単位 生産システムを取り巻く環境には、不確定要素が含まれることが一般的である。このようなシステムに関して最適化を講じるに当たり、このようなシステムを数学的モデルとして記述し、モデルに応じた適切な解法アプローチを適用し、問題の解を求めなければならない。本講義では、このような不確定要素を取り扱う上で、一般的な基礎知識となる確率統計学ならびに情報理論、あるいはこれらの基礎概念により構築されるモデルなどについて紹介する。また、適宜必要となる解法アプローチについて講じ、これらの基本的な考え方を理解できるようにする。
知能ロボット運用論	6セメスター システム工学コース 選択A 2単位 本講では、人間とロボットの違いや利点・欠点を整理した上で、ロボットの基本機能を説明する。また、知能についての定義や考え方を講義し、知能ロボット実現のための手法を示す。さらに、知能ロボットをいかに有効活用して、人間や生産システムにとってプラスしていくかを議論する。
デジタル電子回路	4セメスター システム工学コース 選択A 2単位 この講義では、まず、論理回路の基礎を学ぶ。そして、デジタル回路を設計するためのデジタル回路素子やデジタル ICについて習熟し、基本的なゲート回路、フリップフロップ、カウンタ回路について学ぶ。さらに、ロボットやメカトロニクス機器の制御によく用いられているマイクロコントローラを使いこなすための実用的なデジタル回路設計法を習得する。
ロボットダイナミクス	6セメスター システム工学コース 選択A 2単位 ロボット機構学、機械力学をふまえて剛体リンクからなるロボットの運動方程式の導出方法（ラグランジュ法、ニュートン・オイラー法）について講述する。ロボットの運動方程式は非線形行列微分方程式となり、解析的には運動を支配する解を求ることはできないが数値積分によるシミュレーションで運動を再現することはでき、ロボットの制御系の設計などに生かされている。
システム信頼性工学	5セメスター システム工学コース 選択A 2単位 製造システムの自動化、無人化を実施するためには、システムの高信頼化を達成する事が極めて重要である。この講義では、そうした問題の基礎となる、確率論、信頼度関数、故障率および、直列系、並列系の信頼度について学ぶ。さらに、タイセット、カットセット法による一般系を対象とした信頼度計算の方法論について身につける。
システム保全性工学	6セメスター システム工学コース 選択B 2単位 システムの高信頼性を維持するためには設備を管理し、保全を実施することが必要である。この講義では、そうした問題の基礎となるマルコフモデル、システム信頼性と保全性の関係、保全の形式、故障と保全性について述べるとともに、直列系、並列系のアベイラビリティの計算の方法論について身につける。
最適制御学	5セメスター システム工学コース 選択B 2単位 制御理論は古典制御理論と状態空間法に基づいた現代制御理論に大別される。本講義では、現代制御理論の基礎を理解するため、状態方程式、可制御・可観測の概念、制御系の安定性、レギュレータ、状態オプザバおよび代表的な制御系設計手法について学習する。また、基本的なデジタル制御理論について講述する。
インターフェイス設計学	6セメスター システム工学コース 選択B 2単位 人間の認知心理的特性を考慮した人間中心のヒューマンインタフェースについて学ぶとともに、新しいシステム開発における設計論として概念設計を中心とした設計過程を学ぶ。また、インターフェース設計の応用としての画面設計と評価を演習する。

## 授業科目・授業要旨

科目名	授業要旨等
生産管理学	6セメスター システム工学コース 選択B 2単位 生産システムを管理・運用するに当たり、これらの最適化という概念が重要である。ここに、システム管理、システム運用を最適化する手法として、オペレーションズリサーチという分野の学問が存在する。オペレーションズリサーチ(OR)とは、組織化されたシステムをシステム全体の目的に最適な解を与えるよう設計/運用/制御するための意思決定の科学である。システムの設計/運用/制御の問題に関して最適な解を与えるために、問題の本質を表す数学モデルを作成し、適切な解法を用いて解く必要がある。本講義ではいくつかの問題の数学モデルについて解説し、これを理解できるようにする。さらに、それらの数学モデルの解法について講述し、それを用いて最適な解を導出できるようにする。これらを通して、ORの基本的な考え方を理解できるようにする。
知的制御システム論	6セメスター システム工学コース 選択B 2単位 本講義ではソフトコンピューティングと呼ばれる問題解決アプローチについて講義する。主にニューラルネットワーク、ファジイ理論、遺伝的アルゴリズム、強化学習の基本的知識とそれらの制御への応用について述べる。
認知工学	5セメスター システム工学コース 選択B 2単位 本講義では、まず、人間の知覚・認知（記憶・思考・判断・意志決定）、感情・運動といった一連の認知情報処理のプロセスについて講義する。ここで学んで認知情報処理特性をいかに人間にとって使いやすいもの作り・製品設計・マンーマシン・システム構築に役立てていくかの手法や考え方を習得することを目的とする。
ロボット設計論	6セメスター システム工学コース 選択B 2単位 ロボットを設計するために必要な各種アクチュエータおよびセンサと組み合わせたサーボシステムの設計手法について学習する。
知能ロボット学	6セメスター システム工学コース 選択B 2単位 知能移動ロボットが人間生活の中で活躍するためには、多くの技術的課題を解決する必要がある。この講義では、「移動ロボットの経路計画」という課題に着目し、この課題を実現するために必要なアルゴリズムの構築手法について解説する。これにより、問題設定から解決するまでの能力を身につけることが、本講義の目標である。
福祉機械工学	5セメスター システム工学コース 選択B 2単位 各種コミュニケーションを対象に、コミュニケーションにおける身体性の役割と身体性の共有の重要性を理解し、人と関わる身体的コミュニケーション技術を中心に、福祉を支える機械情報技術について実例に基づいて学ぶ。また、高齢化社会を背景とした福祉機械の現状と災害対応技術としてのレスキュー・ロボットの開発の歴史やいくつかのレスキュー・ロボットの実例を学ぶ。
メカトロニクス基礎論	5セメスター システム工学コース 選択B 2単位 狭義の意味でメカトロニクスとは、機械の運動状態をセンサで検出し、それをマイクロプロセッサに取り込んで、何らかの目的に適合するようにアクチュエータを駆動し、機構を制御する計算機制御技術である。ここでは、機械工学、電気電子工学、情報工学、制御工学などの複合領域としてのメカトロニクス技術について述べる。

# 電気通信系学科の教育課程編成・実施の方針

電気通信系学科は、学生が卒業するにあたって、前述の電気通信系学科ディプロマポリシーに掲げる学士力が身につくことを目標とし、以下のカリキュラムポリシーに述べる基本方針に従って教育課程を編成し、教育を実施します。

## 電気通信系学科カリキュラムポリシー

電気通信系学科が対象とする電気工学、電子工学、通信工学、ネットワーク工学は、家電製品、コンピュータ、インターネット、通信・放送、自動車、エネルギー、医療など様々な産業分野で利用され、現在の高度情報化社会を支える基盤技術として密接に絡み合いながら発展してきています。このため、本学科では、電気工学、電子工学、通信工学、ネットワーク工学の全般に関する基礎的な知識と各コース分野におけるより専門的な知識を有するとともに、国際的な視野に立って電気、電子、通信、ネットワーク関連の諸問題を的確かつ迅速に整理・把握し、独創的な手法により解決することのできる能力と社会人としての豊かな人間性と時代に即した感性とを備えた人材の育成を行っていきます。

1年次には、教養教育科目に加え、工学を学んでいく上で必要となる工学全般の基礎的内容、およびコンピュータやネットワークのリテラシに関する科目について学ばせることで、電気通信系工学の学習の動機付けを行います。2年次の前期では、専門基礎科目を通して基礎知識を修得させます。2年次の後期では、各コースに分かれて専門知識を学ばせ、4年次の前期までに各コースで必要な専門知識を深めさせていきます。電気電子工学コースでは、電気電子工学の基礎となる必須科目に加え、それぞれの興味と将来の進路希望に対応して、詳細な技術や知識を選択科目として修得できるように配置しています。通信ネットワークコースでは、コースの基礎となる数学、通信工学、計算機工学、ネットワーク工学に関する科目を設定して、各技術を学べるようにしています。4年次では、希望に応じて配属される教育研究分野において「特別研究」を課し、独創性の涵養、問題解決型思考の習慣付けなどに配慮しつつ、電気通信系の研究者・技術者として活躍するための訓練を行わせます。これらの年次進行で提供される授業科目は、電気通信系学科の各ディプロマポリシー(DP)に対して、以下のカリキュラムポリシーに基づいて策定されています。

## 多面的に考える素養と能力【教養1】

地球的視野から多面的に物事を考える能力とその素養を身につける科目を提供します。教養教育科目では、ガイダンス科目、主題科目、個別科目および外国語科目があります。これらの科目では、環境・エネルギーなど自然と人類の共生の課題を、主として文化、経済、政治など文化科学の側面から多角的かつ有機的にとらえ考えられる科目を提供します。また、ガイダンス科目では工学全般にわたる最先端のトピックスを紹介することにより、工学に対する広い視野を持つことができるよう豊富な内容が用意されています。

## 技術者倫理【教養2】

技術者として、人間の健康と環境への配慮、地球資源の有効利用などについて倫理的責任があることを自覚し考えられる能力、さらには、電気電子・通信ネットワーク技術者としての使命が人類の生活と社会福祉の向上への貢献にあることを自覚し考えられる能力を育成します。特に「工学倫理」での授業では、多くの事故・事件の実例を取り上げ、その背景や問題点の抽出、考え方の回避方法などを考える能力を育成します。

## 論理的基礎知識と応用能力【専門性1】

数学、自然科学および情報技術に関する知識とそれらを応用できる能力を育成します。このため、「微分積分」「フーリエ・ラプラス変換」「線形代数」などの高等数学の基礎を学ばせます。

## **電気通信系工学の専門基礎【専門性2-1】**

電気電子工学と通信ネットワーク工学に関する基礎的な知識と、それらを多方面の問題解決に応用できる能力を育成します。このために、「論理回路」、「電気回路」などの専門基礎学力を身につけさせます。

## **電気通信系工学の高度専門知識と応用展開【専門性2-2】**

電気電子工学と通信ネットワーク工学に関する中核的な知識と、それらを電気・通信関連のシステムの設計・構築に応用・展開できる能力を育成します。高度な専門知識を身につけさせるため、各コースで必要な必修専門科目を用意するとともに、数多くの選択科目を用意しています。

## **社会の要求に応えるデザイン能力【情報力】**

種々の科学、技術および情報を利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力を身につけさせます。特に、「特別研究」では、指導教員の下で研究課題の調査・設定から実験の計画・遂行を行わせます。そして、結果の意義や課題などを考えさせたのち、特別研究報告書にまとめ上げる素養を育成します。

## **コミュニケーション能力【行動力1】**

日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を身につけさせます。特に、「専門英語」ではネイティブ教員の講義により、国際的活動に必要なリスニング・スピーキング能力を育成します。

## **仕事の立案遂行および総括能力【行動力2】**

与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力を身につけさせていきます。「工学基礎実験」や各コースでの実験科目では、与えられた時間と実験装置の中で計画的に実験の遂行・データ採取を行いレポート作成と内容を説明できる能力を育成します。

## **自主的、継続的な学習能力【自己実現力】**

自主的、継続的に学習できる能力を身につけさせていきます。授業において各科目の内容や年次配置はその相互の関連性を念頭に置きながら継続的に受講できるようにしています。また、各学生には、アドバイザの教員を配置して科目履修の相談などきめ細かいサポートを行うようにして、自主性を育成します。

## **その他**

上記の他に、コース毎に、以下のような独自の教育も行っています。

## **電気電子工学コース**

専門教育科目などを通じて、電気・電子工学の基礎となる数学、自然科学、および、情報技術やコンピューターサイエンスに関する知識と手法、ならびに「電磁気学」、「電気回路学」、「電子回路学」など専門的基礎学力を修得させます。さらに、電力・制御系、電子・回路系、材料・物性系の講義と演習を通じて応用能力を養わせ、第一線で活躍できる電気・電子工学の研究能力と問題解決能力を育成します。

## **通信ネットワークコース**

通信ネットワーク工学の基礎となる数学的知識や工学的知識を修得させた上で、電気、電子、通信、ネットワークに関する全般的な知識を修得させます。また、有線や無線を用いた情報通信技術、コンピュータネットワークの設計・構築・運用技術、情報処理技術、セキュリティ技術などの情報システム技術について、専門的な深い知識を修得させます。さらに、これらの知識を総合的に活用して、通信ネットワーク工学に関連する諸問題を解決することにできる能力を育成します。

## 電気通信系学科(電気電子工学コース・通信ネットワークコース)

コース名	科目区分		授業科目名	開講セメスター								1科目の単位数	履修要件	卒業要件単位	
				1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期				
コ ー ス  共 通	ガイダンス科目	機械システム系概論 電気通信系概論 情報系概論 化学生命系概論	○									1	留学生については必修外国語科目を個別に指定する	4	
			○									1			
			○									1			
			○									1			
	必修科目	英語	総合英語1		○							1	留学生については必修外国語科目を個別に指定する	4	
			総合英語2		○							1			
			総合英語3	○								1			
			総合英語4	○								1			
			総合英語5			○	○					1			
	個別科目	情報科学	情報処理入門 (情報機器の操作を含む)	○								2			2
	教養教育科目	主題科目	現代の課題	「現代の課題」グループ科目	○	○	○	○	○	○	○	2	18以上 (最大22単位まで卒業要件に算入される)  留学生については履修外国語科目を個別に指定する。	4単位以上	
			人間と社会	「人間と社会」グループ科目	○	○	○	○	○	○	○	2			
			健やかに生きる	「健やかに生きる」グループ科目	○	○	○	○	○	○	○	2			
			自然と技術	「自然と技術」グループ科目	○	○	○	○	○	○	○	2			
		個別科目	人文・社会科学	人文・社会科学系科目	○	○	○	○				2			
			自然科学	自然科学系科目	○	○	○	○				2注1)			
			健康・スポーツ科学	健康・スポーツ科学	○	○	○	○	○	○	○	2			
			生命・保健科学	するスポーツ演習											
				みるスポーツ演習											
				支えるスポーツ演習	○	○	○	○	○	○		2			
	選択科目	英語	英語	英語特別演習1				○	○	○	○	2			
			上級英語	英語特別演習2				○	○	○	○	2			
			英語	英語	○	○	○	○	○	○	○	2			
			英語	英語								2			
		ドイツ語	ドイツ語	初級	○	○						2			
			ドイツ語	中級			○	○				2			
		フランス語	フランス語	初級	○	○						2			
			フランス語	中級			○	○				2			
		中国語	中国語	初級	○	○						2			
			中国語	中級			○	○				2			
		韓国語	韓国語	初級	○	○						2			
			韓国語	中級			○	○				2			
		ロシア語	ロシア語	初級								2			
			ロシア語	中級								2			
		スペイン語	スペイン語	初級								2			
			スペイン語	中級								2			
		イタリア語	イタリア語	初級								2			
			イタリア語	中級								2			
		日本語	日本語 (書くA, 読むA, 聞くA, 話すA, 書くB, 読むB, 聴くB, 話すB)	○	○	○	○					2	留学生用		
教養教育科目 計													32以上		

注1) 自然科学系科目には、1単位の開講科目もあります。

## 電気通信系学科(電気電子工学コース・通信ネットワークコース)

コース名	科目区分		授業科目名	開講セメスター								1科目の単位数	履修要件	卒業要件単位
				1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期			
電気通信系学科(電気電子工学コース・通信ネットワークコース)	専門基礎科目	必修	微分積分	○								2	4単位を超えて修得した単位は4単位までコース専門科目の選択科目の単位として認める。	14
			線形代数	○								2		
			工学基礎実験実習(学科別)	○								2		
			工学安全教育(共通+学科別)		○							2		
			工学倫理				○					2		
			専門英語				○					2		
			技術表現法					○				2		
		選択	A	物理学基礎1(力学)		◎						2	◎は推奨科目	4
			A	物理学基礎2(電磁気+電気回路(直流))		◎						2		
			A	プログラミング		◎						2		
			A	微分方程式		◎						2		
			B	確率統計			○					2		
			B	生物学基礎			○					2		
			B	化学基礎			○					2		
電気通信系学科(電気電子工学コース・通信ネットワークコース)	専門教育科目	必修	回路理論 I	○								2	20単位を超えて修得した単位はコース専門科目の選択科目の単位として認める。	27
			微分積分 II		○							2		
			フーリエ・ラプラス変換			○						2		
			電気通信系実験 I			○						2		
			電気通信系実験 II				○					2		
			UNIXプログラミング					○				2		
			電気通信系実験 III						○			2		
			専門英語 II						○			2		
			特別講義					○	○			1		
			特別研究							○	○	10		
		選択	線形代数 II				○					1		20
			回路理論 II			○						2		
			電子回路概論			○						1		
			電子物性工学基礎			○						2		
			ベクトル解析			○						1		
			コンピュータ数学			○						2		
			論理回路			○						2		
			電磁気学 I			○						2		
			回路過渡解析				○					2		
			通信工学				○					2		
			伝送線路				○					2		
			複素解析					○				2		
			パルス・デジタル回路					○				1		
			デジタル信号処理					○				1		
			電子計測					○				2		
			インターナシップ						○			2		

注) 3期以降の開講時期は変更となる場合があります。

## 電気通信系学科(電気電子工学コース・通信ネットワークコース)

コ ー ス 名	科 目 区 分	授業科目名	開講セメスター								1科 目 の 単 位 数	履修要件	卒業 要件 単位		
			1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期					
電気電子工学コース	専門教育科目	必修	電磁気学II			○					2	通信ネットワークコースのコース専門科目の修得単位は、10単位までコース専門科目の選択科目の単位として認める。	21以上		
			電気機器学I			○					2				
			電子回路I			○					2				
			電子回路II				○				2				
			電気機器学II				○				2				
			電力発生工学				○				2				
			電子物性工学				○				2				
			制御工学I					○			2				
			電力系統工学I					○			2				
			半導体・デバイス工学					○			2				
			パワーエレクトロニクス					○			2				
			電気電子材料学					○			2				
			制御工学II					○			2				
			電力系統工学II					○			2				
			電波工学					○			1				
通信ネットワークコース	専門教育科目	必修	オプトエレクトロニクス					○			2	電気電子工学コースのコース専門科目の修得単位は、10単位までコース専門科目の選択科目の単位として認める。	21以上		
			電気法規・施設管理						○		2				
			電気設計学						○		2				
			データ構造とアルゴリズム			○					2				
			コンピュータネットワークI			○					2				
			コンピュータアーキテクチャI				○				1				
			確率統計論				○				2				
			マルチメディア工学				○				2				
			モバイル通信				○				2				
			コンピュータアーキテクチャII				○				2				
			コンピュータネットワークII				○				2				
			情報セキュリティ					○			2				
			オブジェクト指向プログラミング					○			2				
			グラフ理論					○			2				
			情報理論					○			2				
			情報化社会と技術						○		2				
												専門教育科目 計	90以上		
												合 計	126		

注) 3期以降の開講時期は変更となる場合があります。

## 電気通信系学科卒業要件単位数

科目区分	履修要件	卒業要件単位
ガイダンス科目	必修(機械システム系概論, 電気通信系概論, 情報系概論, 化学生命系概論)	4 単位
教養教育科目	<p>現代の課題 人間と社会 健やかに生きる 自然と技術 人文・社会科学 自然科学 情報科学 生命・保健科学</p> <p>12 単位以上</p> <p>(【自然と技術】の「力学の考え方」, 「物理学への招待」を除く) (【自然科学】の教養解析数理科学, 教養線形数理科学, 教養物理学* (力学), 教養物理学* (電磁気学) を除く, *には, A, B, , , が入る) (【情報科学】の「情報処理入門 (情報機器の操作を含む)」は上記 12 単位に含まず, 2 単位修得のこと)</p> <p>情報処理入門 (情報機器の操作を含む) 必修 2 单位</p>	28 单位以上
外国語科目	総合英語1~4の計4単位, 総合英語5(プレゼンテーション, リーディング, ライティング, リスニング)の4単位は必修。 上級英語(プレ上級英語を含む), 英語特別演習および初修外国語のうちから4単位以上を選択(注)。	
	計	32 单位以上
専門教育科目	<p>専門基礎科目 選択4単位(選択Aから4単位は修得すること。選択A・B合計で4単位を超えて修得した単位は, 4単位までコース専門科目の選択科目の単位として認める)</p> <p>学科専門科目 選択20単位(20単位を超えて修得した単位は, コース専門科目の選択科目の単位として認める)</p> <p>電気電子工学コース 専門科目 選択21単位以上(通信ネットワークコースの専門科目を10単位まで認める)</p> <p>通信ネットワークコース 専門科目 選択21単位以上(電気電子工学コースの専門科目を10単位まで認める)</p>	90 单位以上
	合計	126 单位
	(注)留学生については, 履修外国語科目を個別に指定する。	

### 3年次実験(電気通信系実験Ⅲ)履修要件

(履修する年度の前年度末時点で, 2年以上在学しているとともに以下の基準の全てを満たすこと。ただし, この要件は3年次編入学生には適用しない。)

- ① 工学基礎実験実習, 電気通信系実験 I, II を修得していること。
- ② 専門教育科目的修得単位数が卒業要件単位中, 18単位以上であること。
- ③ 卒業要件単位の修得単位数の合計が48単位以上であること。

### 特別研究申請要件

(申請する年度の前年度末時点で, 3年以上(3年次編入生は1年以上)在学しているとともに以下の基準の全てを満たすこと。)

- ① 教養教育科目的修得単位数が卒業要件単位中, 26単位以上。
- ② 工学基礎実験実習, 電気通信系実験 I, II, III を修得していること。
- ③ 卒業要件単位の修得単位数の合計が108単位以上であること。ただし, 3年次編入学の学生は100単位以上であること。

### 他学部, 他学科履修について

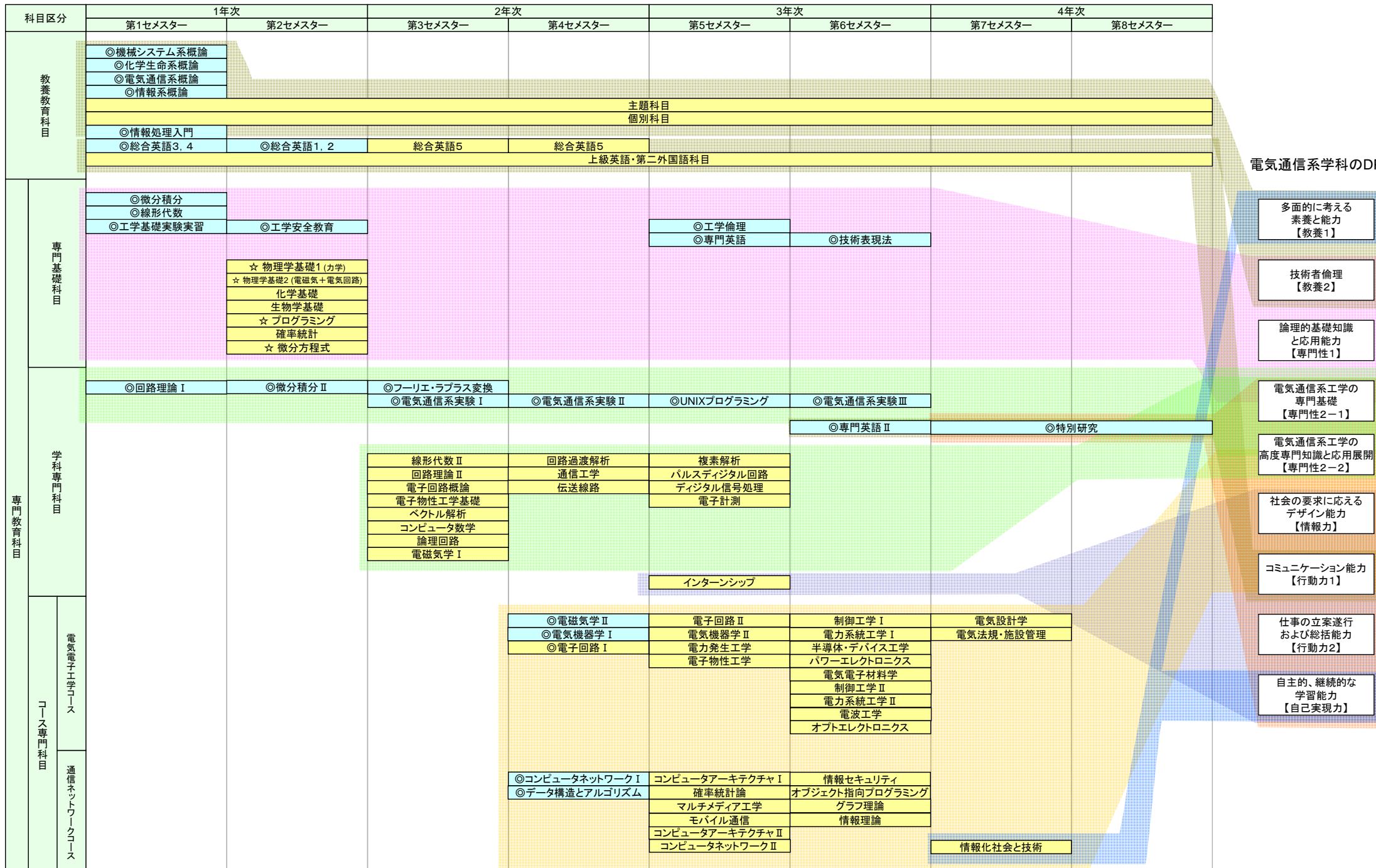
- ① 他学部の専門教育科目, 他学科の専門教育科目を履修する場合は, 願い出により6単位までコース専門科目の選択科目として取り扱う場合がある。取り扱う科目的条件は以下の通りである。ただし, 教科に関する科目及び教職に関する科目は卒業要件外とする。
  1. 所属コースの教育内容に関係の深い内容である。
  2. 自学科には似た内容の科目が開講されていない。
- ② 全学開放の専門教育科目的うち, 工学部の他学科の科目を履修する場合は, ①の他学科の専門教育科目を履修する場合と同じ扱いとする。

### 中国・四国国立大学工学系学部間単位互換科目履修について

- ① 中国・四国国立大学工学系学部間単位互換の科目を履修する場合は, 願い出により6単位までコース専門科目の選択科目として取り扱う場合がある。取り扱う科目的条件は他学部, 他学科履修の場合と同様である。
- ② 詳細は, 単位互換科目履修案内を参照のこと。

# カリキュラムマップ(電気通信系学科)

◎必修科目 選択科目(☆:学科推奨科目)



## 授業科目・授業要旨

科目名	授業要旨等			
回路理論Ⅰ	1セメスター 学科専門科目 必修 2単位 基本的な電気回路の解析を通じて、電気現象が関わるシステムを数理的に解析するための基礎を学習する。まず、交流定常解析に必要不可欠な複素解析について触れ、それを用いた交流回路の記号的計算法を学ぶ。次に、回路方程式の立て方について習得する。また、電力や共振という電気回路にかかる基本的事項についても扱う。			
微分積分Ⅱ	2セメスター 学科専門科目 必修 2単位 微分積分Ⅱは、主に多変数の微分法、積分法を取り扱う講義であり、これらは工学分野の諸問題を取り扱う上で必要不可欠な数学である。微分法の復習に加え、積分法についても具体的な計算問題を織り交ぜ、多変数関数の微積分の計算ができる能力を養う。			
フーリエ・ラプラス変換	3セメスター 学科専門科目 必修 2単位 理工学においては現象を数学的に表現して解析し、その本質を明らかにすることが大切である。授業では、フーリエ級数、フーリエ積分、フーリエ変換の基礎とその偏微分方程式への応用およびラプラス変換、単位関数、デルタ関数とその応用について述べ、演習により問題解決能力と応用力を養う。			
電気通信系実験Ⅰ	3セメスター 学科専門科目 必修 2単位 電気回路学や電子回路学などの基礎科目を学習するための一助となる高校物理とその延長にある電気に関する基本的な法則・現象を実験により確認することで定性的な理解を深める。さらに、安全に対する心構えを学ぶ。			
電気通信系実験Ⅱ	4セメスター 学科専門科目 必修 2単位 電気・電子に関する基礎的現象・法則を実験的に理解し、電気工学・電子工学に対する理解を深める。さらに、電気機器学・制御工学・通信工学など電気工学・電子工学の応用分野で必要となる信号の取り扱いに関する基礎を習得する。			
UNIXプログラミング	5セメスター 学科専門科目 必修 2単位 UNIX系OSはインターネット上の多くのサーバやルータで使用されており、その操作方法およびその上のプログラミング手法を習得することは電気通信分野の技術者にとって必要不可欠である。本講義ではまず、UNIX系OSにおけるファイル、ディレクトリ、シェル、プロセスの概念を講述する。その後、UNIX系OS上でC++言語を用いたプログラミング手法を講述する。			
電気通信系実験Ⅲ	6セメスター 学科専門科目 必修 2単位 工学基礎実験実習や電気通信系実験ⅠおよびⅡで習得した実験技術や講義で学習した知識を用いて、さらに専門性の高い分野を横断した内容の実験を行うことで、個々の分野に対する理解を深めると共に、実験の計画・遂行能力を養う。			
専門英語Ⅱ	6セメスター 学科専門科目 必修 2単位 電気通信系の工学分野における英語によるコミュニケーション能力(listening, speaking, reading, writing)を養うための基本演習、ならびにTOEIC演習を行う。なお、単位修得判定はTOEICのスコアも成績評価に反映する。			
特別講義	5, 6セメスター 学科専門科目 必修 1単位 基本的な教科を修得した上で、修得した技術が最先端分野においてどのように利用されているのか、また学生が将来どのような分野で活躍できるのかを、企業あるいは研究所の技術者の講演、文献の調査、及び討論を通して学習する。 本講では、学外の複数の専門家により、最先端の技術トピックスを講義する。この講義を通して、先進的な技術の一端を理解するとともに、これまでに習得してきた専門科目の活用の実際を学習する。また、社会における電気通信系工学の貢献のあり方について考え、技術者の社会的責任や倫理感について理解を深める。これに加え、実際に企業を訪問し見学することで、習得した知識がどのような現場で生かされているかを学ぶ。 [備考] 成績評価は、毎回の講義レポートの評価により行う。			
特別研究	7, 8セメスター 学科専門科目 必修 10単位 各指導教員の指導の下で、具体的なテーマで特別研究に取り組む。これにより、単なる知識の習得ではなく、社会的・技術的な視野の育成と課題形成能力および問題解決能力、技術的な文章表現およびコミュニケーション能力や発表の技術を身につける。また、海外の論文を原語で読むことにより、国際的に活躍するための下地を養う。 [備考] 研究は一時的のものではなく、日々の積み重ねであることを認識し、着実に進めること。			
線形代数Ⅱ	3セメスター 学科専門科目 選択 1単位 ベクトル・行列の演算を理解し、基本変形による連立1次方程式の計算、固有値と固有ベクトル、行列の三角化・対角化、2次形式の標準形などの基礎概念について講義と演習を行う。			

## 授業科目・授業要旨

科目名	授業要旨等
回路理論Ⅱ	3セメスター 学科専門科目 選択 2単位 電気現象が関わるシステムを数理的に理解するための基礎を学ぶために、一般線形回路網の取り扱い、グラフ理論、重ねの理などの種々の定理、二端子対回路網の表現法と解析法、ひずみ波交流、三相交流回路の計算法などについて講述する。
電子回路概論	3セメスター 学科専門科目 選択 1単位 電子回路の基本的な構成要素である半導体素子の物理的原理と電気的特性を概説する。また、半導体素子であるダイオード、トランジスタ、オペアンプなどの電子回路素子を用いたアナログ電子回路の基本的な動作を講述する。
電子物性工学基礎	4セメスター 学科専門科目 選択 2単位 主として初等量子力学と、物性を学ぶための熱力学・統計力学の基礎を講述する。高校物理程度の前期量子論（物質の粒子性・波動性、原子内の電子の振舞い）を復習し、様々な条件下でのシュレーディンガー波動方程式の解法を学ぶ。さらに、熱力学・統計力学の基本的考え方と、自由エネルギー、フェルミ統計・ボース統計について概説する。
ベクトル解析	3セメスター 学科専門科目 選択 1単位 自然現象を記述する量はベクトルで表現され、微分・積分によりその関係が記述されることが多い。講義では、力学や電磁気学への応用を念頭におき、ベクトル関数の時間や空間座標での種々の微分演算、曲線・曲面上での積分、ベクトルに関するいくつかの積分定理などを講述する。
コンピュータ数学	3セメスター 学科専門科目 選択 2単位 デジタル通信に関する学科の基礎となるのは、自然現象など連続的物理モデルの解析的扱いではなく、整数など離散的数理モデルの代数的な扱いである。本講義では、整数の基本的性質を学び、集合や関係、写像に加えて重要な代数系に関する基礎を学ぶ。
論理回路	3セメスター 学科専門科目 選択 2単位 コンピュータや各種の信号処理回路はデジタル回路で構成されるが、これを論理レベル（0/1のレベル）の論理回路としてモデル化すると理解が容易になる。また、実用的な回路設計においても、論理回路としての規模の縮小が実際の回路規模の縮小に有効である。本講義では、まず、論理回路を扱うための準備として論理数学の基礎を修得し、論理関数の表現法を学ぶ。続いて、入力によって出力が決定する組合せ論理回路とその簡単化、さらに、状態をもち出力が状態に依存する順序論理回路とその簡単化について学ぶ。
電磁気学Ⅰ	3セメスター 学科専門科目 選択 2単位 電磁気学Ⅰでは、静電磁界を中心に講義を行う。特に物質の誘電分極や磁気分極による効果を取り入れた電束密度や磁束密度の取り扱い、定常電流と磁界のより高度な取り扱い（ビオサバールの法則、アンペールの法則関連の詳論）などの取り扱いを学ぶ。講義中には演習問題を解くことも導入して法則の理解を助けるとともに実際の現象との関わりを講述する。 [備考] 電気主任技術者の資格認定に必要な科目である。
回路過渡解析	4セメスター 学科専門科目 選択 2単位 演習・レポート問題を取り入れて、過渡現象について基本的な考え方や標準的な手法を学ぶ。ラプラス変換による解法も講述する。
通信工学	4セメスター 学科専門科目 選択 2単位 通信方式における伝送技術について、より深く理解することを目的とし、信号波の解析に必要なフーリエ級数展開とフーリエ変換、アナログ変調技術として振幅変調と周波数変調を講述する。また、標本化と量子化の原理及びパルス符号変調について講述し、さらに実際の通信システムを構築する場合に必要となる多重化技術について講述する。
伝送線路	4セメスター 学科専門科目 選択 2単位 同軸線路のような伝送線路は分布定数回路として考えねばならない。まず、分布定数回路の基礎を講述する。次に、マクスウェルの方程式から伝送線路の電磁界と分布定数回路の電圧や電流との対応関係を把握する。それらを踏まえて、各種の伝送線路を含む回路を分布定数回路理論で取り扱う方法について習得する。
複素解析	5セメスター 学科専門科目 選択 2単位 変数を複素数まで拡張した微分可能な関数は、数学的に美しい性質をもち、その微分積分は、理工学の様々な分野に用いられている。講義では、そのような複素関数の性質、積分定理、実関数の定積分計算への応用など、関数論の基礎を講述する。

## 授業科目・授業要旨

科目名	授業要旨等
パルス・デジタル回路	<p>5セメスター 学科専門科目 選択 1単位</p> <p>パルス・デジタル回路は最先端の計算機、ネットワーク通信機器から家電製品まで広く応用され、今日の情報化社会を支える柱となっている。一見して複雑そうなデジタル機器も、実際には単純な動作をする構成要素の組み合わせで成り立っている。本講義は、基礎となる各構成要素の動作と解析法を取り扱い、応用力を養う。</p>
デジタル信号処理	<p>5セメスター 学科専門科目 選択 1単位</p> <p>デジタル信号処理は電気・通信はもちろん、成分分析や制御における重要な技術である。まず、離散信号系を定義し、離散信号の表現に習熟する。次に、信号解析において広く利用される高速フーリエ変換の原理を学習する。離散時関係信号処理の基礎技術であるZ変換を学んだ後に、デジタル信号処理技術の基礎であるデジタルフィルタの設計法を習得する。</p>
電子計測	<p>5セメスター 学科専門科目 選択 2単位</p> <p>電子計測は、電気磁気現象を利用して定量的な情報を得る操作であり、電気電子工学の基礎として不可欠なものである。しかし、電磁気学、電気回路学、電子回路などの知識が要求されるため学習には努力を必要とする。本講では測定論の基礎、主要電気計器の原理とその活用法並びにデジタル計測システムについて講述する。</p> <p>[備考] 電気主任技術者の資格認定に必要な科目である。</p>
インターンシップ	<p>5セメスター 学科専門科目 選択 2単位</p> <p>2週間程度の期間を目安に企業に出向いて産業社会の前線での業務を見聞・体験し、大学でこれまで学んだ専門知識があらゆる意味で基礎的なものであり、それがいかにして応用されているかを認識する。実際の業務の中で各自が技術者として持つべき心構えを学び、今後の勉学のための参考とする。</p>
電磁気学Ⅱ	<p>4セメスター 電気電子工学コース 必修 2単位</p> <p>電磁気学Ⅱでは、電磁誘導の法則を含む電界・磁界(電場・磁場)の様々な現象とその関係をマクスウェルの電磁方程式を用いて学習する。電界・磁界の及ぼす力、磁気回路、電磁波の記述及び放射と吸収などについて講述するとともに、演習を行う。</p>
電気機器学Ⅰ	<p>4セメスター 電気電子工学コース 必修 2単位</p> <p>電気機器には、磁気エネルギーを介して機械エネルギーと電気エネルギーとの相互変換を行う回転機と、磁気エネルギーを介して電気エネルギーの形態変換を行う変圧器がある。電気機器学Ⅰでは、電磁誘導を用いてエネルギー変換を行う変圧器、誘導電動機を系統的に講述する。</p> <p>[備考] 本科目または電気機器学Ⅱは電気主任技術者の資格認定に必要な科目である。</p>
電子回路Ⅰ	<p>4セメスター 電気電子工学コース 選択 2単位</p> <p>電子回路概論で学んだ電子回路動作をさらに深く理解するために、ダイオードおよびトランジスタの動作とそれらの等価回路モデルを説明した後、アナログ電子回路の基礎となる、いくつかの基本的な增幅回路について、それらの構成と等価回路モデルを用いた直流および交流特性解析法を講述する。</p>
電子回路Ⅱ	<p>5セメスター 電気電子工学コース 選択 2単位</p> <p>電子回路Ⅰで学んだダイオードおよびトランジスタの動作と增幅回路の基礎をベースに、具体的なアナログ電子回路へ展開していく。すなわち、ダイオード応用回路、理想に近い特性のオペアンプを実現するための差動増幅回路などの各種構成回路、帰還増幅回路、発振回路および電源回路などに関して、それらの原理、動作、設計の基本に基づいて系統的に講述する。</p>
電気機器学Ⅱ	<p>5セメスター 電気電子工学コース 選択 2単位</p> <p>電気機器学Ⅱでは、電気機器学Ⅰに引き続き磁気エネルギーを介して電気・機械エネルギー変換を行う同期機と直流機について系統的に講述する。同期機と直流機についてそれぞれの特徴や特性にとどまらず、同期機と直流機の類似点と相違点、それらの応用例などについても示す。</p> <p>[備考] 本科目または電気機器学Ⅰは電気主任技術者の資格認定に必要な科目である。</p>
電力発生工学	<p>5セメスター 電気電子工学コース 選択 2単位</p> <p>日本のエネルギー消費量の40%は電気エネルギーの形態である。本講義では、この電力発生に関する技術についてソフトとハードの両面から講述する。すなわち、電力発生システムの基本的な原理とシステム構成、発電に伴い生じる安全確保の方策、および地球環境問題と取り組み方策について述べる。</p> <p>[備考] 電気主任技術者の資格認定に必要な科目である。</p>

## 授業科目・授業要旨

科目名	授業要旨等
電子物性工学	<p>5セメスター 電気電子工学コース 選択 2単位</p> <p>電子物性工学では、電子物性工学基礎での概説をもとに、より専門的な内容に踏み込んで講義を行う。特に元素の周期律表に関わる原子の量子力学の概説、結晶構造の概説をもとにした固体の量子力学の初步を学び、材料物性工学の基礎的知識を身につける。それをもとにして巨視的な物性（金属・半導体・絶縁体など）がいかにして原子レベルの微視的な見方から理解でき、また導かれるかを実際の物質に即して講述する。</p>
制御工学 I	<p>6セメスター 電気電子工学コース 選択 2単位</p> <p>制御工学の基礎である線形連続時間系について、ラプラス変換および逆変換法、ラプラス変換を用いた微分方程式の解法、ラプラス変換法に基づいた伝達関数の導出とブロック線図の構成法、ポート線図やベクトル軌跡法による周波数領域での特性解析および、制御システムの安定判別法の基礎を講述する。また、位相余有、ゲイン余有および周波数応答法や根軌跡法による制御系の設計について理解する。</p> <p>[備考] 本科目または制御工学IIは電気主任技術者の資格認定に必要である。</p>
電力系統工学 I	<p>6セメスター 電気電子工学コース 選択 2単位</p> <p>発電所、変電所、線路などからなる電力系統の構成について述べるとともに、線路定数の取扱い、等価回路やベクトル図を用いた送電特性の解析、電力円線図の物理的意味、無効電力補償の必要性、安定度、架空送電線路などについて講述する。</p> <p>[備考] 電気主任技術者の資格認定に必要な科目である。</p>
半導体・デバイス工学	<p>6セメスター 電気電子工学コース 選択 2単位</p> <p>半導体を用いた電子素子（デバイス）は、現在のエレクトロニクスにおいて中心的な役割を演じている。この講義は、半導体を様々なデバイスに応用するための基本を理解し、応用できる力を養うことを目的として、半導体の物性、電子状態、pn接合、接合トランジスタ、MOS構造、MOSトランジスタについて概説する。さらに、デバイスの動作原理と物理法則がどう関わっているかという観点から、半導体デバイス、半導体集積回路、などの電子デバイスの構造、動作、特性、などの概要を講述する。</p>
パワーエレクトロニクス	<p>6セメスター 電気電子工学コース 選択 2単位</p> <p>パワーエレクトロニクスは、電力用半導体素子を用いてエネルギーの変換・制御を行う分野で、省エネルギーのためのキー技術となりつつある。本講義ではパワーエレクトロニクスの基礎として重要な整流回路、チョッパ回路、インバータ回路の動作原理、応用例などを講述する。</p> <p>[備考] 電気主任技術者の資格認定に必要な科目である。</p>
電気電子材料学	<p>6セメスター 電気電子工学コース 選択 2単位</p> <p>エレクトロニクスをはじめとする先端産業を支える各種電気電子材料の物性を、それを支配する基本的な物理学的原理・法則を用いて、電子、原子というミクロな立場から説明し、さらに簡単なデバイスを含めて電気電子材料の応用について述べる。</p>
制御工学 II	<p>6セメスター 電気電子工学コース 選択 2単位</p> <p>「制御工学 I」に引き続き線形連続制御系について、状態変数法によるフィードバック制御系のモデル化、応答特性の計算とアプローブ関数を用いた制御系の安定定理を理解する。次に、現代のデジタル制御の基本となる線形サンプル値制御系の取り扱い方法について講述する。さらに、非線形制御系の取り扱いに関し、位相面軌跡法による特性解析と安定性解析について理解する。最後に、現代制御理論の概要を講述するとともに、最適レギュレータと状態観測器の設計と応用について理解する。</p> <p>[備考] 本科目または制御工学 I は電気主任技術の資格認定に必要である。</p>
電力系統工学 II	<p>6セメスター 電気電子工学コース 選択 2単位</p> <p>電力系統工学 I に引き続き、地中送電線路、配電線路、故障計算法、中性点接地方式と保護継電方式、電力系統の安定度の考え方、電圧と無効電力の制御法などについて講述する。</p>
電波工学	<p>6セメスター 電気電子工学コース 選択 1単位</p> <p>無線通信のシステムを理解するための基礎となる電波について、電磁気の延長としての電波とその振舞い、アンテナの考え方、大気中での電波伝搬特性などについて講述する。</p>
オプトエレクトロニクス	<p>6セメスター 電気電子工学コース 選択 2単位</p> <p>光の光線的性質で説明できる屈折、反射と波動的性質から生まれる干渉、回折現象を理解し、その応用である受動光学素子について学ぶ。その後に、光学とエレクトロニクスが融合して発展したオプトエレクトロニクスにおける重要デバイスである、光導波路、光ファイバ、レーザ、受光素子について学ぶ。</p>

## 授業科目・授業要旨

科目名	授業要旨等
電気法規・施設管理	<p>7セメスター 電気電子工学コース 選択 2単位</p> <p>電気事業はその性質上、地域独占性の強い事業であるため、需要家の利益を保護するとともに事業の健全な発展を図るために電気に関する法律が必要であり、それについて述べる。また、発電所、送電線などの電気施設を運営、保守、拡充してそれぞれの機能を合理的に発揮させるための電気施設全体の管理運営などについても講述する。</p> <p>[備考] 電気主任技術者の資格認定に必要な科目である。</p>
電気設計学	<p>7セメスター 電気電子工学コース 選択 2単位</p> <p>静止器、回転機の設計方法はもちろんのこと、静止器、回転機の原理についてまず述べ、次に強度計算法、温度上昇の計算法等についても講述する。また、電気機器に使用する導電材料、絶縁材料、磁性材料の選定法についても述べる。</p> <p>[備考] 電気主任技術者の資格認定に必要な科目である。</p>
データ構造とアルゴリズム	<p>4セメスター 通信ネットワークコース 必修 2単位</p> <p>コンピュータによって問題を解決する際、対象とするデータをどのように格納し(データ構造)、どのような手順で処理していくか(アルゴリズム)が、その実行効率に大きく影響する。本講義では、基本的なデータ構造とアルゴリズム、およびそれらの効率について学び、利用する能力を修得する。</p>
コンピュータネットワーク I	<p>4セメスター 通信ネットワークコース 必修 2単位</p> <p>コンピュータネットワークおよび階層型通信プロトコルの基本的な概念について講述したのち、インターネットの基礎的な技術として、誤り制御、イーサネット、IP (Internet Protocol), TCP (Transmission Control Protocol), UDP (User Datagram Protocol), DNS (Domain Name System), WWW (World Wide Web)等の概要を講述する。</p>
コンピュータアーキテクチャ I	<p>5セメスター 通信ネットワークコース 選択 1単位</p> <p>コンピュータの基本構造、プログラムの動作原理を理解することは、情報通信技術を学ぶ上できわめて重要な知識である。これらの知識は、効率的なプログラムの作成に役立ち、問題解決に適したコンピュータの選択にも有効である。この講義では、CPU(中央処理装置)の動作原理と機械語、性能評価の指標について学んだ後、アセンブリ言語プログラミングを習得する。</p>
確率統計論	<p>5セメスター 通信ネットワークコース 選択 2単位</p> <p>工学全般において、何が起こるか予測できない不確定な現象を取り扱うことが多い。例えば、同じ電圧を同じ条件の下で何回か測定しても、同じ電圧が得られるとは限らず、その測定値はばらついたものとなり得る。本講義では、このような現象(確率的現象)を工学的に扱う手段と測定データの統計的な処理方法について講述する。</p>
マルチメディア工学	<p>5セメスター 通信ネットワークコース 選択 2単位</p> <p>ネットワークマルチメディアシステムについて、その基本的な仕組みと、特に重要な映像・音声などの連続メディアについて、その表記、処理、および伝送の各要素技術を講義する。</p>
モバイル通信	<p>5セメスター 通信ネットワークコース 選択 2単位</p> <p>モバイル通信方式を構成する無線伝送技術、システム技術、ネットワーク技術の原理と概要の習得を目的とし、デジタル変復調技術、アクセス技術、移動通信における電波伝搬特性、セル構成法、無線リンク設計法、制御技術、今後のモバイル通信方式の動向について講述する。</p>
コンピュータアーキテクチャ II	<p>5セメスター 通信ネットワークコース 選択 2単位</p> <p>この講義では、算術演算回路の構成、機械語命令を実行するためのCPU構成の詳細、CPUでの命令実行を高速化するためのバイナリ処理方法、および多量のデータを安価かつ高速に扱うための記憶階層について、典型的な実例を用いながら学ぶ。</p>
コンピュータネットワーク II	<p>5セメスター 通信ネットワークコース 選択 2単位</p> <p>インターネットにおける基礎的な技術の中で、コンピュータネットワークIで割愛した技術について講述するとともに、TCP (Transmission Control Protocol)の詳細と分散システムの概要について講述する。</p>
情報セキュリティ	<p>6セメスター 通信ネットワークコース 選択 2単位</p> <p>本講義では、インターネット時代の到来に伴う電子商取引(Eコマース)の健全かつ持続的発展を目的とし、電子商取引を支える情報システム、金融システムの現状とその問題点、電子商取引の今後の課題、高信頼のシステム開発手法などについて、それらに携わる企業などの第一線の技術者・専門家を招聘し、集中講義を行う。これにより、電子商取引を支えるシステムを正しく理解し、IT立国を担うために本分野に取り組む人材の育成を狙いとする。</p>

## 授業科目・授業要旨

科目名	授業要旨等		
オブジェクト指向プログラミング	6セメスター 通信ネットワークコース	選択	2単位
	近年のアプリケーションプログラム開発において、オブジェクト指向型の開発手法が広く用いられている。本講義では、完全なオブジェクト指向性を備え、その拡張性および多態性が極めて高いプログラミング言語であるJava言語について講義し、演習を通してオブジェクト指向プログラミング手法への理解を深める。		
グラフ理論	6セメスター 通信ネットワークコース	選択	2単位
	グラフ理論は、構成要素間の結びつきや関連を数学的に表現し、計算機による解析や解法を与える理論であり、計算機科学、通信工学、電気・電子工学などの基礎理論として非常に重要である。本講義では、グラフに関する諸定義を与えた上で、パス、サイクル、木、彩色、フローなどのグラフ理論における基礎的事項を講述する。また、基本的なグラフアルゴリズムのJavaプログラミングを行う。		
情報理論	6セメスター 通信ネットワークコース	選択	2単位
	情報は、物質やエネルギーと共に工学を支える3本柱の1つとなっている。本講義は、情報、なかでもデジタル情報伝送の基礎理論を取り扱う。情報源と通信路に関する基礎を学び、情報量とエントロピーの関係を学ぶ。また、通信に効率化のための情報源符号化と通信の高信頼化のための通信路符号化を学び、具体的な符号化法についての理解を深める。		
情報化社会と技術	7セメスター 通信ネットワークコース	選択	2単位
	情報通信技術、あるいは情報通信技術者が社会でどのような役割を果たしうるかを議論し、これからの社会に対して与える影響を予測する。また、情報通信産業に固有な社会問題を取り上げ、その技術者の社会的責任と倫理について明らかにする。そのために重要な、ネットワークセキュリティの基礎と応用を学ぶ。		

# 情報系学科の教育課程編成・実施の方針

情報系学科は、学生が卒業するにあたって、前述の情報系学科ディプロマポリシーに掲げる学士力が身につくことを目標とし、以下のカリキュラムポリシーに述べる基本方針に従って教育課程を編成し、教育を実施します。

## 情報系学科カリキュラムポリシー

高度情報化社会といわれて久しい現代において、情報系学科はその社会基盤を支えるのに必要不可欠な技術者および研究者を養成します。そのために、コンピュータのソフトウェアとハードウェア、人間の知能を代行する人工知能、情報と計算の科学、ならびにそれらを知能システムや社会情報システムに応用する技術など、情報工学に関わる様々な知識を、理論と実習のバランスをとりながら系統的に教育します。情報工学に基づく技術は、コンピュータシステムやソフトウェアシステムの設計・運用、高度情報処理のみならず、社会の隅々に浸透したあらゆる情報サービスの基盤技術として不可欠であり、これから産業と社会の持続的発展のためにも欠かすことのできない技術として不可欠であり、これから産業と社会の持続的発展のためにも欠かすことのできません。情報系学科では、このような学術と社会からの要請に応えるために、コンピュータと知能に関する科学・工学の教育を通して、情報処理の専門技術者、情報システム技術者と情報工学の研究者を養成します。

情報系学科では、「計算機工学コース」と「知能ソフトウェアコース」を設定しており、学生の興味に応じて2年次後期にコース振り分けを実施します。両コースには共通する授業、実習が多いことから、学科内では柔軟なコース選択が可能です。両コースとも1年次には、教養教育科目および専門基礎科目の習得によって、専門分野にとらわれない幅広い教養と工学全般の基礎的学力を高めます。2年次には、プログラミング言語、情報処理システム、情報処理基盤に関する基礎的内容の科目によって情報工学の基礎知識を修得します。さらに演習科目では、構造的なプログラミング能力の習熟を図ります。3年次には、学科専門科目により応用力を養成するとともに、実験科目において課題への主体的取り組みや協調作業、レポート作成など技術者としての基礎力を養成します。4年次では、各学生は研究室に配属されます。配属先の研究室が、2年次後期に振り分けられたコースによって制限されることはありません。特別研究として各研究分野の最先端の研究テーマに取り組むことにより、これまでに習得した知識を具体的な問題解決に応用する能力を鍛え、情報処理の専門家として活躍するための素地を作り上げます。

## 多面的に考える素養と能力【教養1】

教養教育科目として1年次にはガイダンス科目、1,2年次には主題科目、個別科目、外国語科目を配し、専門分野にとらわれない幅広い教養とコンピュータリテラシを含む工学全般の基礎的内容について習得します。

## 技術者倫理【教養2】

一般教養科目、工学倫理、ならびに情報と職業に関する科目を通じて、自然科学と社会、技術者倫理、情報化社会の福祉について考える力を養います。

情報システムに関する科目により社会情報システムに関する基礎教育を行います。

## 論理的基礎知識と応用能力【専門性1】

1年次には、主として専門基礎科目を配し、工学全般の基礎となる能力を養成します。

## プログラミング言語に関する専門性【専門性2-1】

講義科目や演習・実験科目については、科目相互の関連を配慮して配置年次等が決定されており、プログラミング等の実学とその背後にある数学等の理論を関連付けて教育します。

## **情報処理システムに関する専門性【専門性2－2】**

コンピュータシステムとソフトウェアに関する講義または実験科目を体系立てて配置し、情報処理システムに関する専門技術を教育します。

## **情報処理基盤に関する専門性【専門性2－3】**

情報処理の基盤となる数学や論理に関する科目を体系立てて配置し、論理的な思考・記述力の養成をはかるとともに情報技術に対する応用力を育成します。

## **社会の要求に応えるデザイン能力【情報力】**

コンピュータの基礎理論、プログラミング演習やコンピュータシステムに関する実験科目を通じて、アルゴリズム設計からコンピュータシステムや情報システムに関する設計能力までを養成します。

## **コミュニケーション能力【行動力1】**

演習、実験科目や特別研究における協調作業や報告、指導の過程を通じて、技術者としてのコミュニケーション能力を身につけさせます。

## **仕事の立案遂行および総括能力【行動力2】**

プログラミングやコンピュータシステムなどに関する講義と演習を通じて、計画的に仕事を進め、結果をまとめる能力を養成します。

## **自主的、継続的な学習能力【自己実現力】**

多くの講義、実験、演習科目と特別研究において、情報に関わる科学と工学の両面を考慮した応用能力や、時代変化に対応する自己学習能力を養成します。

## **その他**

情報系学科では、広範囲な分野の専門的技術を学生の興味に応じて系統的に習得できるように、「計算機工学コース」と「知能ソフトウェアコース」の2コースを設定しています。各コースでは、上記の学科教育目標に加えて、それぞれ以下のようないい教育目標に従った教育を実践します。

### **計算機工学コース**

コンピュータの仕組みや動作の基本原理を理解してその応用力を養います。そのために、論理設計やコンピュータアーキテクチャに関する科目を必修とし、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて基礎教育を行います。これらの技術を磨くためには、コンピュータの応用技術の知識も重要であることから、興味ある科目的選択を可能としています。

### **知能ソフトウェアコース**

コンピュータを利用した高度情報処理システムの専門家の養成をめざします。具体的には、知識工学や画像処理に関する科目を必修とし、言語、知識、音声、画像処理に関連した基礎教育を行います。これらの技術を磨くためには、コンピュータのハードウェアやソフトウェアの知識も重要であることから、興味ある科目的選択を可能としています。

## 情報系学科(計算機工学コース, 知能ソフトウェアコース)

コース名	科目区分		授業科目名	開講セメスター								1科目の単位数	履修要件	卒業要件単位	
				1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期				
コース 必修科目 教養教育科目 選択科目	ガイダンス科目	英語	機械システム系概論	○								1	留学生については必修外国語科目を個別に指定する	4	
			電気通信系概論	○								1			
			情報系概論	○								1			
			化学生命系概論	○								1			
	外国語科目		総合英語1		○							1	留学生については必修外国語科目を個別に指定する	4	
			総合英語2		○							1			
			総合英語3	○								1			
			総合英語4	○								1			
			総合英語5			○	○					1			
	個別科目	情報科学	情報処理入門 (情報機器の操作を含む)	○								2			2
コース 必修科目 教養教育科目 選択科目	主題科目	英語	現代の課題	「現代の課題」グループ科目	○	○	○	○	○	○	○	○	2	8単位以上	18 (22単位まで卒業要件単位とできる。)
			人間と社会	「人間と社会」グループ科目	○	○	○	○	○	○	○	○			
			健やかに生きる	「健やかに生きる」グループ科目	○	○	○	○	○	○	○	○			
			自然と技術	「自然と技術」グループ科目	○	○	○	○	○	○	○	○			
	個別科目	人文・社会科学	人文・社会科学系科目	○	○	○	○	○				○	2		
			自然科学系科目	○	○	○	○						2注1)		
		生命・保健科学	健康・スポーツ科学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	2単位以内	18 (22単位まで卒業要件単位とできる。)
			するスポーツ演習 みるスポーツ演習 支えるスポーツ演習	○	○								2		
	英語	英語	プレ上級英語	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	32以上 36以下	18 (22単位まで卒業要件単位とできる。)
			上級英語	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2		
			英語特別演習1					○	○	○	○	○	2		
			英語特別演習2					○	○	○	○	○	2		
		ドイツ語	ドイツ語初級	○	○								2		
			ドイツ語中級			○	○						2		
		フランス語	フランス語初級	○	○								2		
			フランス語中級			○	○						2		
		中国語	中国語初級	○	○								2		
			中国語中級			○	○						2		
		韓国語	韓国語初級	○	○								2		
			韓国語中級			○	○						2		
		ロシア語	ロシア語初級										2		
			ロシア語中級										2		
		スペイン語	スペイン語初級										2		
			スペイン語中級										2		
		イタリア語	イタリア語初級										2		
			イタリア語中級										2		
		日本語	日本語 (書くA, 読むA, 聞くA, 話すA, 書くB, 読むB, 聞くB, 話すB)	○	○	○	○						2	留学生用	

注1) 自然科学系科目には、1単位の開講科目もあります。

## 情報系学科(計算機工学コース, 知能ソフトウェアコース)

コース名	科目区分	授業科目名	開講セメスター	開講学期												1科目の単位数	履修要件	卒業要件単位
			1年次		2年次			3年次			4年次							
			1期	2期	1学期	2学期	3学期	4学期	1学期	2学期	3学期	4学期	1学期	2学期	3学期	4学期		
専門基礎科目	必修	微分積分	○						/								2	14
		線形代数	○					/									2	
		工学基礎実験実習(学科別)	○					/									2	
		工学安全教育(共通+学科別)		○				/									2	
		工学倫理						/		○							2	
		専門英語					○	/									2	
		技術表現法						/	○								2	
	選択	物理学基礎1(力学)			○												2	4 (10単位まで卒業要件単位とできる。) ◎は推奨科目
		物理学基礎2 (電磁気+電気回路(直流))			○												2	
		化学基礎			○												2	
		生物学基礎			○												2	
		プログラミング			◎												2	
		確率統計			◎												2	
		微分方程式			○												2	
専門教育科目	必修	プログラミング言語論				○			/								2	52
		データ構造とアルゴリズム			○			/									2	
		グラフ理論			○			/									2	
		プログラミング演習1			○			/									1	
		プログラミング演習2				○		/									1	
		コンピュータハードウェア				○		/									2	
		情報理論				○		/									2	
		応用解析				○		/									2	
		オペレーティングシステム				○		/									2	
		コンピューターアキテクチャ				○		/									2	
		システムプログラミング1				○		/									1	
		システムプログラミング2					○		/								1	
		応用数学					○		/								2	
		プログラミング技法						○	/								2	
		非手続き型言語						○	/								2	
		人工知能							○	/							2	
	専門科目	情報工学実験A(ハードウェア)						○	/								3	
		ソフトウェア設計							/	○							2	
		情報ネットワーク論							/	○							1	
		情報工学実験B(メディア処理)							/	○							3	
		ネットワークシステム							/		○						2	
		情報工学実験C(ソフトウェア)							/		○						3	
		特別研究							/						○		10	

## 情報系学科(計算機工学コース, 知能ソフトウェアコース)

コース名	科目区分	授業科目名	開講セメスター		開講学期								1科目の単位数	履修要件	卒業要件単位			
			1年次		2年次		3年次		4年次									
			1期	2期	1学期	2学期	3学期	4学期	1学期	2学期	3学期	4学期						
コース共通	学科専門科目	パターン認識と学習			○								1	12以上				
		計算機数学			○								1					
		論理設計				○							1					
		オブジェクト指向言語					○						2					
		データベース					○						2					
		コンピュータシステム					○						1					
		応用線形代数					○						2					
		オートマトンと言語理論					○						2					
		数理論理学					○						2					
		言語解析論					○						1					
		コンピュータグラフィックス					○						1					
		インターナシップ					○						2					
		制御論						○					2					
		ソフトウェア工学							○				1					
		デジタル信号処理							○				2					
計算機工学コース	専門教育科目	アルゴリズムと計算量							○				1	4				
		映像メディア処理							○				1					
		情報化における職業								○			2					
		コンピュータアーキテクチャII				○	/						2					
		コンパイラ				/	○						2					
		画像処理基礎				○							1					
知能ソフトウェア	コース専門科目	知識工学				○							2	2以上				
		3次元画像処理					○						1					
		画像処理基礎				○	/						1					
		知識工学				○	/						2					
		3次元画像処理				/	○						1					
		コンピュータアーキテクチャII				○							2					
		コンパイラ					○						2					
専門教育科目 計															90以上			
合 計															126			

注2)他学部又は他学科で開講される専門教育科目の修得単位は、教科に関する科目及び教職に関する科目を除き、6単位まで学科専門科目の選択科目の単位として認めます。

**情報系学科卒業要件単位数**

科 目 区 分		履 修 要 件	卒 業 要 件 单 位
教 養 教 育 科 目	ガイダンス科目	必修 (機械システム系概論, 電気通信系概論, 情報系概論, 化学生命系概論)	4単位
	外国語科目(英語)	必修 4単位(総合英語1, 総合英語2, 総合英語3, 総合英語4) 必修 4単位(総合英語5) プレゼンテーション, リーディング, ライティング, リスニングの4単位を修得すること	4単位
	個別科目(情報科学)	必修 2単位(情報処理入門)	2単位
	主 題 科 目	4つの主題グループのうちから、それぞれ1授業科目2単位以上を修得 計8単位以上	
個 別 科 目	人文・社会科学	選択 (注) 教養解析数理科学, 教養線型数理科学, 統計学入門 を除く。 健康・スポーツ科学科目は2単位まで選択科目の単位として認める。	18単位以上
	自然 科 学		22単位以下
	生命・保健科学		
	外 国 語 科 目		
小 計			32単位以上 36単位以下
専 門 教 育 科 目	専門基礎科目	必修14単位, 選択4単位以上10単位以下	90単位以上
	学科専門科目	必修51 52単位, 選択13 12単位以上	
	コース専門科目	必修4単位, 選択2単位以上	
合 計			126単位

(注)留学生については、履修外国語科目を個別に指定する。

**3年次実験(情報工学実験第一・第二・第三・第四A・B・C)履修要件**

(履修する年度の前年度末時点で、2年以上在学しているとともに以下の基準の全てを満たすこと。ただし、この要件は3年次編入学生には適用しない。)

- ① 専門教育科目の修得単位数が28単位以上であること。
- ② 教養教育科目と専門教育科目の修得単位数の合計が60 58単位以上であること。

**特別研究申請要件**

(申請する年度の前年度末時点で、3年以上(3年次編入生は1年以上)在学しているとともに以下の基準の全てを満たすこと。)

- ① 専門教育科目の修得単位数が72単位以上であること。
- ② 教養教育科目と専門教育科目の修得単位数の合計が110 108単位以上であること。
- ③ 教養教育科目の必修科目を全単位修得していること。
- ④ ③ プログラミング演習・情報工学実験の全単位を修得していること。  
ただし、第3年次編入生の学生には、①及び②の単位数からそれぞれ20単位を控除し、  
また、④ ③から情報工学実験の単位を除く。

**他学部、他学科履修について**

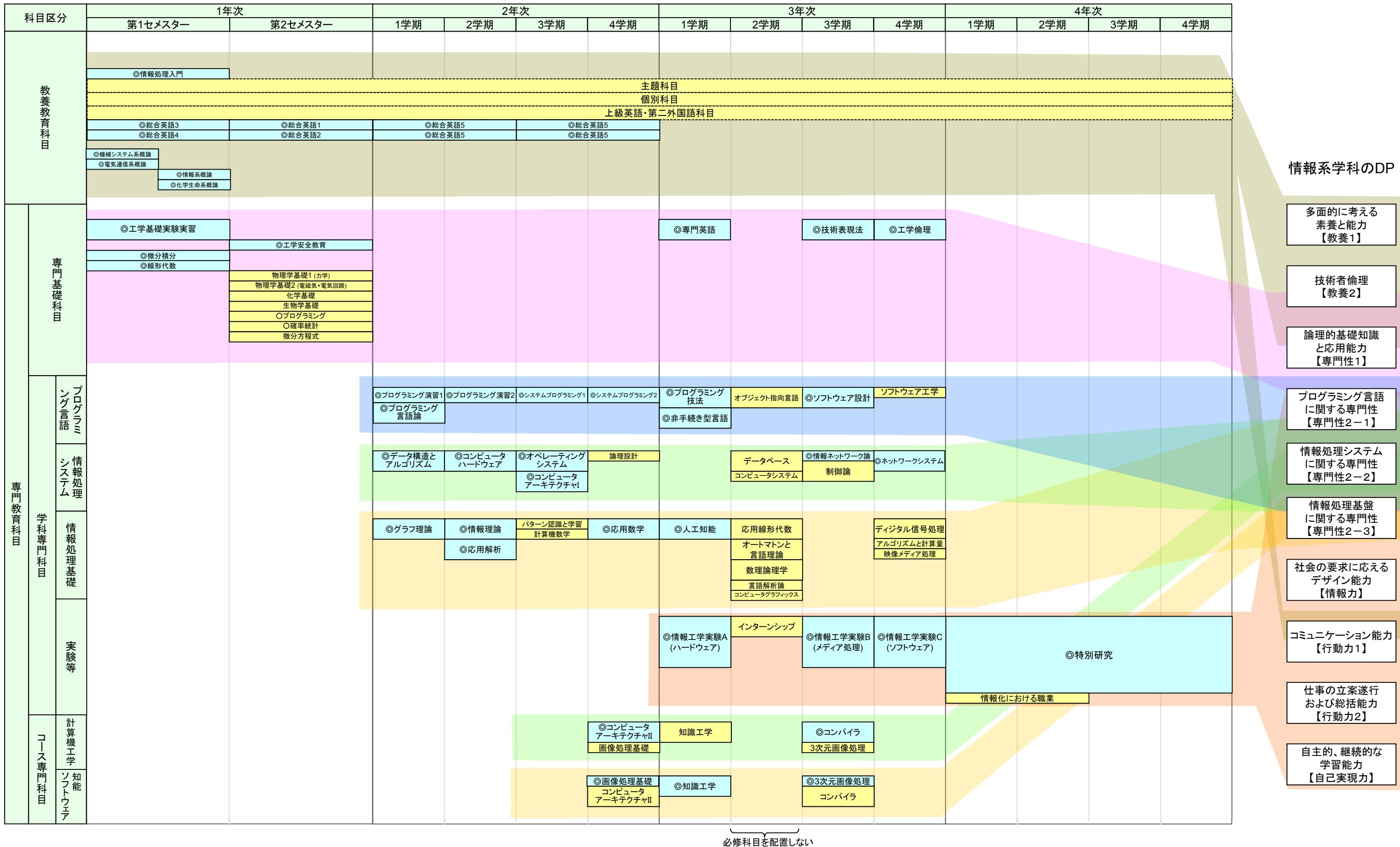
- ① 他学部、他学科の科目を修得した場合は、6単位まで学科専門科目の選択科目として取り扱う。  
ただし、教科に関する科目及び教職に関する科目は卒業要件外科目として取り扱う。
- ② 全学開放の専門教育科目のうち、工学部の他学科の科目を修得した場合は、学科専門科目の選択科目として取り扱う。
- ③ 他学部、他学科の専門教育科目を履修する場合は、必ず学科の承認を得て履修すること。

**中国・四国国立大学工学系学部間単位互換科目履修について**

- ① 中国・四国国立大学工学系学部間単位互換の科目を履修した場合は、6単位まで学科専門科目の選択科目として取り扱う。
- ② 中国・四国国立大学工学系学部間単位互換を履修する場合は、必ず学科の承認を得て履修すること。
- ③ 詳細は、単位互換科目履修案内を参照のこと。

## カリキュラムマップ（情報系学科）

週あたりの授業時間数を反映  
◎必修科目 選択科目 2h  
○は推奨科目



## 授業科目・授業要旨

科目名	授業要旨等
情報理論	3セメスター 学科専門科目 必修 2単位 以下のことを学び、情報量、通信路、伝送情報量、符号等について理解する。事象と確率、確率分布と情報、事象のあいまいさ(エントロピー)、エントロピーの性質、情報の伝達、情報量、伝送路と通信路容量、符号とは何か、符号の性質、ハフマン符号、ハミング距離と誤り訂正、誤り訂正の仕組み、連続信号の標本化、サンプリング定理。
数理論理学	3セメスター 学科専門科目 必修 2単位 近年の計算機科学、特にソフトウェア科学の分野において、問題や仕様といった情報のコンテンツに厳密で形式的な記述を与える技術が、基礎的な素養として重要である。ここではそのような技術の基礎となっている数理論理学の古典的述語論理の証明論の初步的な話題について講義する。
応用解析	3セメスター 学科専門科目 必修 2単位 計算機による数値計算のためのプログラミング技法とその数学的基礎について講述する。計算と誤差(数値の表現、丸め誤差、桁落ち)、関数の近似(ラグランジュ補間)、数値積分(台形公式、シンプソン公式、ニュートン・コーシーの公式、ガウスの積分公式)、非線形方程式(2分法、はさみうち法、ニュートン法)、連立1次方程式(クラメルの公式、ガウス消去法、LU分解、反復法)。
コンピュータ ハードウェア I	3セメスター 学科専門科目 必修 2単位 コンピュータシステムのハードウェア構成技術の概要を述べ、その基本要素であるデジタル回路の構成技術について詳述する。特に、CMOS技術を中心に各種論理ゲートの構造と動作原理、特性について説明し、さらに記憶素子の基本構造と特性について説明する。また、各種の論理LSIとその設計技術の概要について説明する。
データ構造と アルゴリズム	3セメスター 学科専門科目 必修 2単位 プログラミングの基礎となるデータ構造とアルゴリズムの基本概念、及びその具体的な記述について講述する。この講義では、待ち行列やリストなどの基本的なデータ構造、及び探索や整列を中心としたアルゴリズムを解説する。
プログラミング理論	3セメスター 学科専門科目 必修 2単位 コンピュータについて学びかつ研究するためにはプログラミング言語や形式言語は重要であり、それらの習得には、抽象化された集合と関係の概念、数理論理学、プログラムの記述とそれが表す計算の意味についての習得が前提となる。この講義では、プログラムの記述とその意味についての習得および数理論理学の初步についての習得に重点をおき、再帰と計算の基本的概念を理解することを目標とする。
プログラミング演習	3セメスター 学科専門科目 必修 2単位 プログラミングの基本を習得した者を対象に、C言語についての演習を行う。この講義では、言語機能のより進んだ内容について学習するほか、問題解決のためのアルゴリズムの設計と実装について例題を通して学習する。
応用数学第一	4セメスター 学科専門科目 必修 2単位 次の事項を学ぶ。1. 最小二乗法(データの表現、関数の表現)、2. 直交関数展開(関数の近似、計量空間)、3. フーリエ解析(フーリエ級数、フーリエ変換)、4. 固有値問題と2次形式(線形代数のまとめ、2次形式の標準形)、5. 主軸変換とその応用(主成分分析、画像の基底)。
オペレーティング システム	4セメスター 学科専門科目 必修 2単位 オペレーティングシステム(OS)は、計算機を動作させる基盤ソフトウェアである。OSは、ハードウェアを制御し、効率的な利用を可能にしている。また、上位ソフトウェア(応用プログラム)の効率的な動作を支援する機能を実現する。本講義では、OSの機能や構造およびその背景にある基本的な概念を講述する。主な内容として、ハードウェアとソフトウェアの構成、開始・終了と障害対処、例外と割り込み、プログラム管理、プロセス管理、メモリ管理、プロセス間通信、入出力制御、ファイル管理を講義する。
コンピュータ アーキテクチャ I	4セメスター 学科専門科目 必修 2単位 コンピュータアーキテクチャの基本概念とそれを具現化するハードウェア技術について講述する。先ず、コンピュータの概要と歴史、性能評価手法について解説し、さらに、アーキテクチャの基本である、機械語による命令表現とその動作、算術論理演算の方式について詳述するとともに、プロセッサの単純な実現方式とパイプライン処理の基本について講義する。引き続き「コンピュータアーキテクチャII」を受講することで、コンピュータアーキテクチャに関する学習が完結する。
システムプログラミング	4セメスター 学科専門科目 必修 2単位 本講義では C言語によるプログラミング修得者を対象に、システムプログラミングに関する理解をより深めるために不可欠なアセンブラーと C言語の関連部分について講述する。ポインタや構造体とアセンブラー言語との関係、C言語におけるメモリ管理とコンピュータアーキテクチャとの関係、プログラム実行以前のシステムの動作などについて解説する。

## 授業科目・授業要旨

科目名	授業要旨等
人工知能	5セメスター 学科専門科目 必修 2単位 人工知能は人間のように知的な思考を行う人工のシステムを目指した学問領域の総称であり、広い応用分野を持つ。この講義では、人工知能の基礎的な話題である発見的探索、制約充足、知識表現、一階述語論理に基づく推論、機械学習について講述する。 [備考] 質問は講義中および講義終了後、隨時受け付ける。積極的な参加を望む。
非手続き型言語	5セメスター 学科専門科目 必修 2単位 プログラミングパラダイムにおいて重要な関数プログラミングの基礎を修得することを目標とする。関数プログラミングの理論的な基礎であるラムダ計算について説明し、プログラミング言語MLを用いて実際にプログラミングを行う。
論理型言語	5セメスター 学科専門科目 必修 2単位 人工知能システムの論理的基礎として推論ソフトウェア論を概観する。特に、論理プログラミング言語系の原理を定理証明法と共に講述し、論理プログラミング言語系の計算がもつ意味や、否定命題を処理する過程にも言及する。これにより人工知能システムの論理的側面へ至る。また、非手続き型プログラミングの概念も学習する。
情報工学実験第一	5セメスター 学科専門科目 必修 3単位 本実験では、コンピュータシステムのハードウェアに関する基本的な技術を扱う。コンピュータの中心部であるプロセッサの基本構造と動作原理を、論理回路に関する実験とプロセッサの設計を通して理解する。論理回路実験では、回路特性の測定法、組合せ論理回路、順序回路に関する実験を行なう。プロセッサ設計では、ハードウェア設計システム(CAD)を用いて簡単なプロセッサの設計と動作検証を行なう。
情報工学実験第二	5セメスター 学科専門科目 必修 3単位 本実験では、コンピュータシステムのソフトウェアに関する基本的かつ重要な技術を扱う。手続き型プログラミング言語コンパイラの作成実験を通して、コンパイラの基礎となる理論、アルゴリズム、データ構造、プログラミング技法を理解するとともに、比較的大規模な、ソフトウェア開発手法を体得する。
情報工学実験第三	6セメスター 学科専門科目 必修 1単位 計算機システムのネットワークに関する技術を習得するため、ソケット通信を題材として、クライアント・サーバプログラム作成の実験を行う。これにより、計算機の通信処理の基礎を学習する。
情報工学実験第四	6セメスター 学科専門科目 必修 2単位 画像や音声などの実世界情報処理は、現代のコンピュータシステムにおける重要な技術である。本実験では、画像処理実験を通して画像情報処理に関する基礎的知識と技術を理解する。
情報ネットワーク論	6セメスター 学科専門科目 必修 2単位 計算機は通信路で結ばれ、インターネットに代表される通信網により、複数の計算機を利用した様々なサービスが実現されている。本講義では、計算機間の通信方式および通信網について講述する。主な内容として、OSIモデル、通信の基本原理、通信規約(通伝プロトコル)、交換方式を講義する。
プログラミング技法	6セメスター 学科専門科目 必修 2単位 ソフトウェアの良し悪しは、設計の良さと、施工(記述方法)の良さによって大きく左右される。本講義では、ソフトウェア作成に重要な設計手法と、実際的なコード記述の技法について講述する。主な内容として、設計と実装、スタイル、テストとデバッグ、性能と移植性、記法を講述する。
特別研究	7・8セメスター 学科専門科目 必修 10単位 自然科学研究科博士前期課程電子情報システム工学専攻(情報系)あるいは自然科学研究科博士後期課程産業創成工学専攻計算機科学講座における研究環境の下で、課題に関する理論・実験などを通じて、問題解決能力や課題探求の方法を訓練し、特別研究報告書を作成して自らの考えを明確に記述し表現する能力を養う。
プログラミング言語論	3セメスター 学科専門科目 選択 2単位 ひとつのプログラミング言語は、多くの概念を統合して実装されている。いくつかの言語をとりあげ、いかに概念が統合されているかを議論する。それら概念が、言語学/論理学/数学(文法、集合、意味、述語論理、数、構造、証明)などの分野と共に起源をもち、かつ、プログラム作成という実践(記録/番地、モデル)に起源をもつことを觀察する。平たく言うと、日々の活動を、数と、数の集まりと、それらの変化で表すために、どのように、表す場所をとり、間違いが少なく表しやすくするかを議論する。
計算機数学 I	3セメスター 学科専門科目 選択 2単位 本講義では、(形式)言語の定義を述べ、有限オートマトン、文脈自由言語、ブッシュダウンオートマトン等の基本的な性質について講述する。オートマトンとは計算する機械のモデルであり、形式言語とは記号の集合(アルファベット)上の記号列の集合である。この2つの概念はともに相補い、計算の理論の豊かさを支える2大支柱である。

## 授業科目・授業要旨

科目名	授業要旨等
グラフ理論	4セメスター 学科専門科目 選択 2単位 グラフとは集合の要素の間のある種の結び付きの状態を抽象化した概念であり、それについて研究するグラフ理論は、今日では計算機科学を含む広い分野の基礎理論として極めて重要になっている。授業は、諸定義の後、パスとサイクル、木の性質、グラフの平面性、彩色等、理論上および応用上重要なと考えられる話題について講義する。
計算機数学Ⅱ	4セメスター 学科専門科目 選択 2単位 本講義では、情報工学の様々な分野の専門科目を学ぶ際に必要と考えられる、基礎的な計算機数学について講述する。具体的には、集合論、同値関係や順序関係などの二項関係、代数系として重要な群、束とブール代数、環、体などについて講述する。
コンパイラ	4セメスター 学科専門科目 選択 2単位 プログラミング言語における基礎的な概念および形式化について述べ、プログラミング言語処理系の概要と構成・実現法を講述する。特に、高水準プログラミング言語で書かれたプログラムをアセンブリ言語／機械語のプログラムに変換する変換系(コンパイラ)における基本的な技術である字句解析、構文解析、意味解析、コード生成を中心に講述する。
言語解析論	4セメスター 学科専門科目 選択 2単位 人間の話す言語をコンピュータ上で処理する自然言語処理の基礎技術ならびに、応用処理を取り上げる。まず基礎技術として、形式言語のチャムスキーフェン、正規文法とオートマトン、文脈自由文法とプッシュダウンスタックオートマトン、時系列を学習する隠れマルコフモデル(HMM)、最適解探索手法など数学的なモデルについて説明する。これらの原理をもとに処理としては、形態素解析、構文解析、翻訳、情報抽出、意味解析について講述し、文書を解析する手法について述べる。
パターン認識と学習	5セメスター 学科専門科目 選択 2単位 パターン認識とは画像や文書、音声から必要とする情報を獲得する技術である。学習によって人が作成した正解データから分類すべき特徴を自動で学習して、未知の入力から必要とする情報を取り出す。本講義では、基本的なモデルである最近傍法、ペーセプトロン、バックプロパゲーション、情報源の分布を仮定する生成モデル、SVMなどの判別モデルについて基礎を中心に述べる。
制御論	5セメスター 学科専門科目 選択 2単位 計算機は、その処理の高速性を活かし、多くの制御システムの中核を成している。本講義では、制御理論の基礎および計算機を利用した制御システムについて講述する。主な内容として、フィードバック制御系の基本構成、応答性、安定性、計算機を利用した制御システムの基本構成を講義する。
コンピュータシステムⅠ	5セメスター 学科専門科目 選択 2単位 現在、我々の身の回りに存在するコンピュータシステムは、CPUやメモリ以外に通信インターフェースやキーボード、ディスプレイ装置といった様々な入出力機器から構成されている。本講義では、コンピュータシステムを構成するハードウェアとその制御方式、ソフトウェアとの界面部分について講述する。
応用数学第二	5セメスター 学科専門科目 選択 2単位 2次元および3次元空間の図形の表現と計算法を学ぶ。1. 平面幾何学(平面ベクトルの内積と外積、平面上の射影と回転、平面上の直線と曲線)、2. 空間幾何学(空間ベクトルの内積と外積とスカラ三重積、空間の射影と回転、空間の直線と平面と曲線)、3. 曲面の幾何学(曲面の表現、曲面の曲率)。
インターンシップ	5セメスター 学科専門科目 選択 2単位 大学の講義は基礎的な専門知識を学ぶ上で必須であることは言うまでもないが、企業で一定期間(原則2週間程度)就業体験を積むことも、将来技術者として実社会で活躍するためには有用である。この授業では、就業体験を通じて実際のものづくりや企業の研究開発の一端を垣間見ることで、学内の講義では得難い知識や技術者としての心構えなどを学ぶ。
アルゴリズムと計算量	6セメスター 学科専門科目 選択 2単位 問題をコンピュータで処理する場合、問題の定式化、アルゴリズムの設計、コーディング、デバッグという手順を踏む。アルゴリズムの設計までの段階において、データ構造、アルゴリズムの技法、計算モデルの選択が計算量に与える影響、および、NP完全問題に代表される「手に負えない問題」は、基本方針を検討する上で重要な役割を演じる。この講義では、これらについての基礎的な知識や手法の修得を目標に、計算量の定義と表現方法、深さ優先探索、動的計画法、グラフ問題についてのアルゴリズム、近似アルゴリズム、乱択アルゴリズム、NP完全問題などの話題について講述する。
映像メディア処理	6セメスター 学科専門科目 選択 2単位 マルチメディア時代の到来を迎へ、従来の画像認識と画像生成を統合した映像メディア処理の重要性が高まりつつある。本講義では、映像メディア処理の基本的な構成と最新の動向について講述する。 [備考] 「画像処理」および「パターン認識と学習」の受講を前提とする。質問は講義中および講義終了後、隨時受け付ける。積極的な参加を望む。
データベース論	6セメスター 学科専門科目 選択 2単位 近年のデータベース・システムで多く採用されているリレーショナルデータベースを例に、データベース構築の際に要求される様々な事項とその解決方法の形式的モデルの上で定式化について述べる。

## 授業科目・授業要旨

科目名	授業要旨等
コンピュータシステムⅡ	6セメスター 学科専門科目 選択 2単位 計算機ハードウェア技術の進歩により、高機能な分散システムの構築が可能になっている。本講義では、分散処理のハードウェア構成とその基本構成について述べる。また、分散処理を実現している基盤技術とその上位にある技術について述べる。具体的には、分散アルゴリズム、負荷分散などのシステム化技術、分散オブジェクト、電子メール、およびWebサービスの基本的な技術について述べる。
オブジェクト指向プログラミング	6セメスター 学科専門科目 選択 2単位 Java言語などにより、オブジェクト指向のプログラミングを学習する。オブジェクトの作成とメソッド呼び出し、処理の流れ、配列などに関して、概念や技術的な方法を紹介する。
計算理論	6セメスター 学科専門科目 選択 2単位 計算機による音声や画像などの処理は、全てデジタル信号処理である。この講義では、アナログ信号処理の基礎を習得していることを前提に、離散時間信号と離散時間システムの解析について学ぶ。時不変システム、Z変換、デジタルフィルタなどが主な項目である。
コンピュータグラフィックス	6セメスター 学科専門科目 選択 2単位 3次元物体の画像を生成・表示するコンピュータグラフィックスの原理とさまざまな技法を学ぶ。3次元形状のモデリング、3次元形状の2次元投影、3次元形状の変形と移動、隠れ面の消去、シェーディング、テクスチャマッピング、レイトレンジング、色の表現、アニメーション、その他種々の応用。
情報化における職業	7セメスター 学科専門科目 選択 2単位 情報化の技術背景としてオートメーションとコミュニケーションを取り上げ、それに関わる職業観を示す。さらに職業倫理面における重要な考え方をまとめる。そのために工場からサービスにいたるまでのオートメーション、社会の自動化、情報ネットワークとコミュニケーションの意義を概観する。
論理設計	4セメスター 計算機工学コース…必修 知能ソフトウェアコース…選択 2単位 本講義ではブール代数、論理関数、標準形、完全系、論理圧縮などのデジタル回路の基礎理論を体系的に学んだ後、組み合わせ論理回路と順序回路について実用的な回路を例に解説する。また、多くの演習を通じて応用力の養成を目指す。
コンピュータアーキテクチャⅡ	5セメスター 計算機工学コース…必修 知能ソフトウェアコース…選択 2単位 コンピュータの高性能化を実現するための各種の構成方式について述べる。特に、プロセッサの高度な制御方式による性能向上技術、キャッシュや仮想記憶などの記憶階層を利用した性能向上技術について述べるほか、マルチコア、マルチプロセッサによる並列処理技術について詳述する。「コンピュータアーキテクチャⅠ」に統いて受講することが望ましい。
画像処理	4セメスター 知能ソフトウェアコース…必修 計算機工学コース…選択 2単位 画像情報処理の基礎理論と実際の処理アルゴリズムについて講述する。まず、画像入力を画像生成過程から捉え、画像情報のもつ特性を考察するとともに、アナログ信号からデジタル信号が得られる過程を述べる。引き続き、2次元画像処理、および3次元画像処理の基礎理論と基本アルゴリズムを述べる。 [備考] 質問は講義中および講義終了後、隨時受け付ける。積極的な参加を望む。
知識工学	5セメスター 知能ソフトウェアコース…必修 計算機工学コース…選択 2単位 知識工学は知識の表現、知識の利用、知識の獲得に関する学問である。人工知能で培われた記号推論技法の成果をもとに、現実の複雑な問題の解決に適用することをめざすものである。本講義では、知識の表現と、知識の利用・応用について講述する。知識表現では、記号論理や非単調性を扱う拡張した論理を焦点に講義し、応用では統計的手法を取り入れた、決定木、ベイジアンネットワークを中心に講義する。具体的なデータから知識を抽出する方法について述べる。

# 化学生命系学科の教育課程編成・実施の方針

化学生命系学科は、学生が卒業するにあたって、前述の化学生命系学科ディプロマポリシーに掲げる学士力が身につくことを目標とし、以下のカリキュラムポリシーに述べる基本方針に従って教育課程を編成し、教育を実施します。

## 化学生命系学科カリキュラムポリシー

化学は、分子の合成・創製、機能材料や物質の創造、生産を通して、医薬・農薬、精密機械、自動車、電子・情報など広範な産業に深く貢献し、現在の工業社会を基盤から支えている学問です。また、遺伝子、タンパク質、細胞の研究や、それらをさらに発展させた人工的な新機能生体素材の開発、人口の急激な増加による食糧問題、健康と医療（バイオ）、資源の枯渇化対策としてのエネルギー問題、地球環境問題などの大きな問題の解決に重要な役割を果たす領域として化学と生命科学を融合した教育が重要になってきました。

化学生命系学科は、時代の変化と要求に柔軟に対応し、多種多様な諸問題を解決するために、最前線で活躍できるチャレンジ精神の旺盛な技術者・研究者を、化学、生命科学、工学が調和した教育プログラムと最先端の研究を通じた教育活動により育成することを目指しています。

### 多面的に考える素養と能力【教養1】

地球的視野から多面的に物事を考える能力を育み、知的好奇心を養うため、教養教育科目として主題科目、個別科目、外国語科目として設定される幅広い学問分野から自由に授業を選択し、履修します。また、工学全体にわたる知識を涵養するため、ガイダンス科目として所属学科に囚われず、全学科の教育・研究についてその特徴的な部分を俯瞰的に学びます。

### 技術者倫理【教養2】

無機、有機化合物や遺伝子、微生物を扱うためには、その安全性、社会や自然に及ぼす影響や効果を理解することが必要です。学部必修科目である技術者倫理だけでなく、無機化学、有機化学、生化学などの基礎科目に授業のなかでも取りあげ、学んでいきます。

### 論理的基礎知識と応用能力【専門性1】

工学部必修科目である数学、物理学とそれに関係する論理学などの教養教育科目を履修することにより、自然科学を学ぶために必要な基礎知識と論理的な思考による問題解決の能力を養います。

### 専門知識と応用能力【専門性2-1】

化学生命系分野を支える基礎科目として物理化学、無機化学、有機化学、生化学の確実な修得と専門各論を学ぶための基礎形成、応用能力の涵養を目指し、少人数クラスでの講義と演習を導入します。

### 技術創出と装置・物質の創造・設計力【専門性2-2】

化学技術やバイオテクノロジー技術を創出する能力を育成するため、反応工学や有機工業化学、遺伝子工学等の多彩な専門科目群を履修させるとともに、化学装置設計製図や立体化学、分子生物学等の専門科目群を通して装置・物質の設計能力を高めます。

### 実験の計画、実行、データ解析力【専門性2-3】

化学やバイオテクノロジーの基礎となる学問領域の本質を理解・体験するとともに、技術的能

力を修得するために実験を各年次で行い、実験の計画の立案、実行、データ整理、考察、成果を発表する能力を育成します。

### **社会の要求に応えるデザイン能力【情報力】**

広範な領域を網羅する専門各論を系統的に習得するとともに、情報処理に関する演習科目を通じて、社会的 requirement に応えるデザイン能力を育成します。

### **コミュニケーション能力【行動力1】**

各年次に配置された実験および演習科目や外国語科目において、日本語および外国語による論理的記述能力、プレゼンテーション能力、討議等におけるコミュニケーション能力を養成します。

### **仕事の立案遂行および総括能力【行動力2】**

実験や演習などの授業を通じて、与えられた課題に関する関連情報の検索・収集から、実験を含む課題検討の計画立案・実行、および検討結果の整理・取りまとめまで、解決に至る一連の過程を数多く体験させ各作業を実行および総括する能力を養成します。

### **自主的、継続的な学習能力【自己実現力】**

化学生命系分野の基礎となる関連科学体系の理論的・実験的本質を、自主的かつ継続的な学習と実験的探究を通じて学び取り、研究者・技術者として必須の基本的能力を習得します。

## **その他**

化学生命系学科では、広範囲な分野の専門的技術を学生の興味に応じて系統的に習得できるように、以下のような、「材料・プロセスコース」、「合成化学コース」、「生命工学コース」という3つの教育カリキュラムを設定しています。化学生命系学科では、いずれの教育カリキュラムを習得しても、4年次の特別研究では、選択したコースにかかわらず配属される研究室を自由に希望できます。これにより、3年時までに習得した基礎知識をさらに深化させ、幅広い知識を有する多様な人材の育成を目指しています。各コースでは、上記の学科教育目標に加えて、それぞれ以下のような教育目標に従った教育を実践します。

### **材料・プロセスコース**

化学結合や物質の構造、物性などの本質と、基本原理を理解する能力を身に付け、新しい化学技術や物質を創造できる能力を養成します。さらに、反応の化学工学的側面からの理解とアプローチができる能力を育て、実際の産業に不可欠な装置設計など実務能力を育成します。

### **合成化学コース**

化学結合、化学反応などの本質と、基本原理を理解する能力を身に付け、新しい分子や物質を創造する能力を養成します。さらに、量子化学的な考え方や機器分析による物質の構造解析の力を育て、分子の性質の予測や化学反応を駆使して機能性物質を設計することができる能力を育成します。

### **生命工学コース**

本コースの中心となる科目群では、生物が保有するさまざまな物質や、生物が巧みに利用している生化学反応を、その分子や反応原理に立ち返って理解することをめざしています。さらに、これらの基礎知識を発展させて、バイオテクノロジー分野をはじめとするあらゆる関連領域へ柔軟に応用していく能力や新しい有用な物質および技術を創出していく能力を育成します。

## 化学生命系学科(材料・プロセスコース・合成化学コース・生命工学コース)

コース名	科目区分		授業科目名	開講セメスター								1科目の単位数	履修要件	卒業要件単位	
				1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期				
必修科目	ガイダンス科目	英語	機械システム系概論	○								1	留学生については必修外国語科目を個別に指定する	4	
			電気通信系概論	○								1			
			情報系概論	○								1			
			化学生命系概論	○								1			
			総合英語1		○							1			
		個別科目	総合英語2		○							1	留学生については必修外国語科目を個別に指定する	4	
			総合英語3	○								1			
			総合英語4	○								1			
			総合英語5			○	○					1			
			情報処理入門 (情報機器の操作を含む)	○								2			2
教養教育科目	主題科目	英語	現代の課題「現代の課題」グループ科目	○	○	○	○	○	○	○	○	8単位以上 4つの主題グループのうちから、それぞれ1授業科目2単位以上を履修	2	4	
			人間と社会「人間と社会」グループ科目	○	○	○	○	○	○	○	○				
			健やかに生きる「健やかに生きる」グループ科目	○	○	○	○	○	○	○	○				
			自然と技術「自然と技術」グループ科目	○	○	○	○	○	○	○	○				
	個別科目	自然科学	人文・社会科学人文・社会科学系科目	○	○	○	○	○				2			
			自然科学系科目	○	○	○	○	○				2 注1)	4単位以上	4	
			現代化学1		○							2 注2)			
			現代化学2		○							2 注2)			
	選択科目	生命・保健科学	現代生命科学		○							2 注2)	最大4単位まで卒業要件単位として算入可能	18	
			健康・スポーツ科学	○	○	○	○	○	○	○	○	2			
			するスポーツ演習	○	○	○	○					2			
			みるスポーツ演習												
	外國語科目	英語	支えるスポーツ演習	○	○	○	○								
			プレ上級英語	○	○	○	○	○	○	○	○	2	留学生については履修外國語科目を個別に指定する。	4	
			上級英語	○	○	○	○	○	○	○	○	2			
			英語特別演習1					○	○	○	○	2			
		ドイツ語	英語特別演習2					○	○	○	○	2			
			ドイツ語初級	○	○							2			
			ドイツ語中級			○	○					2			
			フランス語初級	○	○							2			
		中国語	フランス語中級			○	○					2			
			中国語初級	○	○							2			
			中国語中級			○	○					2			
			韓国語初級	○	○							2			
		ロシア語	韓国語中級			○	○					2			
			ロシア語初級									2			
			ロシア語中級									2			
			スペイン語初級									2			
		イタリア語	スペイン語中級									2			
			イタリア語初級									2			
			イタリア語中級									2			
			日本語 (書くA, 読むA, 開くA, 話すA, 書くB, 読むB, 開くB, 話すB)	○	○	○	○					2	留学生用		
教養教育科目 計														32	

注1) 自然科学系科目には、1単位の開講科目もある。

注2) 「現代化学1」「現代化学2」「現代生命科学」を教養教育科目の卒業要件単位として算入しない場合には、4単位まではコース専門科目の選択Bの卒業要件単位として数えることができる。

## 化学生命系学科(材料・プロセスコース・合成化学コース・生命工学コース)

コース名	科目区分	授業科目名	開講セメスター		開講学期								1科目の単位数	履修要件	卒業要件単位			
			1年次		2年次		3年次		4年次									
			1期	2期	1 学期	2 学期	3 学期	4 学期	1 学期	2 学期	3 学期	4 学期						
コース 専門基 礎科目 専門教 育科目 共通科 目	必修	微分積分	○											2	④ (10単位まで卒業要件にできる)	14		
		線形代数	○											2				
		工学基礎実験実習(学科別)	○											2				
		工学安全教育(共通+学科別)		○										2				
		工学倫理						○						2				
		専門英語							○					2				
		技術表現法							○					2				
	選択	物理学基礎1(力学)		○										2	④ (10単位まで卒業要件にできる)	4		
		物理学基礎2(電磁気+電気回路(直流))		○										2				
		化学基礎		◎										2				
		生物学基礎		◎										2				
		プログラミング		○										2				
		確率統計		○										2				
		微分方程式		○										2				
コース 専門科目 必修 専門科目 選択	必修	無機化学1				○								2	③ (8単位まで卒業要件にできる)	30		
		有機化学1				○								2				
		物理化学1			○									2				
		生化学1				○								2				
		無機化学2					○							2				
		有機化学2					○							2				
		物理化学2					○							2				
		生化学2					○							2				
		化学生命系英語				○								2				
		基礎化学実験			○									2				
	選択	特別研究											○	10				
		有機化学基礎	◎											2	④ (10単位まで卒業要件にできる)	8		
		分析化学		◎										2				
		量子化学					○							2				
		化学工学1					○							2				
		インターナシップ							○					2				
		放射線安全利用工学及び実験				○								2				

### 化学生命系学科(材料・プロセスコース・合成化学コース・生命工学コース)

コ ー ス 名	科 目 区 分	授業科目名	開講セメスター		開講学期								1科 目の 単位 数	履修要件	卒業 要件 単位			
			1年次		2年次		3年次		4年次									
			1 期	2 期	1 学 期	2 学 期	3 学 期	4 学 期	1 学 期	2 学 期	3 学 期	4 学 期						
専 門 科 目 に よ り 履 修 が 異 な る 専 門 科 目 ( コ ース 専 門 科 目 )	材料・プロセスコース必修	材料プロセス実験1			○									2	8			
		材料プロセス実験2				○								2				
		材料プロセス実験3					○							2				
		化学装置設計製図 注3)					○							2				
	合成化学コース必修	合成化学実験1				○								2	6			
		合成化学実験2				○								2				
		合成化学実験3					○							2				
	生命工学コース必修	生命工学実験1				○								2	6			
		生命工学実験2				○								2				
		生命工学実験3					○							2				
	選択A	物理化学3			◎									2	注4)			
		無機化学3			◎									2				
		物理化学4				○								2				
		無機化学4				○								2				
		化学工学2			○									2				
		有機化学3			◎									2				
		有機化学4				○								2				
		高分子化学				○								2				
		機器分析			○									2				
		生化学3			◎									2				
	選択B	生化学4				○								2	注6)			
		分子生物学				○								2				
		生物物理学			○									2				
		高分子物性化学					○							1				
	育															注8)		
	科																	
	目																	
	(コ ース 専 門 科 目 )																	
	選 択 B																	
	材 料 ・ プロ セ ス 科 目																	
	材 料 ・ プロ セ ス 科 目																	
	材 料 ・ プロ セ ス 科 目																	
	材 料 ・ プロ セ ス 科 目																	
	材 料 ・ プロ セ ス 科 目																	
	材 料 ・ プロ セ ス 科 目																	
	材 料 ・ プロ セ ス 科 目																	
	材 料 ・ プロ セ ス 科 目																	
	材 料 ・ プロ セ ス 科 目																	
	材 料 ・ プロ セ ス 科 目																	
	材 料 ・ プロ セ ス 科 目																	
	材 料 ・ プロ セ ス 科 目																	
	材 料 ・ プロ セ ス 科 目																	
	材 料 ・ プロ セ ス 科 目																	
	材 料 ・ プロ セ ス 科 目																	
	材 料 ・ プロ セ ス 科 目																	
	材 料 ・ プロ セ ス 科 目																	
	材 料 ・ プロ セ ス 科 目																	
	材 料 ・ プロ セ ス 科 目																	
	材 料 ・ プロ セ ス 科 目																	
	材 料 ・ プロ セ ス 科 目																	
	材 料 ・ プロ セ ス 科 目																	
	材 料 ・ プロ セ ス 科 目																	
	材 料 ・ プロ セ ス 科 目																	
	材 料 ・ プロ セ ス 科 目																	
	材 料 ・ プロ セ ス 科 目																	
	材 料 ・ プロ セ ス 科 目																	
	材 料 ・ プロ セ ス 科 目																	
	材 料 ・ プロ セ ス 科 目																	
	材 料 ・ プロ セ ス 科 目																	
	材 料 ・ プロ セ ス 科 目																	
	材 料 ・ プロ セ ス 科 目																	
	材 料 ・ プロ セ ス 科 目																	
	材 料 ・ プロ セ ス 科 目																	
	材 料 ・ プロ セ ス 科 目																	
	材 料 ・ プロ セ ス 科 目																	
	材 料 ・ プロ セ ス 科 目																	
	材 料 ・ プロ セ ス 科 目																	
	材 料 ・ プロ セ ス 科 目																	
	材 料 ・ プロ セ ス 科 目																	
	材 料 ・ プロ セ ス 科 																	

## 化学生命系学科卒業要件単位数

科目区分		履修要件	卒業要件単位
教養教育科目	ガイダンス科目	必修 (化学生命系概論、機械システム系概論、電気通信系概論、情報系概論)	4単位
	外国語科目	必修 (総合英語1, 総合英語2, 総合英語3, 総合英語4)	4単位
		必修 (総合英語5) プレゼンテーション、リーディング、ライティング、リスニングの4単位を修得すること。	4単位
	主題科目	選択 <del>4つの主題グループのうちから、それぞれ1授業科目2単位以上を修得——計8単位</del>	20単位
	個別科目	人文・社会科学 自然科学 4単位以上 (注1) 情報科学 必修 情報処理入門 2単位 生命・保健科学 <b>最大4単位まで卒業要件単位として算入可能</b>	
	外国語科目	選択 上級英語、英語特別演習及び初修外国語科目のうちから <b>2授業科目4単位以上を修得すること</b>	
	小計		32単位
	専門基礎科目	必修 14単位 選択 4単位 (10単位までは卒業要件単位として算入できる(注3))	18単位
	学科専門科目	必修 30単位 選択 (注4) 8単位	38単位
専門教育科目	コース専門科目	必修 材料・プロセスコース 8単位、合成化学及び生命工学コース 6単位 選択A (注5) 12単位 選択B (注6) 材料・プロセスコース 18単位、合成化学及び生命工学コース 20単位 TOEICが450点以上であること	38単位
	小計		94単位
	合計		126単位

(注1) 「現代化学1」、「現代化学2」、「現代生命科学」を教養教育科目的卒業要件単位として算入しない場合には、4単位まではコース専門科目の選択Bの卒業要件単位として数えることができる。

(注2) 留学生については、履修外国語科目を個別に指定する。

(注3) 4単位を超えて修得した単位は、それらを除く6単位までについてコース専門科目(選択B)の卒業要件単位として数えることができる。

(注4) 8単位を超えて修得した単位はコース専門科目(選択B)の卒業要件単位として数えることができる。

(注5) 材料・プロセスコースは選択Aのカテゴリー1から6単位以上、カテゴリー2と3の中から6単位以上修得すること。  
合成化学コースは選択Aのカテゴリー2から6単位以上、カテゴリー1と3の中から6単位以上修得すること。  
生命工学コースは選択Aのカテゴリー3から6単位以上、カテゴリー1と2の中から6単位以上修得すること。

なお、上記の単位数を超えて修得した単位はコース専門科目(選択B)の卒業要件単位として数えることができる。

(注6) 他学科で開講される専門科目の修得単位は、教科に関する科目及び教職に関する科目を除き、8単位までコース選択科目(選択B)の卒業要件単位として数えることができる。

## コース専門科目実験(材料プロセス実験1、合成化学実験1、生命工学実験1)履修要件 (前期終了時)

(ただし、この要件は3年次編入学生には適用しない。)

科目区分	卒業要件単位のうち必ず修得していかなければならない科目	卒業要件単位の修得数
教養教育科目	外国語科目 4単位	20単位
専門教育科目	工学基礎実験実習 2単位、基礎化学実験 2単位	23単位
合計		43単位

## 3年次実験(材料プロセス実験2・3、合成化学実験2・3、生命工学実験2・3)履修要件

(ただし、この要件は3年次編入学生には適用しない。)

履修する年度の前年度末時点での、2年以上在学しているとともに所属するコースの専門科目実験1(材料プロセス実験1、合成化学実験1、生命工学実験1)の単位を修得していること。
---

## 特別研究申請要件

(申請する年度の前年度末時点で、3年以上(3年次編入生は1年以上)在学しているとともに以下の基準の全てを満たすこと。)

① 修得した卒業要件単位数の合計が <b>106100</b> 単位以上であること。
② 工学基礎実験実習、工学安全教育、基礎化学実験、および所属するコースの専門科目実験1~3の単位を修得していること。
③ TOEICが400点以上であること。

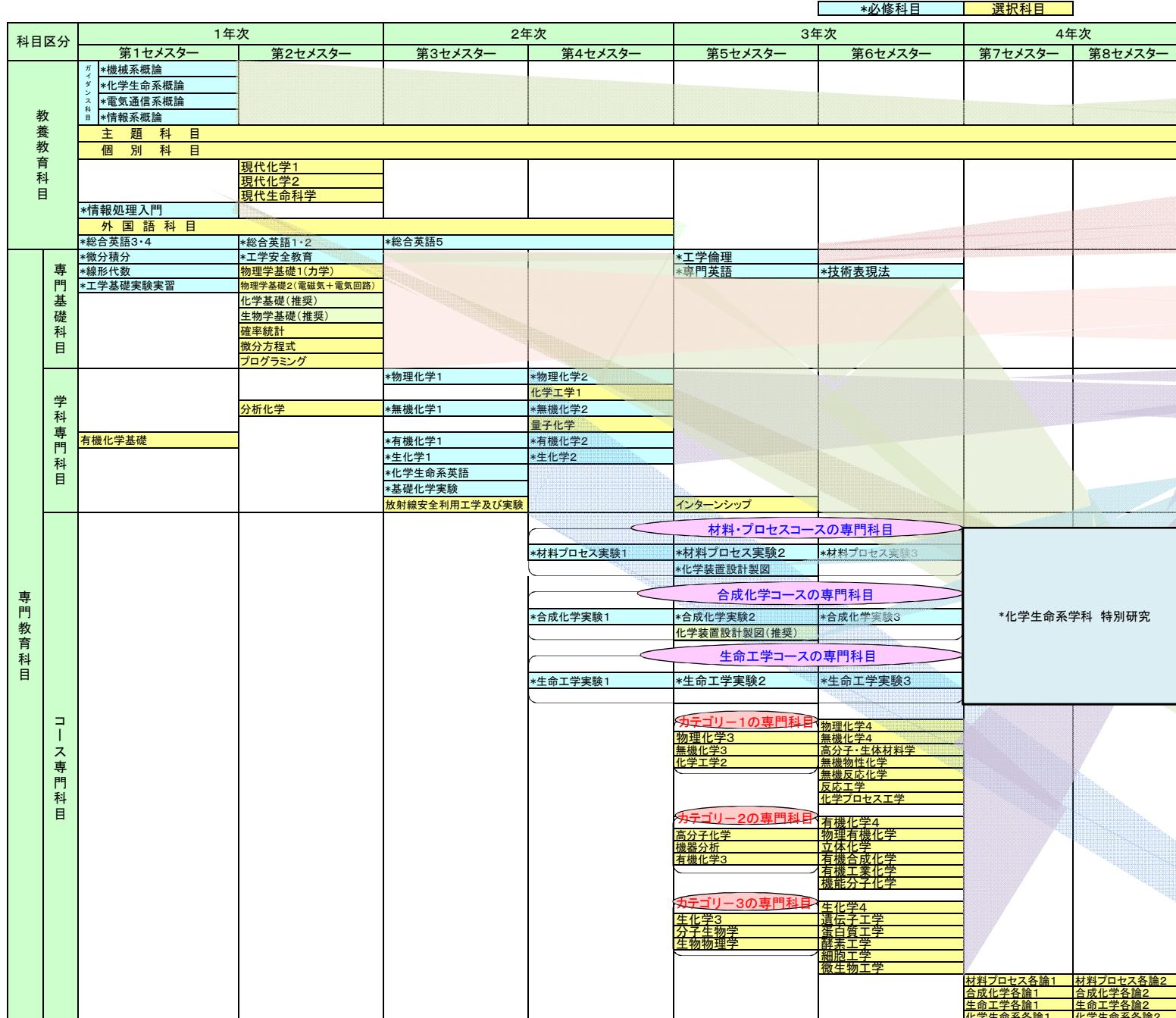
## 他学部、他学科履修について

① 他学部、他学科の科目を修得した場合は、8単位までコース専門科目の選択科目(選択B)として取り扱う。 ただし、教科に関する科目及び教職に関する科目は卒業要件外科目として取り扱う。
② 全学開放の専門教育科目のうち、工学部の他学科の科目を修得した場合は、コース選択科目(選択B)として取り扱う。
③ 他学部、他学科の専門教育科目を履修する場合は、必ず学科の承認を得て履修すること。

## 中国・四国国立大学工学系学部間単位互換科目履修について

① 中国・四国国立大学工学系学部間単位互換の科目を履修した場合は、6単位まで専門科目の選択科目(選択B)として取り扱う。
② 中国・四国国立大学工学系学部間単位互換を履修する場合は、必ず学科の承認を得て履修すること。
③ 詳細は、単位互換科目履修案内を参照のこと。

カリキュラム-DP 関連図(化学生命系学科)



化学生命系学科  
DP

多面的に考える  
素養と能力  
【教養】

技術者倫理  
【教養2】

論理的基礎知識と  
応用能力  
【専門性1】

専門知識と応用能力  
【専門性2-1】

技術創出と装置・物質  
の創造・設計力  
【専門性2-2】

実験の計画、実行、  
データ解析力  
【専門性2-3】

## 社会の要求に応える デザイン能力 【情報力】

## コミュニケーション能力 【行動力1】

## 仕事の立案遂行 および総括能力 【行動力?】

## 自主的、継続的な 学習能力 【自己実現力】

科目名	授業要旨等
現代化学1	2セメスター 教養教育科目 選択 2単位 現代の化学、すなわち、現在、利用・応用されている化学分野の先端技術、現在、研究・開発中の新技術を通して化学の基礎知識を深めることを目的とする。本講義は3部で構成し、高分子材料および無機材料、粒子状材料と化学プロセスについて、それぞれに関連する身の回りの材料や先端技術を中心に講述する。
現代化学2	2セメスター 教養教育科目 選択 2単位 多種多様な物質を効率よく作り出すための物質変換反応とこれを用いた機能性物質の開発は、現代社会における重要な基盤技術の一つである。本授業では、グリーンケミストリー、有機金属触媒、不斉分子触媒などをキーワードに、物質変換反応の潮流を解説するとともに、これらの反応を用いた有用な生理活性物質や高機能材料の高効率合成、さらには高分子材料などの最新の機能性物質開発について講術する。
現代生命科学	2セメスター 教養教育科目 選択 2単位 近年発展の著しいバイオテクノロジーの主な各分野およびそれらの将来展望について概説し、その基本原理を正しく理解することを目指す。すなわち、細胞、遺伝子、蛋白質、およびその他の生物活性物質の基礎について概説するとともに、それらの工学的利用と関連分野への応用について解説する。
無機化学1	3セメスター 学科専門科目 必修 2単位 化学結合の本質について理解を深めることを目標とする。主として「固体」を対象として、分子の構造、固体の構造と性質、固体の構造の解析法について理解を高める。
有機化学1	3セメスター 学科専門科目 必修 2単位 本講義では、有機化合物の構造と結合、酸と塩基、鎖状・環状の有機分子の形と立体化学を復習しながら、置換反応、脱離反応などを学ぶ。講義と連動して演習を随時おこない、理解を深めるように進める。
物理化学1	3セメスター 学科専門科目 必修 2単位 熱力学の第一法則、第二法則、第三法則について講義する。エンタルピーやエントロピーなどの熱力学関数について、化学反応や比熱、相転移などとの関連を理解する。これに加えて、自由エネルギーという熱力学量を導入し、自発的変化の最終結果である平衡状態の位置が、このパラメーターの性質から導かれるこことを示す。
生化学1	3セメスター 学科専門科目 必修 2単位 生化学は、分子を通して生命現象を化学的に理解する学問である。その理解のため、本科目では、核酸やタンパク質を中心とした生体の主要構成成分の構造と化学的な性質について述べる。
無機化学2	4セメスター 学科専門科目 必修 2単位 無機化学を理解する基礎となる「酸と塩基」および「酸化と還元」について学習する。
有機化学2	4セメスター 学科専門科目 必修 2単位 本講義では、アルケン、アルキン、アルコール、エーテル、カルボニル化合物の性質、合成法、反応機構に関する基礎的な事項を講述するとともに、酸化・還元反応についても学ぶ。なお、この講義は有機化学1の知識を前提に授業を進める。
物理化学2	4セメスター 学科専門科目 必修 2単位 気体の分子運動について量子的考え方を導入し、Boltzmann分布や分配関数の概念から、比熱やエネルギーなどの物質の諸性質を分子レベルの挙動から理解する。また気体と比較して、溶液の熱力学的取り扱いについても講述する。
生化学2	4セメスター 学科専門科目 必修 2単位 遺伝子の複製、転写、蛋白質への翻訳機構を分子レベルで学習し、「分子生物学のセントラルドグマ」への理解を深める。さらに、DNAの修復や組み換え機構についても学ぶ。本講義は、遺伝子組換え技術を用いるバイオテクノロジーを習得するための基礎となる。
化学生命系英語	3セメスター 学科専門科目 必修 2単位 科学技術者には国際的に通用するコミュニケーション能力が求められている。そこで、専門分野に関連した内容の基礎的な英文を題材に選び、専門用語を含む単語力の増強、英文の正確な読解、リスニング力、外国人とのコミュニケーション能力などの向上をめざす。
基礎化学実験	3セメスター 学科専門科目 必修 2単位 生化学、物理化学、無機化学、有機化学のなかで重要な課題を取り上げ、実験を計画・実行しレポートを取りまとめる基礎的な技術・方法を身につける。また、実験を安全に行うための知識と能力を身につける。

特別研究	7・8セメスター 学科専門科目 必修 10単位 配属された各研究室において、3年生までの講義や実験等で学んだ基礎的事項をもとに、化学生命系分野の最先端研究に取り組む。研究のための資料収集、研究計画、基本的および応用的な実験技術、実験結果に対する考察、成果のプレゼンテーションなど、自立した研究者、技術者となるための基本を総合的に学ぶ。 [備考] 研究者、技術者としての第一歩を踏み出すための重要な研究である。大きな志をもって取り組んでほしい。
有機化学基礎	1セメスター 学科専門科目 選択 2単位 本講義では、Organic Chemistry(英語版)を教科書として使い、有機化学の基本的な内容、とくに有機反応を考えるうえで必要な様々な学術用語を、英語と日本語で理解することに重点をおく。主な内容は、有機化合物の構造と結合、酸と塩基、鎖状・環状の有機分子の形と立体化学の概念などである。講義と連動して演習を随時おこない、理解を深めるように進める。
分析化学	2セメスター 学科専門科目 選択 2単位 酸塩基平衡、沈殿平衡、錯生成平衡など水溶液における化学種間の平衡を利用して各種の化学種の濃度を計算できる様にすることを目標とする。また、それらの平衡を利用した滴定操作に関しての計算にも習熟し、各種の実験に対して指示薬や標準の選択などを適切に行えるようになる。電磁波と物質の相互作用が分析に利用されていることを知る。
量子化学	4セメスター 学科専門科目 選択 2単位 電子のエネルギー準位は連続でなくとびとびの値をとることを、ボーラーの原子模型で学ぶ。簡単な粒子系についての波動方程式の解き方や波動関数の意味・意義・解釈の仕方を理解する。これらを基礎として、原子軌道及び原子軌道関数の種類と原子の構造(電子配置)を学び、さらに2原子分子のLCAO型分子軌道関数を導く。
化学工学1	4セメスター 学科専門科目 選択 2単位 化学・生物工学分野における工学的基礎となる、熱収支、物質収支、エネルギー収支及び熱移動、物質移動、運動量移動の移動現象の重要性、定量的表現方法を学習すると共に、熱交換や濃縮などのいくつかの現象を取り上げて、これらの基礎理論がどのように利用されるかを理解する。
インターンシップ	5セメスター 学科専門科目 選択 2単位 短期間(2週間程度)、協力企業や協同研究機関に出向き、物づくりを始めとする実社会での企業活動の一部等を実際に経験・体験することによって、これから技術者を目指すものとしての心構えを体得する。 [備考] 原則、夏季休業中に約2週間の予定で実施する。単なる企業見学ではなく、厳しい取り組みが要求される。いい加減な気持ちで履修しようとしてはならない。
放射線安全利用工学及び実験	3セメスター 学科専門科目 選択 2単位 放射性物質の取り扱いに際して必要な基礎理論、実務的知識、および応用例を講義により学ぶとともに、実際に放射線測定機器を用いて放射線の測定や放射性核種の同定の実験を行う。これにより修得される安全知識は、放射線や放射性物質を用いる高度な科学的測定を実施するために必須のものである。 [備考] 本科目の履修により、本学部RI実験施設の管理区域に立ち入る者に対する教育訓練の一部が免除される。
材料プロセス実験1	4セメスター 材料・プロセスコース 必修 2単位 材料やプロセスに関する研究を遂行する上であらかじめ習得しておくべき実験基本操作ならびに基本概念を習得する。実験の基本操作に加え、分析機器使用法、生成物の同定、構造解析、定量的な取り扱いを修得する。さらに実験データの取り扱い・整理の仕方、レポートの書き方などの実験に関する基本的な事項についても実践的に学ぶ。
材料プロセス実験2	5セメスター 材料・プロセスコース 必修 2単位 材料・プロセスに関する研究遂行に欠かせない高度な知識と技術を身につけることを目標とし、先端実験操作法・分析機器使用法・データ解析法・情報収集法などを習得する。
材料プロセス実験3	6セメスター 材料・プロセスコース 必修 2単位 材料やプロセスに関する研究を遂行する上であらかじめ習得しておくべき実験操作ならびに概念を習得する。また分析機器を用いた生成物の同定、構造解析、定量的な取り扱いを修得する。さらに実験データの取り扱い・整理の仕方、レポートの書き方などの実験に関する基本的な事項についてもさらに詳しく実践的に学ぶ。
化学装置設計製図	5セメスター 材料・プロセスコース 必修 2単位 化学技術者として必要な化学装置の基礎知識および設計計算法と製図の基礎能力を養うことを目的として、JIS製図の基礎を学び、簡単な装置の立体図および正投影図を描く。また、化学工学Iで習得した知識を用いて装置の設計計算をし、設計計算書および製図を作成する。

合成化学実験1	4セメスター 合成化学コース 必修 2単位 基礎的な合成化学の実験を行い、化合物の反応・合成を深く理解し、基本的な実験技術も身につけつつ、合成反応の基本を体得することを目的とする。同時に、実験に取り組む姿勢、特に観察力、考察力を学ぶ。さらに、実験を安全に遂行できる能力を身につける。
合成化学実験2	5セメスター 合成化学コース 必修 2単位 合成化学に関する研究遂行に欠かせない高度な知識と技術を身につけることを目標とし、先端実験操作法・分析機器使用法・データ解析法・情報収集法などを習得する。
合成化学実験3	6セメスター 合成化学コース 必修 2単位 応用的な合成化学の実験を行い、化合物の反応・合成をより深く理解し、基本的な実験技術も身につけつつ、合成反応を総合的に体得することを目的とする。同時に、実験に取り組む姿勢、特に観察力、考察力を学ぶ。さらに、実験を安全に遂行できる能力を身につける。
生命工学実験1	4セメスター 生命工学コース 必修 2単位 生命工学研究に必要な、基礎的知識、実験技術、生物・生体材料の取り扱い、データ解析法を、蛋白質や酵素などに関する実験を通して習得する。さらに実験データの取り扱い・整理の仕方、レポートの書き方などの実験に関する基本的な事項について実践的に学ぶ。
生命工学実験2	5セメスター 生命工学コース 必修 2単位 生命工学に関する研究遂行に欠かせない高度な知識と技術を身につけることを目標とし、先端実験操作法・分析機器使用法・データ解析法・情報収集法などを習得する。
生命工学実験3	6セメスター 生命工学コース 必修 2単位 生命工学研究に必要な、基礎的知識、実験技術、生物・生体材料の取り扱い、データ解析法を、遺伝子実験や動物細胞などを扱う実験を通して習得する。さらに実験データの取り扱い・整理の仕方、レポートの書き方などの実験に関する基本的な事項について実践的に学ぶ。
物理化学3	5セメスター コース専門科目 選択A(カテゴリー1) 2単位 物質の形態(固体、気体、液体)の変化に関わる概念を学び、相平衡や相律について理解を深める。また水溶液中での様々な現象に関わるイオンの振る舞いについて学び、イオンを含む溶液の熱力学的扱いに深くかかわる電気化学電池について理解を深める。
無機化学3	5セメスター コース専門科目 選択A(カテゴリー1) 2単位 分子の対称性とその数学的取り扱いについて学ぶ。また、d金属化合物が持つ多彩な特性を理解するため、d金属化合物中の中心金属イオンの配位構造と電子状態が密接に関連していることを学び、それらがd金属化合物の光学的、磁気的性質と相關していることを理解する。
物理化学4	6セメスター コース専門科目 選択A(カテゴリー1) 2単位 反応の速度論的解析について、反応速度式を基本として実験的に速度定数を決定する方法と、それから種々の活性化パラメーターを算出する方法を論じる。また、巨大分子(分子としては巨大で、粒子としては小さいもの。ミセルや生体分子の巨大複合体などは、この範囲に属する)の取り扱いについて学ぶ。
無機化学4	6セメスター コース専門科目 選択A(カテゴリー1) 2単位 無機化合物の結晶構造の表現方法を学ぶとともに、無機化合物の構造、組成、電子構造を知るために広く使われているX線分析法をはじめとする各種の物理的測定法についてその原理と実際を学ぶ。
化学工学2	5セメスター コース専門科目 選択A(カテゴリー1) 2単位 本講義では、化学プロセスを構成する反応器の設計および単位操作の内、吸着操作と乾燥操作を取り上げ、物理化学と移動現象論を基礎として、各操作の原理を定量的に理解するとともに、操作設計を行うための考え方と基礎理論について学ぶ。 前半では、反応工学の基礎として反応器様式および反応器の設計方程式を理解する。後半では製品製造プロセスを構成する単位操作の内、吸着と乾燥操作について、工学的に操作条件を検討したり設計したりするための基礎能力を養う。
有機化学3	5セメスター コース専門科目 選択A(カテゴリー2) 2単位 本講義では、アルデヒド、ケトン、カルボン酸および関連化合物の性質、合成法、反応に関する基礎的事項について講述する。カルボニル基への求核的付加反応、エノール、エノラートの反応を中心に、カルボニル化合物の炭素一炭素結合形成反応を取り扱う。なお、この講義は有機化学1、2の知識を前提に授業を進める。
有機化学4	6セメスター コース専門科目 選択A(カテゴリー2) 2単位 本講義では、共役ジエンおよび芳香族化合物およびアミンの性質、合成法、反応機構に関する基礎的な事項を講述するとともに、ラジカル反応についても学ぶ。なお、この講義は有機化学1、2、3の知識を前提に授業を進める。

高分子化学	5セメスター コース専門科目 選択A(カテゴリー2) 2単位 高分子化合物について定義および分子構造、その基本的合成法、分子特性ならびに固体高次構造と物性の特徴について講義し、高分子に関する初步的な概念について解説する。
機器分析	5セメスター コース専門科目 選択A(カテゴリー2) 2単位 有機化合物の構造(NMR, IR, MS), 光学的性質(UV, 蛍光), 熱的性質(TGA, DSC), 微細構造(光学・電子・走査型プローブ顕微鏡), 純度(LC, GC)を調べるための各種機器分析の原理およびそれらから得られる情報の取り扱いについて概説する。
生化学3	5セメスター コース専門科目 選択A(カテゴリー3) 2単位 代謝を分子レベルでの理解することを目的とする。糖の代謝経路、生体エネルギー(ATP)の生成機構、脂質、アミノ酸および核酸の生合成経路や分解経路について、各代謝経路における生体分子の化学構造の変換、およびその変換過程を触媒する酵素の機能と調節について講義する。
生化学4	6セメスター コース専門科目 選択A(カテゴリー3) 2単位 遺伝子組み換え操作の原理と応用、タンパク質の基本的な性質および精製法、さらに酵素反応速度論について後述する。
分子生物学	5セメスター コース専門科目 選択A(カテゴリー3) 2単位 生化学2で学習したセントラルドグマに基づく大腸菌での遺伝子発現の分子機構の基本的概念をもとに、ヒトをはじめとする動物における、より複雑な遺伝子の発現機構とその調節機構を分子レベルで解説する。
生物物理学	5セメスター コース専門科目 選択A(カテゴリー3) 2単位 生物には、機械的な動作や判断に比べると「柔らかい」という表現が似合う。これは、生命現象の道具立てには複雑で個性的な相互作用が存在しているため、生物を人工的に作り出す困難さはここにある。そこで、この分子レベルや個別の現象を取り上げて、どのような方法論やどのような事象において、その成果があげられ、かつ応用されているかを講述する。
高分子・生体材料学	6セメスター コース専門科目 選択B 1単位 汎用材料から高機能材料まで各種高分子材料の構造および物性の特徴について、分子論的および物理化学的見地から講義する。また、材料の生体適合性とは何か、生体適合性材料の設計のための必要条件、人工臓器の原理と現状および問題点、さらには将来の展望について、講義する。また、生体組織を人工材料で構造的、機能的に代替したり、生体系を活性化させたりする材料の設計法と医療技術への応用について概説する。
無機物性化学	6セメスター コース専門科目 選択B 1単位 無機固体中の電子の振る舞いについて理解し、導電・誘電・磁性の各特性がどの様に発現するかを定性的に説明できるようにする。また、電磁波としての光の性質を理解し、固体との相互作用として光学特性をとらえ、実際に使われている光機能材料についてその原理を説明できるようにする。光ファイバー、太陽電池、光触媒、赤外線センサー、ガスセンサー、燃料電池などの実用材料の動作原理について講義する。
無機反応化学	6セメスター コース専門科目 選択B 1単位 様々な機能を有する無機固体材料を対象として、それらの材料合成や構造及び物性に化学が深く関連していることを理解し、それぞれの材料に潜む化学の不思議と多様性を学ぶ。種々の材料の形態(バルク・薄膜・粉末)や物性は材料の合成・作製法によって著しく影響されることを学ぶ。先進材料に関して解説する。
反応工学	6セメスター コース専門科目 選択B 1単位 本講義では、まず、固体触媒の機能、構成および劣化について講義し、固体触媒の特有な細孔構造や細孔表面の化学特性について理解する。次に、酵素の諸特性の解明や酵素を物質生産に応用する上で必要な酵素反応速度論を十分に理解すると共にバイオリアクターに用いる触媒素子の設計と反応器を構築するために必要な反応工学的取り扱いに習熟する
化学プロセス工学	6セメスター コース専門科目 選択B 1単位 化学プロセスやバイオプロセスは各種の単位操作から構成されている。本講義では、いくつかの単位操作を取り上げ、物理化学と移動現象論を基礎として、各操作の原理を定量的に理解するとともに、操作設計を行うための考え方と基礎理論について教育する。 前半では主に流体系拡散単位操作を、後半では機械的単位操作をそれぞれテーマとして取り上げ、工学的に操作条件を検討したり設計したりするための基礎知識や考え方を養う。
物理有機化学	6セメスター コース専門科目 選択B 1単位 有機化学のより深い理解を、物理化学や量子化学を基にめざす。有機分子の物性や反応性の定性的・定量的な理解に関する基礎概念を通して、種々の分子機能の発現機構を学ぶ。1. 有機物の物性の起源、酸性と塩基性、置換基効果とHammett則、ヘテロ原子の及ぼす効果、媒質効果の意味、2. 分子軌道法の有機化学における意味、フロンティア軌道論の基礎と応用、有機反応での電荷と軌道の関係、計算化学的な遷移状態の求め方、を講義する。

有機合成化学	6セメスター コース専門科目 選択B 1単位 反応中間体として、おもにカルボカチオン、カルボアニオンに焦点をあて、その調製法、使い方、鎖状化合物に用いたときの立体制御、二重結合を有する化合物の合成法を取りあげる。次に、環状化合物に焦点をあて、ラジカル、カルベンの反応、環化反応、付加環化反応を解説する。さらに官能基変換として、還元と酸化反応を講述したあと、仕上げとして合成と逆合成を学ぶ。授業は単なる講義だけではなく、演習形式で理解を確実にしていく形でおこなう。
立体化学	6セメスター コース専門科目 選択B 1単位 新しい機能分子や生理活性化合物の化学合成を行う際には、立体化学および不斉合成に関する基礎的事項の理解が不可欠である。本講義では、化合物の対称性や立体異性の概念を詳細に解説するとともに、ジアステレオおよびエナンチオ選択的反応などの実施例を最新のトピックも交えながら講述する。授業は、有機化学1-3の理解があればその応用として十分把握できるものである。
有機工業化学	6セメスター コース専門科目 選択B 1単位 自然界より大量に取得される物質である石油は、燃料としてだけでなく石油化学製品として現代社会を支えている。本講義ではそれらを産みだす石油化学工業のプロセスで行われている有機反応について述べる。とくに、これらの反応で触媒として用いられている種々の有機金属化合物に焦点をあてる。また、医薬、農薬、香料・テルペンなどのファインケミカルについても、その合成法、化合物の性質などについて講述する。
機能分子化学	6セメスター コース専門科目 選択B 1単位 学外から講師を招き、企業で開発あるいは社会で実用化されている医薬品や機能性物質について、基礎理論から応用事例までを幅広く学ぶ。通常の大学の教員による講義では聴くことのできない社会のニーズや、企業における最近の開発動向、研究開発現場でのトピックス、技術者・研究者としての体験等について講義を受ける。
遺伝子工学	6セメスター コース専門科目 選択B 1単位 DNA組み換え技術をもちいた遺伝子工学の手法(遺伝子の探索、単離、解析、利用)と社会にもたらされた成果について概説する。すなわち、それぞれの遺伝子組換え実験がどの様な原理に基づき設計され実施されたか、また、その実験結果から導き出される結論や概念について解説する。具体的には、DNA組み換え操作に用いる酵素、ベクターの構造と性質、遺伝子のクローニング方法、遺伝子の細胞への導入と発現、等について学習する。
蛋白質工学	6セメスター コース専門科目 選択B 1単位 生命活動の実行部隊である蛋白質は様々な生理機能を発揮することが可能な万能素材であり、その本質を理解する科学と産業応用は重要な課題である。本講義では蛋白質分子の化学的・物理的な性質に関する理解を深め、基礎研究から産業利用のために必要な基本技術と応用例について講述する。
酵素工学	6セメスター コース専門科目 選択B 1単位 酵素工学の基礎および応用について講義する。講義内容は、酵素の立体構造、酵素触媒の原理と基質特異性、酵素反応速度論、酵素活性のアロステリック制御、酵素阻害剤、酵素機能の改変と産業利用などである。
細胞工学	6セメスター コース専門科目 選択B 1単位 高等動物細胞の構造と細胞内小器官の役割について解説し、生命現象を支える細胞の全体像について理解する。また、ハイブリドーマの作成をはじめとする細胞工学技術の基礎に加えて、遺伝子改変動物の作製法とこれらの技術のバイオテクノロジー分野への応用について解説する。
微生物工学	6セメスター コース専門科目 選択B 1単位 微生物の発見の歴史から、微生物学の基礎技術、微生物の増殖と栄養および環境因子、微生物の構造と機能、微生物の分類、微生物におけるエネルギー代謝と物質代謝、微生物と地球環境との関わり等、微生物工学の基礎について講述する。
材料プロセス各論1	7セメスター コース専門科目 選択B 1単位 化学生命系学科の基本となる教科を修得した上で、材料科学や化学プロセスに関するより高度な専門知識や問題解決能力を身につけさせるために、それぞれの学問分野や実社会での最先端における現状を他大学や企業からの講師により講述する。
材料プロセス各論2	8セメスター コース専門科目 選択B 1単位 化学生命系学科の基本となる教科を修得した上で、材料科学や化学プロセスに関するより高度な専門知識や問題解決能力を身につけさせるために、それぞれの学問分野や実社会での最先端における現状を他大学や企業からの講師により講述する。
合成化学各論1	7セメスター コース専門科目 選択B 1単位 化学生命系学科の基本となる教科を修得した上で、合成化学に関するより高度な専門知識や問題解決能力を身につけさせるために、それぞれの学問分野や実社会での最先端における現状を他大学や企業からの講師により講述する。

合成化学各論2	8セメスター コース専門科目 選択B 1単位 化学生命系学科の基本となる教科を修得した上で、合成化学に関するより高度な専門知識や問題解決能力を身につけさせるために、それぞれの学問分野や実社会での最先端における現状を他大学や企業からの講師により講述する。
生命工学各論1	7セメスター コース専門科目 選択B 1単位 化学生命系学科の基本となる教科を修得した上で、生命工学に関するより高度な専門知識や問題解決能力を身につけさせるために、それぞれの学問分野や実社会での最先端における現状を他大学や企業からの講師により講述する。
生命工学各論2	8セメスター コース専門科目 選択B 1単位 化学生命系学科の基本となる教科を修得した上で、生命工学に関するより高度な専門知識や問題解決能力を身につけさせるために、それぞれの学問分野や実社会での最先端における現状を他大学や企業からの講師により講述する。
化学生命系各論1	7セメスター コース専門科目 選択B 1単位 TOEICスコアが450点未満の学生を対象として、カレッジTOEICに照準を合わせてTOEIC対策講義を非常勤講師が行う。TOEICスコアを緊急に向上する必要に迫られた学生が優先的に受講できる。どの学年でも受講申請できるが、受講できるかどうかは応募数によって決まる。
化学生命系各論2	8セメスター コース専門科目 選択B 1単位 TOEICスコアが450点以上の学生を対象として、自己最高得点を取るために、カレッジTOEICに照準を合わせてTOEIC対策講義を非常勤講師が行う。どの学年でも受講申請できるが、受講できるかどうかは応募数によって決まる。

# 5 学修

## (1) 学籍

### ① 学生証及び学生番号

学生証はIDカードを兼ねています。これは図書館利用の際にも必要であり、かつ岡山大学の学生としての身分を証明するものですから、常に携帯し大切に管理してください。

(学生証裏面の注意事項をよく確認しておいてください。)

万一、学生証を紛失、盗難、破損した場合は、速やかに学務部学務企画課教育支援グループで再交付等の手続きをしてください。

学生証に記載されている学生番号(8桁)は以下により設定されています。

学生番号 :	09	4	27	001	{	001 ~ 機械システム系学科
(27年度入学者例)	工学部 コード	元号 (平成)	入学 年度	一連 番号		301 ~ 電気通信系学科
						501 ~ 情報系学科 701 ~ 化学生命系学科

### ② 身上異動等

#### 1) 住所変更等

学生及び保証人の現住所・連絡先・電話番号等に変更があった場合は、速やかに学務課工学部担当へ届出してください。また、氏名等に変更があった場合も同様です。

なお、変更手続きは学内パソコン端末機からWEB上でもできます(氏名変更は不可)が、保証人に関する変更事項があった場合は、必ず自然系研究科等会計課へも届出してください。

以上の届出がない時は、急を要する連絡ができない場合や、諸証明書等に変更前のものが記載されることになります。

URL = <http://kym.adm.okayama-u.ac.jp> (学外からはアクセスできません。)

#### 2) 休学

願い出る場合は、早めに所属学科の学生生活委員(1年~3年次生)又は指導教員(4年次生)に相談してください。

「休学願」に、学科長、学生生活委員又は指導教授の承諾印を得て、学務課工学部担当へ提出してください。休学の願い出は、事前に行うことが原則で、月日をさかのぼって願い出ることはできません。

以上のことば、「退学」、「復学」、「転学部」、「他大学受験等」、「転学科・転コース」の場合も同様です。

##### 【留意事項】

ア 疾病、その他やむを得ない事由により、2か月以上修学することができない場合は、医師の診断書(病気・けが等)又は詳細な理由書を添えて提出してください。

イ 休学する期間は、休学願を提出する月の翌月以降の月の初日から1か月単位で、当該年度末までです。

引き続き、翌年度も休学する場合は、それまでに再度手続きを行ってください。

ウ 休学期間は、通算して2年を超えることはできません。ただし、特別な事情がある場合は、さらに1年以内の休学が許可されることがあります。

エ 休学期間は、在学期間に算入されません。

ただし、通算3月以下の場合に限り、在学期間に算入します。

オ 休学を願い出る場合は、原則として以下のとおり授業料を納入しなければなりません。

4月1日から翌年3月31日(又は9月30日)まで休学の場合:前年度分授業料を納入

5月1日から翌年3月31日(又は9月30日)まで休学の場合:4月の1月分授業料を納入

6月1日から翌年3月31日(又は9月30日)まで休学の場合:前期分授業料を納入

10月1日から翌年3月31日まで休学の場合:前期分授業料を納入

11月1日から翌年3月31日まで休学の場合:前期分授業料及び10月の1月分授業料を納入

12月1日から翌年3月31日まで休学の場合:前期分授業料及び後期分授業料を納入

\*既納の授業料は返還できません。

(但し、前期分授業料徴収の際、後期分授業料を併せて納付していた者が後期分授業料の徴収時期前に休学した場合における後期分授業料相当額は、申出により、これを返還します。)

- カ 休学の手続きをせずに長期にわたり無断欠席をしたときは、その期間は在学期間に算入され、授業料も納入しなければなりません。
- キ 願い出る場合は、必ず事前に学務課工学部担当へ手続きの詳細を尋ねてください。（以下の場合も同様）

### 3) 復 学

- 休学期間に休学の事由が解消し、復学する場合は、「復学願」を提出してください。  
なお、休学期間が満了し復学する場合は、「復学願」は不要ですが、復学する旨を必ず学務課工学部担当へ連絡してください。
- ただし、休学事由が病気療養に関する場合は、医師の診断書を添付してください。

### 4) 退 学

- 退学をしようとするときは、「退学願」に「学生証」を添えて提出してください。  
原則として、退学する月の属する学期までの授業料を納入していかなければなりません。

### 5) 除 籍

次に該当する者は、除籍の処分を行います。

- ア 死亡又は行方不明の者  
イ 疾病、学力劣等及びその他の事由により成業の見込みがないと認められた者  
ウ 所定の在学期間を超えた者  
エ 入学料の免除を申請し、免除の不許可又は一部免除の許可になった者又は入学料の徴収猶予を申請した者で、それぞれ別に定める期日までに入学料を納付しない者  
オ 当該年度の末日（当該年度の中途において所定の在学期間を超えることになる場合にあっては、その超えることとなる日の前日）までに授業料を納付しない者

### 6) 転 学 部

他の学部へ転学部する場合は、希望する学部へ事前に詳細を確認してください。

### 7) 他大学受験等

他大学・他学部等（転学部を含む。）を受験する場合は、「受験許可願」を提出してください。工学部在学のままで受験できますが、他大学等へ入学（転学部は除く。）する場合は、退学しなければなりません。

### 8) 転 学 科・転コース

工学部の他の学科・コースへ転学科又は転コースする場合は、「転学科願」又は「転コース願」を提出してください。

## ③ 表彰・懲戒

### 1) 表 彰

学術及び性行が優秀であって他の学生の範となるような人物等に対して、以下のような表彰制度があります。

学長が表彰する賞：「黒正賞」（卒業時表彰）、学業成績優秀学生賞（1年～3年）、「スポーツ奨励賞」、「国際スポーツ賞」、「文化奨励賞」

学部長が表彰する賞：「優秀学生賞」（卒業時表彰）、「特別賞」

### 2) 懲 戒

本学の規則に違背し、又は学生の本分に反する行為があった場合、懲戒処分を受けることとなりますので、学生としての本分に則って行動してください。

懲戒は、退学、停学及び訓告で、次に該当する場合は強制退学となります。

ア 性行不良で改善の見込みがないと認められた者

イ 正当な理由なく出席常でない者

ウ 本学の秩序を乱し、その他本学学生としての本分に反した者

上記の懲戒を受けた場合は、学籍簿（大学が管理している、個々の学生の成績等を記録したもの。）に記載されます。

また、通算の停学期間が3月を超える場合は、卒業要件として定められている在学期間にには算入されません。したがって、4年間では卒業できなくなります。

その他、厳重注意、謹慎等の処分などもありますが、学生としての本分をわきまえて、かつ、一社会人として適切な行動をとってください。

## (2) 履修

### ① 履修登録科目単位の上限制

通常講義における1単位とは、15時間の授業と30時間の自学・自習の勉強に対し与えられるべきものであるにもかかわらず、これまで、このことが実現不可能であるような多くの履修単位数もまま見られたことから、一学期（セメスター）あるいは一年間の履修単位数に上限を設けるものです。これは、履修単位を単に制限するというだけのものではなく、こうすることにより授業内容をより一層理解させ能力の育成を図ることを目的とする制度です。

各学期（セメスター）の履修登録科目単位の上限は、**28単位**です。上限を超えて履修登録をした場合は、上限単位数以下になるよう履修登録科目的変更あるいは履修登録の削除を行わなければなりません。削除の手続きを行わない場合は、科目的履修が認められなくなり、学期末において上限を超えた単位が判明した場合は、その学期の全科目が無効となることがあります。

なお、上限単位数は「教養教育科目」と「専門教育科目」を合わせた単位数で、「特別研究」、「集中講義科目」、「卒業要件外単位として扱われる教員免許取得に必要な科目」、「自然科学の補習授業」は除きます。

通年の授業は、その半分の単位をもって半期の該当単位とします。

また、前年度の成績が優秀な学生は、その年度に限り以下のとおり上限単位を超えて履修することができます。

対象者：前年度に上限単位数の8割以上を取得し、以下の条件を満たす者

\* 平均点が80点以上の者 ····· 一学期（セメスター）当たり4単位まで増加可能

\* 平均点が75点以上80点未満の者 ··· 一学期（セメスター）当たり2単位まで増加可能

\* 平均点=各取得科目（得点×単位数）の総和／取得総単位数

### ② 履修手続きの方法

学年の始めに指示される授業時間表及びシラバス等により立てた各自の履修計画に基づき、各期（前期、後期）ごとに履修しようとする全ての授業科目を、パソコンを利用して履修登録を行わなければなりません。詳細については、オリエンテーション及び学科の教務委員の指示に従ってください。

登録期間内に履修登録を行わなかった場合は、授業への出席は認められません。

以下に、履修手続きの概略を述べますので、流れに沿って間違いないよう手続きをしてください。

なお、入学した年度のみ、1年生対象の専門基礎科目の必修科目は自動で登録されます。

#### 1) パソコンによる履修登録

各期に履修する全ての授業科目を、パソコンを利用して履修登録します。履修手続きの日程等については、事前に掲示等により通知しますので、十分注意してください。

URL=<http://kym.adm.okayama-u.ac.jp> (学外からはアクセスできません。)

登録後は、クラス間違い等の確認を行い、必要に応じて内容を訂正してください

#### 2) エラーの有無の確認

履修登録を行った翌日以降にパソコンでエラーの有無を必ず確認してください。

深夜にデータベースの書き換えが行われ、その後表示されます。画面に科目名が表示されても、チェック結果がエラーとなった科目は履修ができません。内容に間違い等が無く、エラーも無い場合、履修手続きは完了となります。

#### 3) 履修登録内容の修正

履修登録内容及びエラーの有無の確認を行った結果、登録内容に間違がある、科目を変更したい、上限単位を超過している、エラー表示が出ている等の場合には、各自パソコンで履修科目的登録修正及び内容確認を行い、翌日以降に再度、エラーの有無を確認してください。

### ③ 教養教育科目の履修について

教養教育科目の履修については、「工学部学生便覧」、「教養教育科目履修の手引・授業時間表」、「工学部教養教育科目シラバス」（冊子体には1年次前期開講科目のみ掲載）及び「工学部時間割表」を参照してください。

なお、履修にあたり履修登録期間の前に事前の抽選を行う科目があります。掲示などで抽選方法・期間を別途周知しますので、確認の上抽選を忘れないようにしてください。

また、履修上の指示事項等は、主に一般教育棟において掲示により行われますので、よく確認してください。

#### ④ 専門教育科目的履修について

専門教育科目的履修については、「工学部学生便覧」、「工学部時間割表」、「工学部シラバス（岡山大学ホームページ掲載）」を参照の上、必要な場合は学科の教務委員の履修指導を受けて行ってください。

#### ⑤ 他学部・他学科履修について

他学部・他学科の専門教育科目を履修したい場合は、所定の用紙に授業担当教員と所属学科（教務委員）の承認を得て、履修登録期間中に学務課工学部担当へ提出してください。

但し、以下の点に注意してください。

- ・履修は認められても、卒業要件単位として認められない場合があります。
- ・全学開放科目の他学部の専門基礎科目を履修する場合は、教養教育科目の個別科目として扱われる所以提出は不要です。
- ・全学開放科目の他学部の専門科目を履修する場合は、教養教育科目とするか専門教育科目とするかを選ぶことができますが、教養教育科目として履修する場合は用紙の提出は不要です。（専門教育科目として履修を行う場合は、用紙を提出すること。）
- ・全学開放科目であっても、他学科の専門科目を履修する場合は用紙を提出してください。なお、修得した単位は、各学科の別に定める単位として扱います。

なお、提出する書類は学務課工学部担当にて配布しています。授業担当教員へ承諾をもらいに行く前に受け取りに来てください。

#### ⑥ 中国・四国国立大学工学系学部間単位互換科目履修について

中国・四国地区の8大学9学部間（岡山大学工学部、岡山大学環境理工学部、鳥取大学工学部、島根大学総合理工学部、広島大学工学部、山口大学工学部、徳島大学工学部、香川大学工学部、愛媛大学工学部）で単位互換協定を締結しています。この科目的履修を希望する場合は、別途作成されている「中国・四国国立大学単位互換科目履修案内」を参照の上、所属学科の教務委員の指導等を受けてください。

#### ⑦ 特別研究について

4年次に通年（前期、後期を通じて1年間）で開講される、必修の授業科目です。

履修は、所属学科及び指導教員等の指導を受けて行われます。指導教員の決定は、3年次の後期末に決定します。

- 1) 3年以上在学し、各学科の定める要件単位数を修得した者は、特別研究の申請することができます。（要件の詳細は、各学科の履修方法の頁を参照すること。）
- 2) 特別研究申請は、指導教員へ申し出るものとし、履修登録は不要です。
- 3) 特別研究報告書の提出日時は、各学科の指示に従うこと。
- 4) 特別研究は、各学科において審査し、合否を決定します。
- 5) 特別研究の申請有効期間は、その年度に限ります。

#### ⑧ 大学院進学について

工学部等（理学部、工学部）を基礎学部とする大学院として、岡山大学大学院自然科学研究科が設置されています。

この研究科は、博士前期課程（修士課程 2年）と博士後期課程（博士課程 3年）に区分されています。

また、大学に3年以上在学し、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと、大学院において認められた者は、大学院の受験資格が与えられます。ただし、大学の卒業資格は与えられません（退学扱い）。

### (3) 試験及び評価方法等

#### ① 厳格な成績評価について

- 1) 成績評価は授業の教育目標に対する学習者の到達度を見るものであり、教育目標と成績評価の方法はシラバスに明記する。
- 2) 成績評価は授業の形態（講義、実習・実習、ガイダンス科目等）に対応した適切な評価方法を採用する。評価方法としては、期末試験、中間試験、授業時間中の小テスト、レポート、受講態度等を考慮し総合的に行う。
- 3) 講義中心の科目以外のもの（実習・実習、創成科目等）においては、学力と同時に科目の特徴に応じて評価する項目（例えば、自主性、創造性、表現力、指導力、協調性、洞察力、理解力、分析力、実行力、企画力等）があればシラバスに明記する。
- 4) 同一科目を複数の教員が担当する場合には、評価の基準と方法の統一を図り、担当教員相互による評価の差が生じないように努める。
- 5) 担当教員は、成績評価に対する学生の質問、疑問に対しては、適切に対応するものとする。

#### ② G P Aについて

##### 1) G P A制度導入の目的

- i ) 成績不振の学生をいち早く発見し、アカデミック・アドバイザーの教員を中心に適切な指導を行うこと。
- ii ) G P Aを目安にして学生に履修登録科目数の自主規制を促し、計画的な履修を促すこと。
- iii) 学生に対して修得単位数だけでなく、個々の単位のレベルアップを図るよう喚起すること。

##### 2) G P Aの算出方法

履修登録した科目ごとの5段階評価を、4から0までの点数（G P : Grade Point）に置き換えて単位数を掛け、その総和を履修登録単位数の合計で割って算出します。

$$G P A = \frac{\text{(履修登録した授業科目の単位数} \times \text{当該授業科目のG P)} \text{ の総和}}{\text{履修登録した授業科目の単位数の合計}}$$

G P Aの実際の計算方法例

科目名	単位数 ( a )	評点	評語	G P ( b )	a × b
○○学概論	2	9 5	A+	4	8
○○学	2	8 5	A	3	6
□□学演習 I	2	5 5	F	0	0
□□学演習 II	2	7 0	B	2	4
△△基礎実験	1	9 0	A+	4	4
計					2 2

上表の学生の場合

履修登録した授業科目の単位数の和 = 9

(履修登録した授業科目の単位数 × 当該授業科目のG P) の和 = 2 2

$$\underline{G P A = 2 2 \div 9 = 2 . 4 4}$$

##### 3) G P Aの対象とならない科目

- ・評点を示さず、認定または修了によって単位を取得できる科目
- ・岡山大学以外で修得した科目を単位として認めたもの
- ・工学部によって定められた期間に履修取り消しの手続きを行った科目

#### 4) 履修登録取消制度とは

- この制度は、一旦履修登録した科目を取り消す制度で、履修登録をして授業に出たけれども
- ① 授業の内容が自分が勉強したいものと違っていた
  - ② 授業に対する知識が不足していることに気づいた
  - ③ 履修科目数を減らしたい

などといった理由から履修を取り消すことができる制度です。履修取消の手続きは、学務課工学部担当窓口で行ってください。

ただし、この履修取消期間内に手続きを怠り、自ら履修を放棄した場合は、F評価 (G P = 0) となり、G P Aの対象となるので注意してください。

#### 履修登録取消の期間等

- ① 前期 5月の第4週目（月曜日～金曜日）
- ② 後期 11月の第3週目または第4週目（月曜日～金曜日）
- ③ 夏季休業期間等に行われる集中講義については、当該科目的履修確定日の翌日から当該科目の授業開始日の前日まで 【授業開始日の前日までに、手続きを行ってください。】
- ④ 休学、退学又は留学することになった場合は、上記の期間に関わらず、休学等の願い出とともに、履修登録取消を行うことができます。【休学等の願い出を行うときに、併せて手続きを行ってください。】

#### ③ 試験について

成績評価のため、各期ごとに期末試験を行います。しかし、授業科目によっては、レポート等の提出をもって試験に代えることがあります。また、期末試験以外に試験その他の考查を行うこともあります。詳細は、シラバス及び授業担当教員の指示に従ってください。

1) 定期試験の試験科目・日時・その他必要な事項は、その都度掲示又は担当教員によって指示されます。

##### 2) 受験心得

期末試験の受験にあたっては、次の各事項に留意してください。

なお、この受験心得は、期末試験以外の試験にも準用します。

#### 《 受験心得 》

- 1 受験する学生は特別な指示がない限り、試験開始時刻の5分前までに所定の教室に入室を完了すること。
- 2 監督者が指定した座席において受験すること。
- 3 受験中は必ず学生証を机上に置くこと。ただし、学生証を紛失又は忘れた場合は、監督者に申し出、その指示に従うこと。（仮受験票を発行するので、学務課工学部担当へ申し出ること。）
- 4 受験中、机上に置くことができるものは、学生証、筆記用具及びその他特に許可されたものに限る。それ以外の携行品はカバン等に入れて、座席の下に置くこと。また、机の棚板（物入れ）には何も置かないこと。
- 5 携帯電話や音の出る機器は、必ず電源を切っておくこと。
- 6 解答用紙には、学部名、入学年、番号及び氏名等の必要事項を必ず万年筆又はボールペンで記入すること。
- 7 試験開始後20分を経過するまでは退室できない。
- 8 試験開始後20分を経過した場合は入室できない。
- 9 答案用紙は、特に指定がない場合、教卓上に提出するか、又は監督者に直接手渡すこと。  
自己の机上に置いて退室すると当該授業科目的単位は認定しない。
- 10 受験にあたっては、厳正な態度で臨み、誤解を招くような態度や不正行為は厳に慎むこと。  
なお、監督者の指示に従わない者、及び不正行為があると認められたものに対しては、学則第58条により厳重な懲戒処分を行う。

また、不正行為を行った場合は、当該行為が行われた時点において既に単位が認定されている授業科目を除いて、当該学期に履修登録している全ての授業科目（通年で開講する授業科目を含む。）の単位は認定しない。

- 3) 受験延期を希望する者は、次のとおり願い出て許可を得なければなりません。  
ただし、追試験実施等の有無は、授業担当教員の判断によります。

科目区分	提出書類	提出場所	添付書類	提出日
教養教育科目	受験延期願	学務部学務企画課 教養支援グループ (一般教育棟内)	診断書 (病気・負傷の場合) 理由書 (その他の場合)	試験の前日まで(ただし、突発事故の場合はこの限りではない。)
専門教育科目	欠席届	学務課工学部担当		

#### ④ 成績評価の表記について

成績の評価は、A+, A, B, C, F, W, 修了, 及び認定の評語をもって表し, A+, A, B, C, 修了及び認定を合格(単位修得), F及び未修得を不合格(単位未修得), Wを履修取消手続を行った授業科目としています。

- 1) 通常の授業は、A+, A, B, C, F, Wで表記
- 2) 特別研究は、修了または未修得で表記
- 3) 他大学で修得した単位、外部検定試験、編入学・転学部等による前籍での修得単位は、認定で表記(中国・四国国立大学工学系学部間単位互換協定に基づくものは除く)
- 4) 転学科・転コース時における前籍の成績は、その評点を引き継いで表記

評価基準: A+ (100~90点), A (89~80点), B (79~70点), C (69~60点), F (59点以下)

#### ⑤ 成績の通知について

##### 1) 学生への通知

各期の成績は、学期末に各自学務システムのホームページ上で確認します。  
日時及び方法は掲示等により確認してください。

URL = <http://kym.adm.okayama-u.ac.jp>

(学外からは、期間によりアクセス可能です。ただし、URLはその都度変更になります。)

##### 2) 保護者等への通知

本学では、保護者の方との連携により、学生の皆さんへの適切な修学指導を行うことを目的として、成績を保護者の方へ通知しています。(外国人留学生を除く)

1年次生: 前期(9月), 後期(3月)の年2回

2年次生以降: 後期(3月)の年1回

なお、特段の理由により保護者への成績通知を希望しない場合は、7月末(2年次生以降は1月末)までに学務課工学部担当まで申し出てください。学部で審査のうえ、結果をお知らせします。

\*特段の理由とは、1) 企業等を退職した年配の学生、2) 社会人学生、3) 両親がいないといった場合等で、成績を通知すべき適当な対象がない学生及び4) その他保護者への成績通知をすることが適当でない特段の事情がある学生に限るものとする。

#### (4) 単位認定の制度

工学部へ入学、他学部から転学部、工学部内で転学科・転コースした場合、前籍での修得単位を認定する制度があります。また、在学中に他大学等で修得した単位及び外部検定試験の成績による単位の認定制度もあります。

単位の認定は、いずれも願い出に基づき工学部教授会の議を経て行い、結果は別途、学務課工学部担当において通知します。

##### 1) 1年次へ入学した者

入学前に大学(外国の大学を含む。)若しくは短期大学(外国の大学を含む。)で修得した単位があり単位認定を希望する場合は、入学後に所定の様式に成績証明書及び修得科目の講義要項等を添えて、学務課工学部担当へ願い出ること。提出期限については、別途掲示等により指示します。

**② 転学部した者**

出願書類（成績証明書）及び出身学部への照会等により行うので、改めて単位認定を願い出る必要はありません。

**③ 転学科・転コースした者**

前籍の成績を引き継ぎますので、改めて単位認定を願い出る必要はありません。

**④ 第3年次編入学者**

出願書類（成績証明書）、その他指示する書類及び単位認定試験により、単位認定を行う。教養教育科目は、原則として当該学科の卒業要件単位数を修得したものとして認定する。

**⑤ 他大学等の単位を工学部在学中に修得した者**

他大学等の授業を履修する前に、所定の様式により所属学科の承認を得て学務課工学部担当へ願い出てください。その後、本学と当該大学等との協議の成立が得られた場合に限り、履修が許可されます。

当該大学等での単位修得後、所定の様式に単位修得証明書等を添えて、学務課工学部担当へ願い出てください。

**⑥ 外部検定試験による単位認定を希望する者**

次表に示す基準に該当する者で単位認定を希望する場合は、スコアシートを持って学務課工学部担当へ願い出てください。受付期間及び単位認定予定日等は、年度初めに掲示によりお知らせします。

平成25年度以降入学者適用

外国語の種別	認定の対象とする 外部検定試験	単位認定基準	単位認定の対象とする 授業科目の範囲	認定可能な 単位数の上限
英 語	TOEIC 又はTOEIC IP	800点以上	総合英語5	3単位まで
	実用英語技能検定(英検)	1級		
	国際連合公用語英語検定試験(国連英検)	A級		
	TOEFL PBT 又はTOEFL ITP	570点以上		
	TOEFL iBT	89点以上		
	TOEIC 又はTOEIC IP	700点以上	総合英語5	2単位まで
	TOEFL PBT 又はTOEFL ITP	540点以上		
	TOEFL iBT	74点以上		
	TOEIC 又はTOEIC IP	650点以上	総合英語5	1単位まで
	実用英語技能検定(英検)	準1級		
ドイツ語	国際連合公用語英語検定試験(国連英検)	B級		
	TOEFL PBT 又はTOEFL ITP	520点以上		
	TOEFL iBT	68点以上		
	ドイツ語技能検定試験(独検)	3級以上	ドイツ語初級I(文法) ドイツ語初級I(読本) ドイツ語初級II(文法) ドイツ語初級II(読本) ドイツ語初級I(総合) ドイツ語初級II(総合) ドイツ語中級	8単位まで
			ドイツ語初級I(文法) ドイツ語初級I(読本) ドイツ語初級II(文法) ドイツ語初級II(読本) ドイツ語初級I(総合)	
			ドイツ語初級I(文法) ドイツ語初級I(読本)	
フランス語	実用フランス語技能検定試験(仏検)	3級以上	フランス語初級I(文法) フランス語初級I(読本) フランス語初級II(文法) フランス語初級II(読本) フランス語初級I(総合) フランス語初級II(総合) フランス語中級	8単位まで
			フランス語初級I(文法) フランス語初級I(読本) フランス語初級II(文法) フランス語初級II(読本) フランス語初級I(総合)	
			フランス語初級I(文法) フランス語初級I(読本)	

平成25年度以降入学者適用

外国語の種別	認定の対象とする 外部検定試験	単位認定基準	単位認定の対象とする 授業科目の範囲	認定可能な 単位数の上限
中國語	漢語水平考試（HSK） (筆記試験のみ)	3級以上	中国語初級I (文法) 中国語初級I (読本) 中国語初級II (文法) 中国語初級II (読本) 中国語初級I (総合) 中国語初級II (総合) 中国語中級	8単位まで
		2級	中国語初級I (文法) 中国語初級I (読本) 中国語初級II (文法) 中国語初級II (読本) 中国語初級I (総合)	4単位まで
		1級	中国語初級I (文法) 中国語初級I (読本)	2単位まで
韓国語	韓国語能力試験	2級以上	韓国語初級I (文法) 韓国語初級I (読本) 韓国語初級II (文法) 韓国語初級II (読本) 韓国語初級I (総合) 韓国語初級II (総合) 韓国語中級	8単位まで
		1級	韓国語初級I (文法) 韓国語初級I (読本) 韓国語初級II (文法) 韓国語初級II (読本) 韓国語初級I (総合)	4単位まで
スペイン語	スペイン語技能検定	4級以上	スペイン語初級I (総合) スペイン語初級II (総合) スペイン語中級	8単位まで
		5級	スペイン語初級I (総合) スペイン語初級II (総合)	4単位まで
イタリア語	実用イタリア語検定	3級以上	イタリア語初級I (文法) イタリア語初級I (読本) イタリア語初級II (文法) イタリア語初級II (読本) イタリア語中級	8単位まで
		4級	イタリア語初級I (文法) イタリア語初級I (読本) イタリア語初級II (文法) イタリア語初級II (読本)	4単位まで
		5級	イタリア語初級I (文法) イタリア語初級I (読本)	2単位まで

備考 1 成績評価の評語は、「認定」とする。

- 2 一の授業科目について、同一科目名の繰り返し履修が可能な授業科目を除いて、重複して単位認定を行うことはできない。
- 3 既に単位を修得済みの授業科目について、同一科目名の繰り返し履修が可能な授業科目を除いて、重複して単位認定を行うことはできない。

**平成25年度以降入学者適用**

海外語学研修の実施機関	単位認定基準	単位認定の対象とする授業科目の範囲	認定可能な単位数の上限
南オレゴン大学	南オレゴン大学の成績評価がD（下級）以上	・教養教育科目外国語科目的英語科目のうち、総合英語1～5を除く全ての授業科目 ・専門教育科目のうち、各学部が認める授業科目	2単位まで
アデレード大学	アデレード大学の成績評価がD以上	・教養教育科目外国語科目的英語科目のうち、総合英語1～5を除く全ての授業科目 ・専門教育科目のうち、各学部が認める授業科目	4単位まで
エクセター大学 (INTO エクセター大学)	エクセター大学 (INTO エクセター大学) の全ての成績評価項目が Satisfactory 以上で、かつ、最終試験結果が60%以上	・教養教育科目外国語科目的英語科目のうち、総合英語1～5を除く全ての授業科目 ・専門教育科目のうち、各学部が認める授業科目	4単位まで
ルール大学ボーフム	ルール大学ボーフムの成績評価が60点以上	・ドイツ語中級 ・専門教育科目のうち、各学部が認める授業科目	4単位まで
成均館大学校	成均館大学校の初級1クラスにおいて、成績評価が60点以上	韓国語初級II（文法） 韓国語初級II（読本）	4単位まで
	成均館大学校の初級2クラス以上のクラスにおいて、成績評価が60点以上	韓国語中級 韓国語初級II（総合）	4単位まで
上海理工大学	上海理工大学の成績評価が60点以上	中国語中級	2単位まで
吉林大学	吉林大学の初級1クラスにおいて、成績評価が60点以上	中国語初級II（文法） 中国語初級II（読本）	4単位まで
	吉林大学の初級2クラス以上のクラスにおいて、成績評価が60点以上	中国語中級 中国語初級II（総合）	4単位まで
首都師範大学	首都師範大学の初級1クラスにおいて、成績評価が60点以上	中国語初級II（文法） 中国語初級II（読本）	4単位まで
	首都師範大学の初級2クラス以上のクラスにおいて、成績評価が60点以上	中国語中級 中国語初級II（総合）	4単位まで

備考 1 成績評価の評語は、「認定」とする。

- 2 一の授業科目について、同一科目名の繰り返し履修が可能な授業科目を除いて、重複して単位認定を行うことはできない。
- 3 既に単位を修得済みの授業科目について、同一科目名の繰り返し履修が可能な授業科目を除いて、重複して単位認定を行うことはできない。